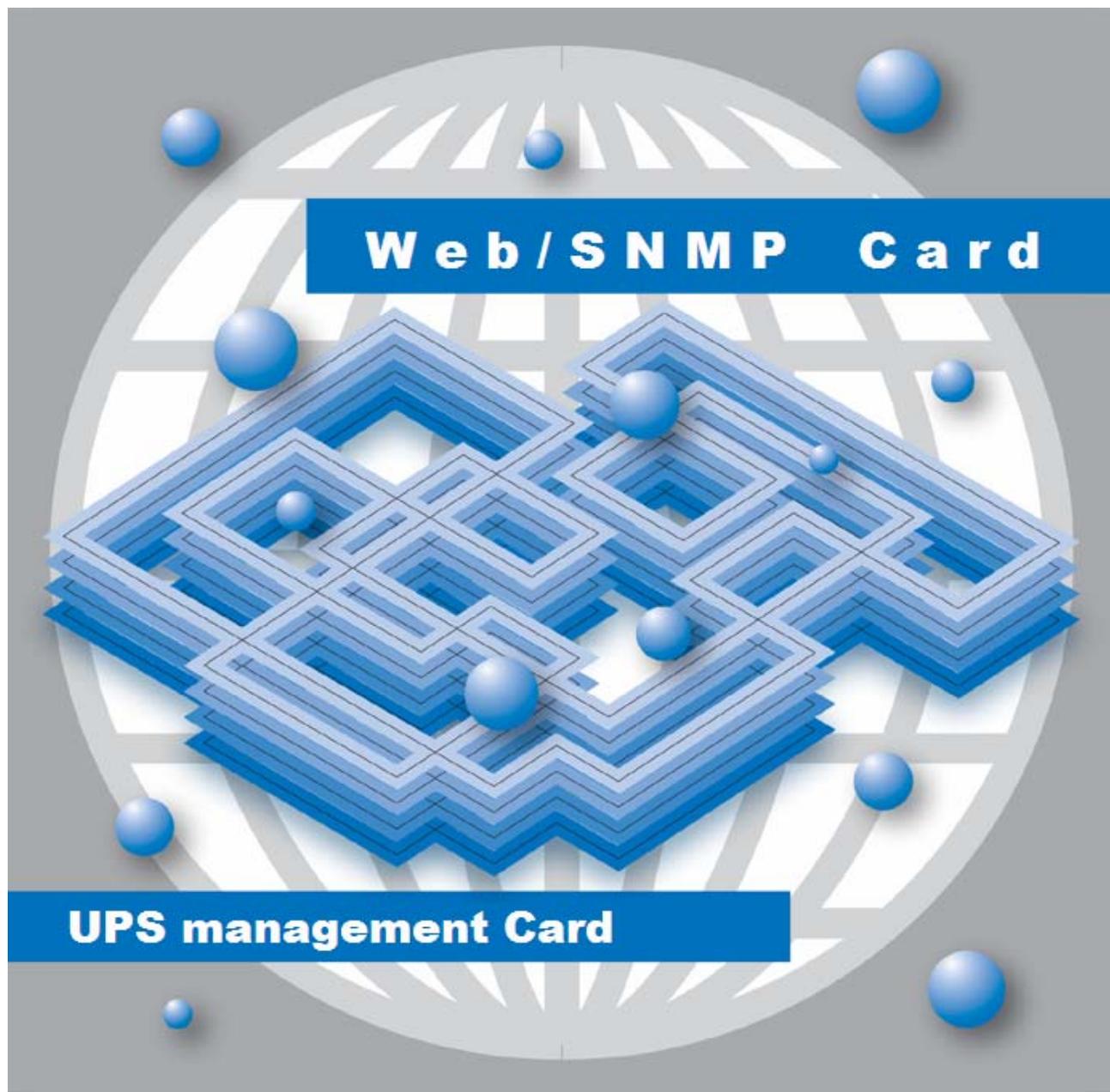




ネットワーク対応 UPS 管理/モニタカード



Web/SNMPカード

EX100 シリーズ用ユーザーズガイド

警告表示について

本書では安全上の注意点を、以下のマークとともに表示しています。

 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡する可能性、又は重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、及び物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。
重要	この表示は使用する時に注意して頂きたいことを示しています。

ハイセイフティ用途について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途(以下「ハイセイフティ用途」という)に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないで下さい。

電波障害の防止について

本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)が制定するクラス A 情報装置に対する規制条件に準拠しています。この規制条件は、商工業地域におけるデータ処理装置、及び事務用電子機器に電波妨害を発生しないように定められています。

従って、住宅地域またはその隣接した地域でご使用になると、ラジオやテレビジョン受信機等に電波妨害を発生させる原因となることがあります。この場合には、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

使用許諾条項

本製品をご使用になる前に、下記の使用条件をよくお読み下さい。
ご使用になられた時点で、下記使用条件に同意して富士電機株式会社(以下「富士電機」といいます。)との間で契約が成立したものとさせていただきます。

1. 本製品およびその複製物に関する権利はその内容により富士電機または富士電機への提供者に帰属します。
2. 富士電機は、本製品のユーザ(以下「ユーザ」といいます。)に対し、本製品に対応する富士電機製品を利用する目的で本製品を使用する非独占的権利を許諾します。
3. 富士電機および富士電機への提供者は、本製品がユーザの特定の目的のために適当であること、もしくは有用であること、または本製品に瑕疵がないこと、その他製品に関していかなる保証もいたしません。
4. 富士電機および富士電機への提供者は、本製品の使用に付随または関連して生ずる直接的または間接的な損失、損害等について、いかなる場合においても一切の責任を負いません。
5. 本製品の使用による金銭上の損害、損失利益につきましては一切その責任を負いません。
6. 本製品の誤記等により生じた損害及び付随的損害については一切その責任を負いません。
7. ユーザは、日本国政府または該当国の政府より必要な許可等を得ることなしに、本製品の全部または一部を、直接または間接に輸出してはなりません。
8. 富士電機は、本製品について第三者からなされるいかなる権利主張に対しても一切その責任を負いません。
9. ユーザが、本契約に違反した場合には、本契約は直ちに終了するものとします。本契約の終了後は、ユーザは、本製品を使用してはいけません。
10. 富士電機は、改良のため、本製品の内容を予告なく変更することがあります。

目次

第1章 Web/SNMPカードの特徴.....	1
1.1. Webによる機能の充実.....	1
1.2. SNMPエージェント機能.....	1
1.3. Netshut (ネットワークシャットダウンソフト)によるマルチサーバシャットダウン機能.....	1
1.4. APIによるコマンドインタフェース.....	1
1.5. 100BASE-TX に対応.....	1
1.6. Power-SOL UPSドメインコントローラに対応.....	1
第2章 システム構成例.....	2
第3章 Webインタフェース.....	9
3.1. Webモニタ画面の呼び出し.....	10
3.2. 画面構成.....	12
3.2.1. 上フレーム.....	12
3.2.2. 左フレーム.....	13
3.2.3. 右フレーム.....	15
3.3. モニタ画面.....	16
3.4. UPS管理画面.....	20
3.4.1. IPアドレス設定.....	20
3.4.2. 一般設定画面.....	24
3.4.3. ユーザ設定画面.....	26
3.4.4. SNMP設定画面.....	29
3.4.5. 設備管理情報の設定.....	33
3.4.6. PowerSOLDメインの設定.....	35
3.4.7. telnet/rsh/ssh設定.....	37
3.4.8. WOL設定.....	42
3.4.9. e-mail通知設定画面.....	44
3.4.10. 停止動作(停電)設定画面.....	46
3.4.11. 停止動作(イベント)設定画面.....	55
3.4.12. 停止動作(シリアル)設定画面.....	60
3.4.13. シリアルでのOSシャットダウン.....	63
3.4.14. コンソール送受信データ設定画面.....	65
3.4.15. OS Shutdown設定画面.....	69
3.4.16. イベント通知設定画面.....	72
3.4.17. 時刻設定画面.....	74
3.4.18. ユーザ名/パスワードの設定画面.....	76
3.5. イベントログ.....	78
3.6. データログ.....	85
3.7. UPSスケジュール設定.....	88
3.7.1. 毎日のスケジュール.....	95
3.7.2. 毎週のスケジュール.....	99
3.7.3. 指定日のスケジュール.....	102
3.7.4. スケジュールデータの優先順位.....	105
3.8. 拡張コマンド.....	106

3.8.1. UPS操作	107
3.8.2. UPS設定	129
3.9. 設定ファイル	131
3.9.1. 設定ファイルのアップロード機能	132
3.9.2. 設定ファイルのアップロード手順	132
3.9.3. 設定ファイルのダウンロード機能	136
3.9.4. 設定ファイルのダウンロード手順	136
3.9.5. スケジュール設定ファイルのアップロード機能	138
3.9.6. スケジュール設定ファイルのアップロード手順	138
3.9.7. スケジュール設定ファイルのダウンロード機能	141
3.9.8. スケジュール設定ファイルのダウンロード手順	141
3.10. Language	143
3.10.1. Languageファイルのアップロード手順	144
3.11. ファームウェアアップデート	147
3.11.1. アップデートファイルのアップロード	148
3.11.2. ファームウェアのアップデート	149
3.11.3. ファームウェアのアップデートの終了	150
3.11.4. リブート	151
第4章 SNMPインタフェース	152
4.1. 設定方法	153
第5章 FAQ	174
5.1. Webモニタ画面が表示されない。	174
5.2. 左フレームに“ユーザ名、またはパスワードが間違っています”と表示される	174
5.3. 左フレームに“既に他のユーザがログインしています”と表示される。	174
5.4. Web/SNMPカードのIPアドレスを確認したい場合。	175
5.4.1. 停止動作(シリアル)設定「なし」または「接点(Windows)」選択時	175
5.4.2. 停止動作(シリアル)設定「コンソール」選択時	178
5.4.3. 停止動作(シリアル)設定「コンソール」選択時のコンソールでのネットワーク設定	179
5.5. 設定したUPS出力停止遅延時間後にUPSの出力が停止しない。	181
5.6. 設定した起動時間にUPSが起動しない。	181
5.7. OSシャットダウン信号の発行遅延時間が設定できない。	181
5.8. ネットワーク機器とのLINK DOWNが頻発する	182
第6章 用語説明	183

第1章 Web/SNMPカードの特徴

1.1. Webによる機能の充実

- イベント発生時のメール等によるユーザへの通知設定
- データ及びイベントのロギング表示及び保存
- UPS 運転状況や状態値の取得及び表示
- バッテリテスト, 停止, 再起動等の実行や UPS 動作パラメータの設定/取得
- スケジューリングによるシャットダウン/リブート
- Web/SNMPカードのファームウェアアップデート

1.2. SNMPエージェント機能

- HP OpenView 等の SNMP 管理ソフトによる UPS の管理
- イベント発生時のトラップの送信
- SNMP による UPS の停止/起動等の操作
- Systemwalker, ServerView との連携

1.3. Netshut(ネットワークシャットダウンソフト)によるマルチサーバシャットダウン機能

- Netshut(ネットワークシャットダウンソフト)によるマルチサーバシャットダウン

1.4. APIによるコマンドインタフェース

- TCP/IP でのコマンドインタフェース
- GUI での UPS 停止・起動コマンドを用意

1.5. 100BASE-TX に対応

- Ethernet:10BASE-T,100BASE-TX 自動認識

1.6. Power-SOL UPSドメインコントローラに対応

以降、「PowerSOLドメイン」と記載します。

- PowerSOLドメインからの遠隔監視
- PowerSOLドメインからの接続機器管理

第2章 システム構成例

システム構成例を以下に示します。

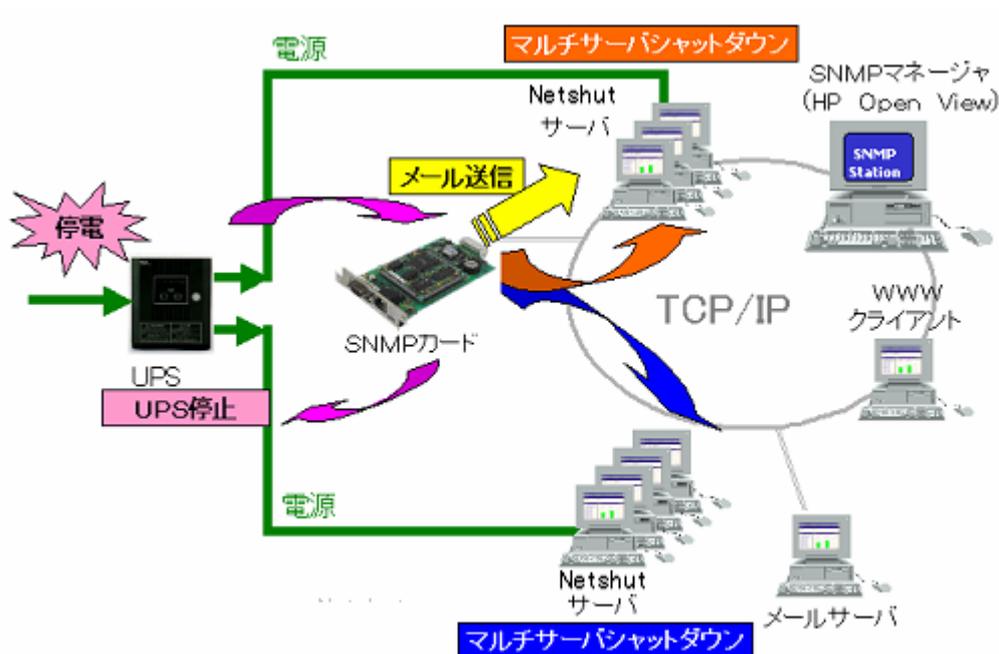


図 1 システム構成例

●WWWクライアントによるUPS、Web/SNMPカードの管理

標準の Web ブラウザ(以下、「ブラウザ」といいます)がインストールされているクライアント(以下、「WWW クライアント」といいます)は、ネットワーク に接続されているWeb/SNMPカードとそのカードが実装された UPS を管理することが可能です。WWW クライアントはWeb/SNMPカードが UPS から取得したイベントやデータの表示、UPS に対するコマンド(バッテリーテスト等)の発行、データ/イベント・ログ・ファイルの取得と表示、スケジューリングの設定等の作業を行うことが可能です。また、WWWクライアントはWeb/SNMPカードのIPアドレス等の設定とファームウェアのアップデートを行うことが可能です。

なお、Web/SNMPカードはWWWクライアントからWeb/SNMPカードに対して ping コマンドを送信した時に応答がある環境でのみ使用することができます。

●SNMPによるUPSの管理

Web/SNMPカードは SNMP エージェント機能を有しています。UPS 管理 MIB として、UPS-MIB(RFC1628),JEMA-MIB に対応しており、HP OpenView 等の SNMP 管理ソフトをインストールした SNMP マネージャによるUPSの管理が可能です。停電等のイベント発生時には、指定したIPアドレスの SNMP マネージャにトラップを利用して異常イベントの発生を知らせることができます。トラップはポーリングを待たずにエージェントからマネージャに情報が送信されますので、マネージャにおいてイベント発生時刻の記録を可能にします。

●Netshut によるマルチサーバシャットダウン

Netshut は、同一ネットワーク(TCP/IP)上に存在する複数台のサーバの OS シャットダウンを可能にします。UPS の出力に複数台のサーバを接続しており、各サーバが同一ネットワーク上に存在する場合、各サーバに Netshut をインストールしてサービス(デーモン)として実行することで、それらのサーバを UPS の出力と連動してシャットダウンすることができます。Web/SNMPカードの各サーバへのシャットダウンの設定は WWW クライアントから可能です。

●コマンドインタフェース

TCP/IP レベルで以下のコマンドを受信することにより UPS の制御が可能です。GUI 操作を伴わない自動化プログラムへの対応を可能にします。

- UPS 出力停止コマンド
- UPS 起動コマンド
- UPS 停止&時刻指定起動コマンド

コマンドの組み合わせでより高度な電源管理システムの構築を手助けいたします。

UPS にWeb/SNMP カードを実装して機器の電源保護システムを構築するにあたり注意点を列記いたします。

1) UPSの負荷がサーバやパソコンの場合

対象のサーバやパソコンには本製品に添付している CD-ROM から「Netshut」をインストールしてサービス(デーモン)として実行してください。「Netshut for Linux」のインストールは、CD-ROM の¥Netshut¥Linux¥ディレクトリ以下にディストリビューション対象のパッケージをインストールしてください。「Netshut for Linux」のインストール方法詳細については、Netshut インストールガイドを参照してください。UPS が停電検出時Web/SNMPカードは Netshut のシャットダウン信号を使い OS シャットダウンを実行し、電源断によるダーティシャットダウンを防止します。この時、Web/SNMPカードはシャットダウン信号を TCP/IP 経由で発行するため、対象サーバやパソコンの LAN のポートまでの通信路が確保されていることが必要です。Web/SNMPカードとサーバやパソコンの間にハブ等のネットワーク機器がある場合には、これらのネットワーク機器の電源をバックアップする事が必要です。

2) UPSの負荷がHDD、ネットワーク機器の場合

停電時これらの機器に接続しているサーバやパソコンがデータ退避処理する時間を確保する必要があります。サーバやパソコン側の停電検出から OS シャットダウン終了にかかる時間を考慮して、UPS の容量を選定することが肝要です。

この用途の UPS では、Web より下記設定を行って下さい。

(1) 停電時の設定

3.4.10停止動作(停電)設定画面において、停電検出時UPS出力停止のチェックをして下さい。UPS出力停止遅延時間は、停電検出からOSシャットダウン終了にかかる時間に対して十分長い時間を設定して下さい。

(2) イベント発生時の設定

①UPS の負荷が HDD の場合

3.4.11停止動作(イベント)設定画面において、イベント発生時UPS出力停止のチェックボックスをチェックして下さい。UPS出力停止遅延時間は、イベント発生からOSシャットダウン終了にかかる時間に対して十分長い時間を設定して下さい。

②UPS の負荷がネットワーク機器の場合

3.4.11停止動作(イベント)設定画面において、イベント発生時UPS出力停止のチェックをはずして下さい。

3) サーバやパソコンのシャットダウンに連動してUPSの出力を停止させたい

停電やイベント発生時はWeb/SNMPカードから、電源供給しているサーバやパソコンにシャットダウン信号を発行しますが、逆にサーバやパソコンのシャットダウン操作で電源を供給しているUPSの出力を連動して止める事ができます。

シャットダウン開始バッチコマンド(スクリプト)内で「遅延時間付き停止コマンド(API)」を実行することで実現できます。

「遅延時間付き停止コマンド(API)」の詳細は本製品に添付しているCD-ROMの¥Tools¥Netshutcmd¥(対応OS)¥Netshutcmdファイルをご使用下さい。

UPSとWeb/SNMPカードは下記のようなシステムを構築するために適用下さい。

Web/SNMPカードはUPSとの通信インタフェースを内蔵し状態の取得、UPSを制御するためのコマンドのインタフェースを提供いたします。Web/SNMPカードはhttpd(Webサーバ)、SNMPエージェント、e-mailクライアント、Netshut機能を有しており、機能の選択により、多彩な運用に適用可能となっております。

システム	Web機能	SNMP機能	Netshut機能	API機能
UPSの状態をモニタリングしたい	○	○		
停電時サーバ、パソコンのOSシャットダウンしたい	○		○	
停電時のUPS動作時間、バックアップ時間を変更したい	○			
1台のUPSから電源を共通に受けている全てのサーバを停電時にシャットダウンしたい	○		○	
UPSの状態をOpenViewで監視したい		○		
UPSの異常をリアルタイムに知りたい(SNMPトラップ)		○		
UPSの異常を管理者に知らせたい(e-mail)	○			
サーバ、パソコンを一日のうちの一定時間だけ動かしたい。 UPSの停止、起動を自動で行いたい。	○		○	
電源変動のログを見たい。 また、ファイルに保存したい	○			
UPSの動作(イベント)のログを見たい。 また、ファイルに保存したい	○			
UPSの動作をテストしたい。	○			
UPSの設定を変更したい。	○			
UPSの運転・停止を制御したい。	○			○
Windowsに標準搭載されているUPS管理サービスを使用したい。	○			○
*サーバをシャットダウンした時、UPSも連動して停止したい				○
*1台のサーバをシャットダウンした時、他のサーバも連動してシャットダウンし、その後UPSを停止したい			○	○

* 部説明

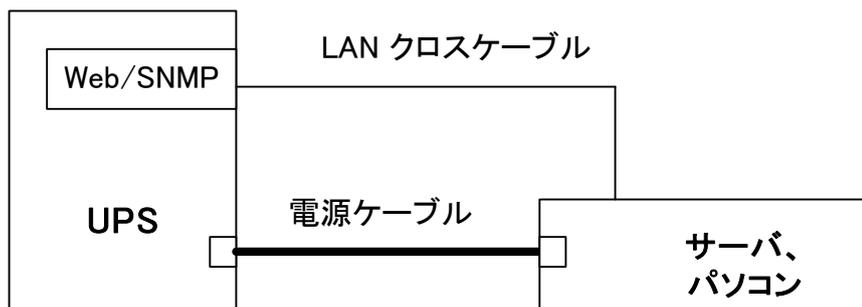
停電時以外のサーバのシャットダウン動作を引き金にするシステム

システム構成例(サーバとWeb/SNMP カードの接続)を示します。

1) UPSとサーバを1対1で接続する

サーバを基幹ネットワークに接続しない場合、又はサーバに2枚の LAN カードが実装されていてローカル側のネットワークにWeb/SNMPカードを接続する場合。

- ・ サーバとUPS 間の通信トラフィックを基幹ネットワークと分離する用途
- ・ UPS とサーバが直結なので停電検出時に確実に信号伝達可能

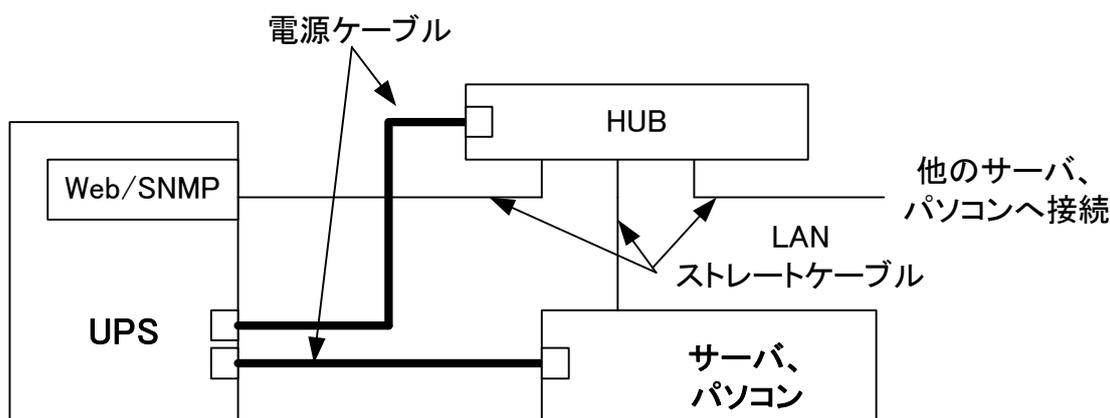


UPSとサーバが1対1接続(直結)

2)UPSとサーバをネットワークハブ経由で1対1接続する(1)

サーバとHUB(ネットワークハブ)の電源を同一UPSから供給する場合。

- ・ 停電時においてもUPSからHUBに電源が供給されているので、ネットワーク経由でのサーバのOSシャットダウンが可能。
- ・ UPSの出力がOFFの時は、ネットワーク経由での起動(Wake-Up)は不可。

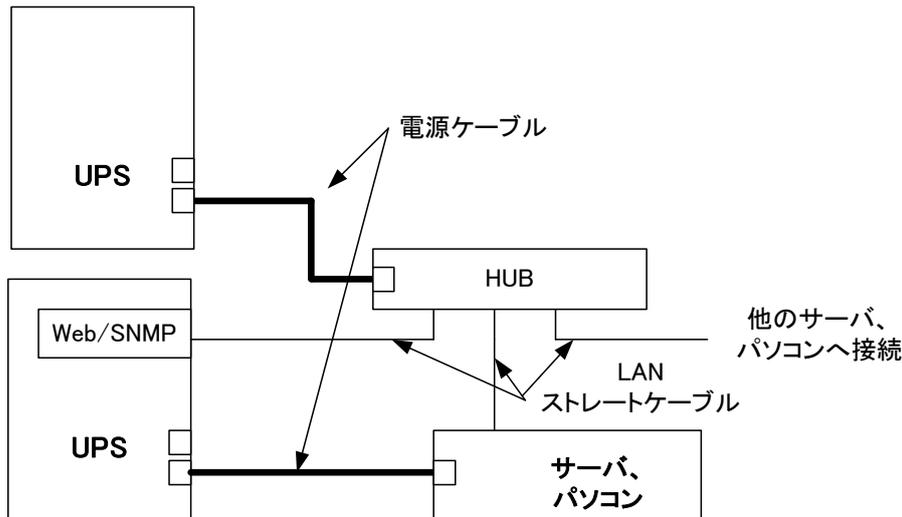


UPSとサーバが1対1接続(ハブ経由接続)1

3) UPS とサーバをネットワークハブ経由で 1 対 1 接続する(2)

2)と同様であるが、HUB の電源はサーバが接続されている UPS とは異なる UPS から供給する場合。

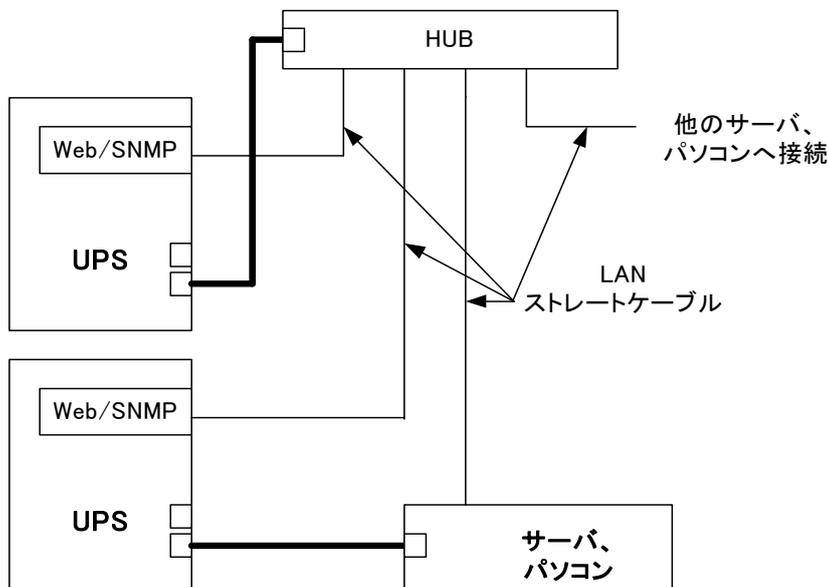
- HUB が接続されている UPS の出力が ON であれば、サーバが接続されている UPS の出力が OFF の時でも Web/SNMP カードを使用してネットワーク経由でサーバが接続されている UPS の起動が可能。
- 停電時に、HUB 用 UPS のバックアップ時間がサーバ用 UPS のバックアップ時間より大きくなるように HUB 用 UPS を選定する必要有り。



UPSとサーバが1対1接続(ハブ経由接続)2

4) UPS とサーバをネットワークハブ経由で 1 対 1 接続する(3)

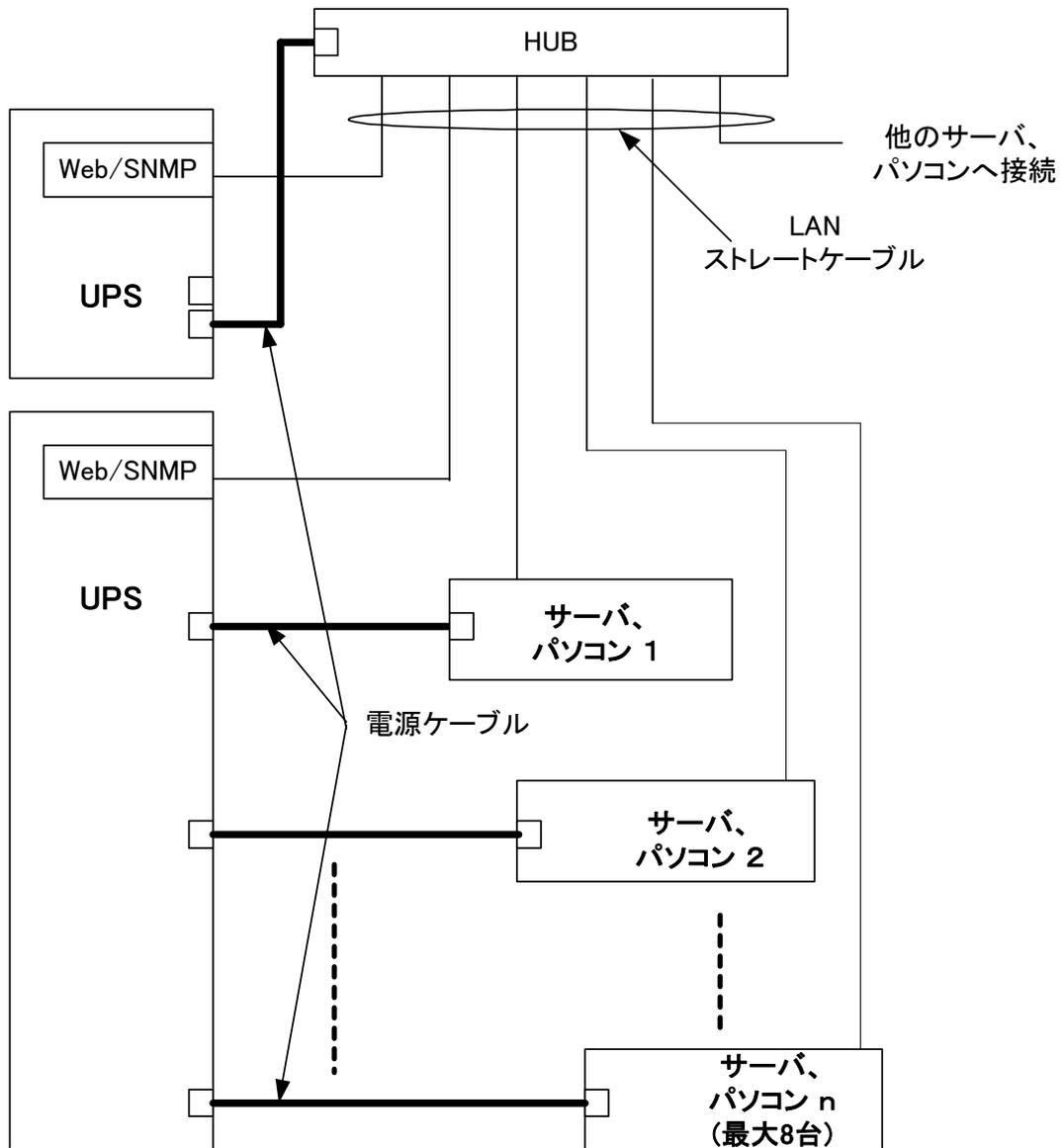
3)と同様であるが、HUB 用の UPS に Web/SNMP カードが実装され、ネットワークに接続されているため、HUB 用の UPS のモニタリングが可能。



UPSとサーバが1対1接続(ハブ経由接続)3

5)UPS1台に複数のサーバを接続する

1台のUPS の出力に複数のサーバを接続する場合(サーバは最大 8 台接続まで)各サーバに Netshut をインストールしておき、停電、スケジュール停止時にWeb/SNMPカードから OS のシャットダウン指示を行います。



UPSとサーバが1対n接続(ハブ経由接続)

第3章 Webインタフェース

Web インタフェースでは以下の機能が使用可能です。

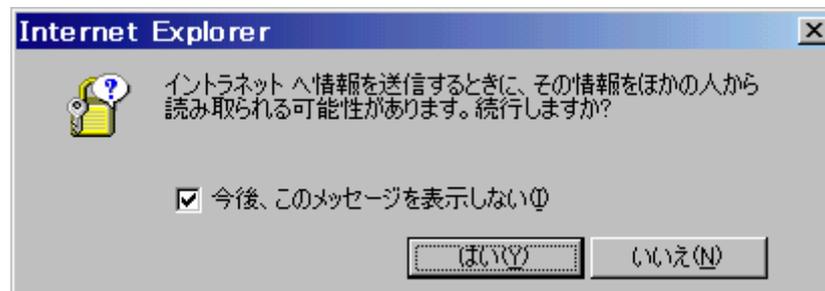
- ネットワークの設定
- 状態モニタリング
- スケジュール管理
- イベントログ、データログの表示と保存
- UPS の操作
- Web/SNMPカードのファームウェアアップデート

重要

- Web インタフェースを使用する際には、お使いのブラウザを最大化にしてください。
- 設定変更時や UPS 操作時に、ブラウザのサイズ変更は行わないで下さい。
- ブラウザの“戻る”ボタンや Backspace キーで画面の切り替えは行わないで下さい。

重要

- Internet Explorer のセキュリティレベルを中以上に設定しているときに表示される情報送信の確認画面は、“今後このメッセージを表示しない”にチェックを入れて選択し使用してください。



今後このメッセージを表示しないにチェックを入れて、“はい(Y)”を選択すると以後このメッセージは表示されません。

- ブラウザがインストールされているWWWクライアントからネットワーク に接続されている Web/SNMPカードとそのカードが実装されたUPSを管理するためには、WWWクライアントからWeb/SNMPカードに対してpingコマンドを送信した時に応答がある環境で使用する必要があります。

3.1. Webモニタ画面の呼び出し

Web モニタ画面を表示するには、ブラウザが必要です。
推奨ブラウザは以下の日本語バージョンが対象となります。

- Internet Explorer 6, 7, 8 (Windows 版)
- Fire FOX 3.5 (Windows 版)

推奨ブラウザ以外での、動作は保証していません。

ブラウザのアドレス欄にWeb/SNMPカードの IP アドレスを直接入力し
Web モニタ画面を呼び出します。



Web/SNMPカードのURLを入力する。
→<http://Web/SNMPカードのIPアドレス/>

図 3-1 Web モニタ画面の呼び出し

Web/SNMPカードは電源投入後、約3分後に起動が完了してWeb モニタ画面の表示が可能となります。起動が完了する前にWeb モニタ画面を呼び出すと、下図の型式情報収集集中ですという画面が表示されますが、起動が完了すれば自動的にWeb モニタ画面が表示されます。

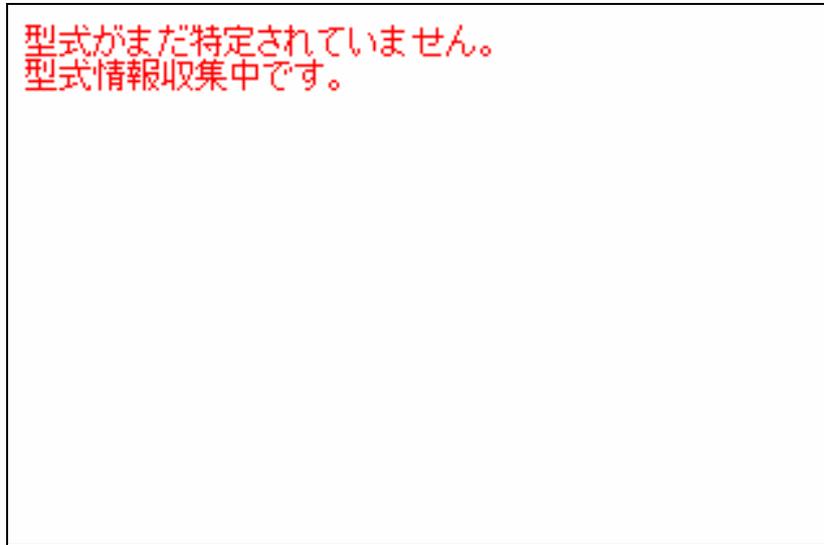


図 3-2 型式情報収集集中画面

3.2. 画面構成

Web 画面は 3 つのフレームで構成されます。

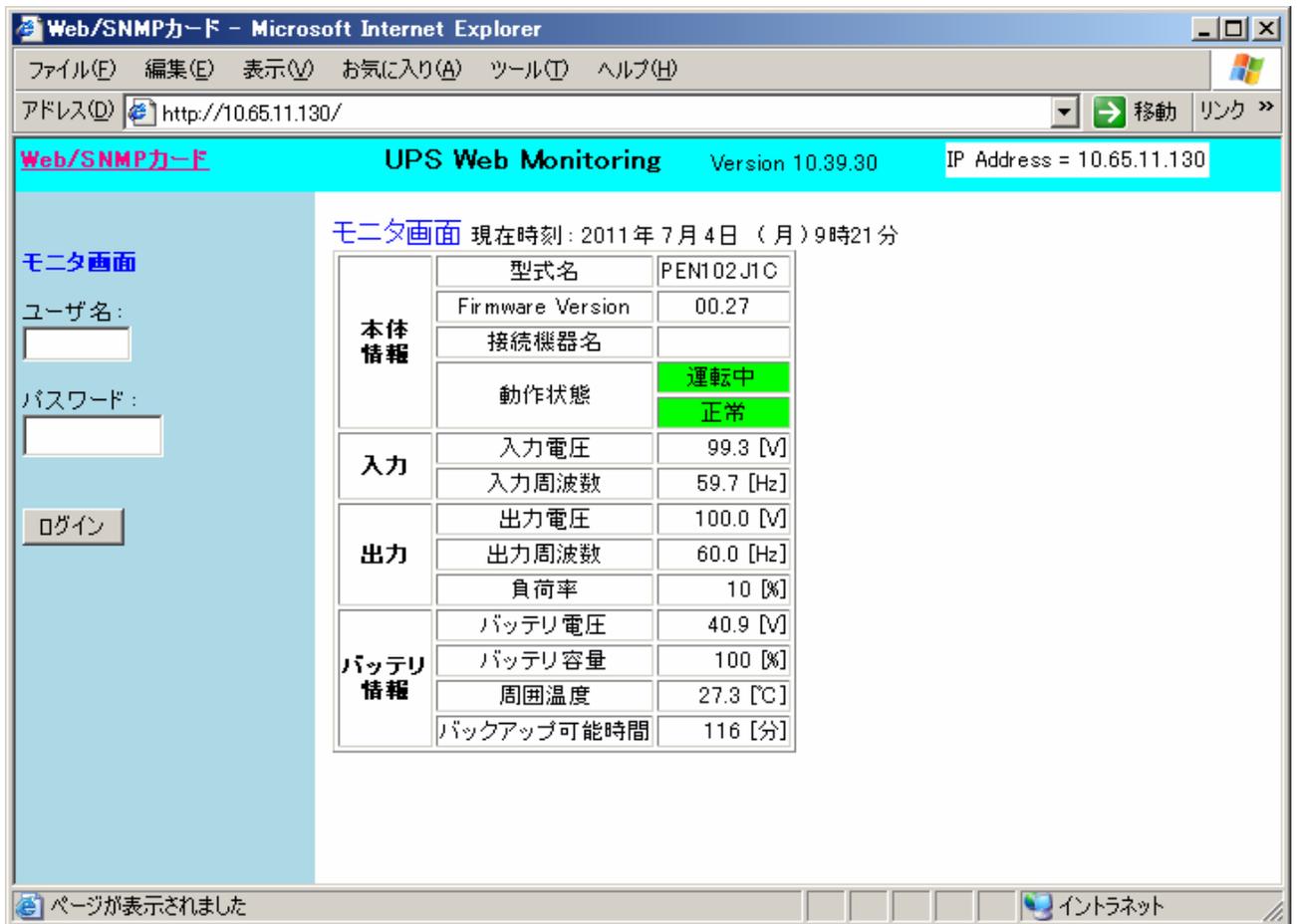


図 3-3 画面構成

3.2.1. 上フレーム

上のフレームには、Web/SNMPカードのファームウェアのバージョンと Web/SNMPカードの IP アドレスを表示します。



図 3-4 上フレーム

3.2.2. 左フレーム

左フレームにはログイン画面を表示します。ユーザ名とパスワードを入力することによってログインを行うことができます。ログイン後、このフレームに各設定画面へ移行するためのメニュー(リンク)を表示します。ユーザ名とパスワードは3.4.18ユーザ名/パスワードの設定画面で変更することが可能です。ブラウザからの Web モニタ画面の呼び出しについては、複数のユーザからの同時接続は可能ですが、ログインは単一ユーザのみです。誰かがログインしているときに、他のユーザがログインを試みた場合排他処理機能が働きログインを拒否いたします。

重要

- ユーザ名、パスワードのデフォルト設定はともに "FUJI"です。
- ログアウト実行は左フレームの“ログアウト”ボタンを選択して下さい。
- 左フレームの“ログアウト”ボタンを選択しないでブラウザを終了すると、排他処理によって [一般設定]の[オートログアウト時間]を経過しないと再度ログインできません。オートログアウト時間後にもう一度ログインして頂くか、Web/SNMPカードの RESET スイッチを押してWeb/SNMPカードを再起動(約 3 分要します)してください。
- 同時に多数のブラウザから画面の呼び出しアクセスがあった場合、通信速度が低下しブラウザが通信切断される可能性があります。最大同時接続数は 3 画面までを推奨します。

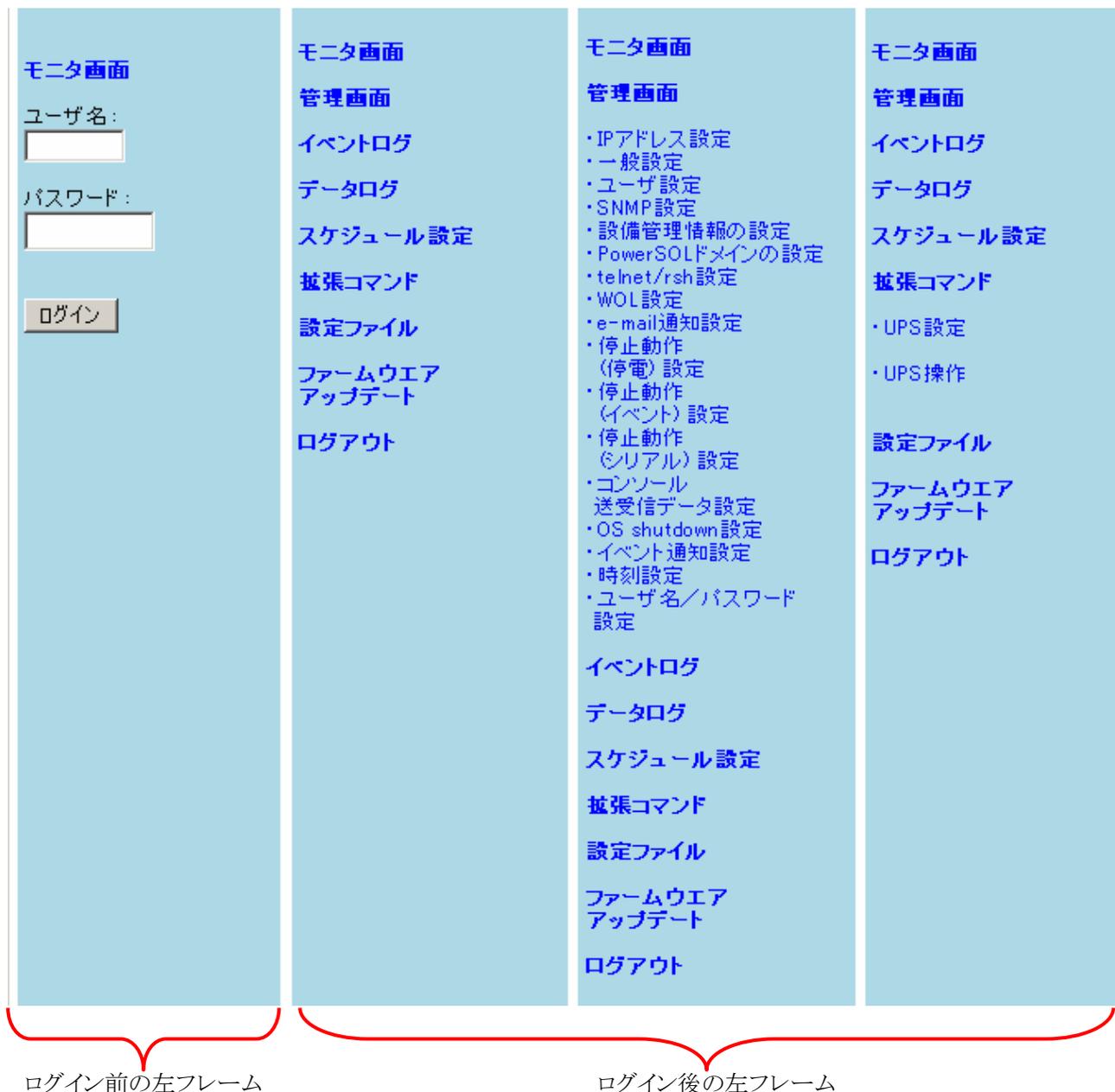


図 3-5 左フレーム

ログイン後に左フレームの[UPS 管理画面]や[拡張コマンド]リンクを選択すると、各設定項目(サブ項目)が表示されます。各設定項目(サブ項目)リンクが表示されている状態で、[UPS 管理画面]や[拡張コマンド]リンクを選択すると各設定項目(サブ項目)リンクが非表示になります。

UPS 管理画面や拡張コマンドの各設定項目(サブ項目)を表示すると、左フレームのメニューの一部が画面から隠れてしまいリンクが選択できない状態になることがあります。その場合は、[UPS 管理画面]や[拡張コマンド]の各設定項目(サブ項目)リンク選択を非表示にしてください。

3.2.3. 右フレーム

右フレームには、ログイン後の左フレームで各設定項目リンクを選択することにより、[モニタ画面]や各設定画面、UPS の操作画面を表示します。

右フレームの各画面は“設定”ボタンを選択するか、左フレームの項目のリンクを選択することによる画面の切り替えが無い場合、所定の経過時間で自動ログアウト致します。自動ログアウトする時間は[UPS 管理画面]の[一般設定]の[オートログアウト時間]で設定することができます。

3.3. モニタ画面

ブラウザのアドレス(場所)欄にWeb/SNMPカードのIPアドレスを入力すると[モニタ画面]を表示します。この画面はUPSの動作状態と状態値を表示します。ユーザアカウントを持っていない一般ユーザでもこの画面へのアクセスはできます。

UPSの動作状態と状態値は10秒周期で自動更新するので最新の状態をモニタリングできます。万が一、[モニタ画面]が自動更新されない場合や正常に表示されない場合は、ブラウザの“再読み込み”ボタン、または“更新”ボタンを選択してください。

UPS Web Monitoring		
Web/SNMPカード		Version 10.39.30
		IP Address = 10.65.11.130
モニタ画面 現在時刻: 2011年7月4日 (月) 9時21分		
本体情報	型式名	PEN102 J1C
	Firmware Version	00.27
	接続機器名	
動作状態	動作状態	運転中
		正常
入力	入力電圧	99.3 [V]
	入力周波数	59.7 [Hz]
	出力電圧	100.0 [V]
出力	出力周波数	60.0 [Hz]
	負荷率	10 [%]
	バッテリー電圧	40.9 [V]
バッテリー情報	バッテリー容量	100 [%]
	周囲温度	27.3 [°C]
	バックアップ可能時間	116 [分]

図 3-6 モニタ画面

各項目の説明を列記します。

①型式名

UPS の型式名称を表示します。

②Firmware Version

UPS のファームウェアのバージョンを表示します。

③接続機器名

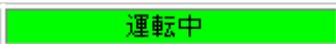
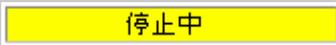
UPS が電源を供給している機器の名称等を表示します。

([UPS 管理画面]の[一般設定]で入力した名称)

④動作状態(運転状態)

UPS の運転状態を表示します。(上段)

運転状態として以下の4通りがあります。

No.	動作状態	表示色	ブラウザ表示
1	運転中	緑	
2	停止中	黄	
3	バイパス運転中	黄	
4	バックアップ運転中	赤	

⑤UPS 状態

UPS の状態を表示します。(下段)

状態として以下の10通りがあります。

No.	UPS 状態	表示色	ブラウザ表示
1	正常	緑	正常
2	故障	赤	故障
3	シリアル通信断	赤	シリアル通信断
4	バッテリーテスト異常	赤	バッテリーテスト異常
5	起動時入力異常	黄	起動時入力異常
6	過負荷	黄	過負荷
7	周囲温度異常	黄	周囲温度異常
8	停電中バッテリー電圧低下	黄	停電中バッテリー電圧低下
9	UPS 出力停止遅延中	黄	UPS出力停止遅延中
10	再起動待ち中	黄	再起動待ち中

⑥入力電圧

UPS に供給されている電源の電圧を表示します。

⑦入力周波数

UPS に供給されている電源の周波数を表示します。

⑧出力電圧

UPS が出力する電力の電圧を表示します。

⑨出力周波数

UPS が出力する電力の周波数を表示します。

⑩負荷率

UPS が出力する電力の定格容量に対する割合を表示します。

⑪バッテリー電圧

UPS のバッテリー電圧を表示します。

⑫バッテリー容量

UPS のバッテリーの充電容量を表示します。

⑬周囲温度

UPS の周囲温度を表示します。

⑭バックアップ可能時間

バックアップ可能な時間を表示します。バックアップ可能時間は予測値であり、バックアップ可能時間を保証するものではありません。

3.4. UPS管理画面

メニューの[UPS 管理画面]を選択すると詳細設定のメニューを表示します。

3.4.1. IPアドレス設定

メニューの[IP アドレス設定]を選択すると、右フレームに IP アドレス設定画面を表示します。

管理画面[IPアドレス設定]

MAC Address : **00:40:1a:33:00:55**

IP Address :

Subnet Mask :

Gateway Address :

SMTP IP Address :

Time Server IP Address :

ネットワークの死活監視を行う
 秒間、有効なパケットの受信が無い場合ネットワークのリセット(Link Down/Up)を行います

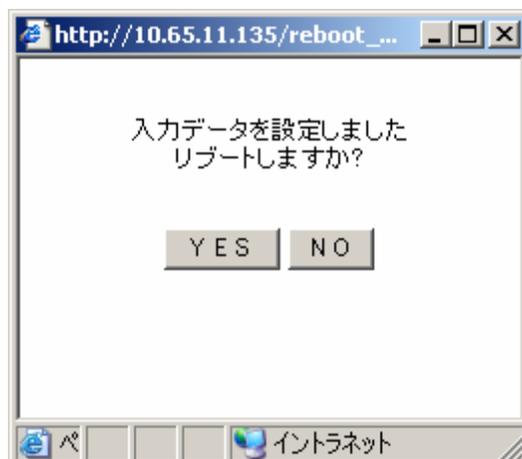
注)IPアドレスとサブネットマスク、ゲートウェイIPアドレスの変更はカードの再起動を行わないと反映されません。
これらの項目の変更時は、設定ボタンを押下後にレポートの問い合わせに対してOKをクリックしてカードの再起動を行って下さい。

図 3-7 IPアドレス設定画面

本画面ではWeb/SNMPカードのネットワークに関する設定を行います。

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われられないため注意してください。
- IP Address、Subnet Mask、Gateway Address はリブート後に設定が有効となります。



IP アドレス設定画面で“設定”ボタンを選択すると上記ポップアップウィンドウが表示され“YES”ボタンを選択するとWeb/SNMPカードはリブートを行い、変更した内容が反映されます。

“NO”ボタンを選択した場合は現在の設定が維持されますが、Web/SNMPカードのリブート(RESET スイッチを押して、Web/SNMPカードの電源 OFF/ON)を行うと変更した設定が有効となります。

- ブラウザでポップアップブロックが有効となっている場合は、上記ポップアップが表示されない事があります。ポップアップブロックを無効又は、Web/SNMP カードの設定画面 URL からのポップアップを許可する設定にしてください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われられないため再度“設定”ボタンを選択してください。
- IP Address 変更した場合、ブラウザは切断されます。
新しいIPアドレスをブラウザのアドレス(場所)欄に入力して再接続してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われられないため注意してください。

①MAC Address

Web/SNMPカードの MAC Address を表示します。(表示のみ)

②IP Address

設定されているWeb/SNMPカードの IP アドレスが表示されます。

変更したい場合は IP アドレスを入力して“設定”ボタンを選択してください。

“設定”ボタンを選択すると、リブート確認のポップアップウィンドウが表示され、設定を有効にするためにはポップアップウィンドウの”YES”ボタンを選択してWeb/SNMPカードをリブートする必要があります。

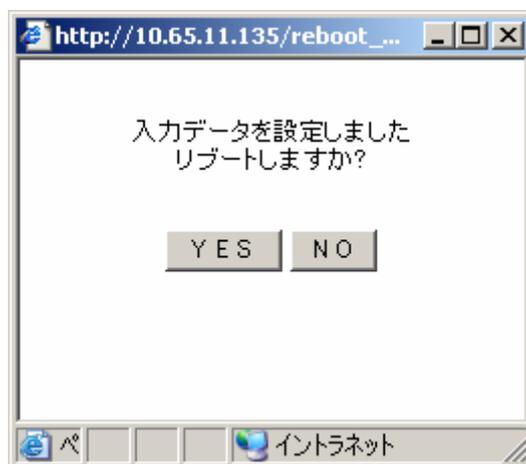


図 3-8 リブート確認ポップアップウィンドウ

“NO”ボタンを選択すると変更した設定内容は保存されますが、Web/SNMPカードをリブートするまで現在の設定内容が有効となり、リブート後に内容が反映されます。

IP アドレスを変更した場合は参照するWeb/SMMPカードのURLが変更されるため、ブラウザは切断されます。

変更後の IP Address をブラウザのアドレス(場所)欄に入力して再接続してください。

③サブネットマスク

UPS を設置するネットワーク環境に合わせたサブネットマスクの値を設定します。変更したい場合はサブネットマスクを入力して“設定”ボタンを選択してください。

サブネットマスクの設定も IP アドレスと同様にリブート後に有効となります。

④Gateway Address

UPS を設置するネットワーク環境に合わせた Gateway Address の値を設定します。変更したい場合は Gateway Address を入力して“設定”ボタンを選択してください。

Gateway Address の設定も IP アドレスと同様にリブート後に有効となります。

⑤SMTP IP Address

SMTP(メール)サーバのアドレスを設定します。メール送信を行う場合に必要となります。
変更したい場合はSMTP IP Address を入力して“設定”ボタンを選択してください。

SMTP IP Address の設定変更は“設定”ボタンを選択すると反映されます。
設定を有効にするためのリブートの必要はありません。

⑥Time Server IP Address

タイムサーバ(NTP)の IP Address を設定します。
NTP サーバから取得した時刻情報でWeb/SNMPカード内部の時計を自動補正します。
補正は2回/日で内部の時計が 11:45, 23:45 になった時に実行します。

Time Server IP Address を設定して NTP サーバによる時刻補正を推奨しますが、
NTPサーバを利用することができない場合は、**3.4.17時刻設定画面**を参照してWeb/SNMP
カードの時刻設定を行ってください。Web/SNMPカード内部の時計ICは水晶発振器を使用し
ておりますが、長時間連続使用で若干の時間のずれを生じます。月に1回程度、時刻の確認と、
ズレの補正の為に時刻設定を実施してください。

Time Server IP Address の設定変更は“設定”ボタンを選択すると反映されます。
設定を有効にするためのリブートの必要はありません。

⑦ネットワークの死活監視を行う

設定秒数の間、Web/SNMP カードにネットワーク通信(ブロードキャストを含む)が無い場合、ネッ
トワークのリセット(Link Down/UP)を行います。デフォルトは ON です。

⑧死活監視の時間

ネットワークの死活監視の時間を設定します。デフォルトは 60 秒です。

⑨設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

IP Address、Subnet Mask、Gateway Address の変更内容を有効にするためにはリブートを行う必
要があります。変更後の IP Address をブラウザのアドレス(場所)欄に入力して再接続してくださ
い。SMTP IP Address 、Time Server IP Address は、“設定”ボタンを選択すると変更内容が反映
されます。

⑩キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.2. 一般設定画面

メニューの[一般設定]を選択すると、右フレームに一般設定画面を表示します。

管理画面[一般設定]

型式名: **PEN102J1C**
接続機器名:
定格容量: **1000 VA**
定格出力: **800 W**

オートログアウト: 分間無操作の時、初期認証・モニタ画面に戻ります。

定格電圧

入力定格電圧	100 V
出力定格電圧	100 V

図 3-9 一般設定画面

本画面では一般的な各種情報の設定を行います

重要	
<ul style="list-style-type: none">• 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。 “設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。• 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。 このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。• オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。 その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。	

①型式名

UPS の型式を自動的に表示します。(表示のみ)

②接続機器名

UPS が電源を供給する機器の名称を入力します。

ここで入力された接続機器名は[モニタ画面]に表示されます。

全角 15 文字(31 半角文字)まで入力可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

③定格容量

UPS の定格負荷容量の値を表示します。(表示のみ)

④定格出力

UPS の定格出力の値を表示します。(表示のみ)

⑤オートログアウト

一定時間ブラウザに対してクリック等の操作を行わなかった場合、右フレームは [モニタ画面]を表示し、左フレームはログイン画面に戻ります。これをオートログアウトといい、操作がどれだけの時間なかった時にオートログアウトを行うか、その時間を選択します。デフォルトでは 10 分が設定されています。

⑥定格入力電圧設定

UPS の入力電圧値の定格電圧を表示します。(表示のみ)

⑦定格出力電圧設定

UPS の入力電圧値の定格電圧を表示します。(表示のみ)

⑧設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑨キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

⑩初期値ボタン

各入力値をデフォルト値に戻します。

定格負荷時のバックアップ可能時間のデフォルト値は UPS 毎に異なります。

定格電圧設定のデフォルト値は UPS 毎に異なります。

3.4.3. ユーザ設定画面

メニューの[ユーザ設定]を選択すると、右フレームにユーザ設定画面を表示します。

管理画面[ユーザ設定]

シリアル番号： GD422A0527

設置場所：

会社名：

部署名：

管理担当者名：

ご住所：

郵便番号：

電話番号：

FAX番号：

e-mail：

ここで設定された情報は、Web/SNMPカードからのe-mail送信時の署名データになります。
正確にご記入願います。

図 3-10 ユーザ設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。

本画面では、ユーザ情報の設定を行います。ユーザ情報はWeb/SNMPカードからのe-mail送信時の署名データになります。

①UPS シリアル番号(表示のみ)

UPS のシリアル番号を表示します。

②UPS 設置場所

UPS の設置場所を入力します。

全角30文字(半角60文字)まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

③会社名

会社名を入力します。

全角30文字(半角60文字)まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

④部署名

部署名を入力します。

全角30文字(半角60文字)まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑤UPS 管理担当者名

UPS 管理担当者の名前を設定します。

全角20文字(半角40文字)まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑥ご住所

住所を設定します。

全角30文字(半角60文字)まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑦郵便番号

郵便番号を設定します。半角10文字まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑧電話番号

電話番号を設定します。半角文字20文字まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑨FAX 番号

FAX 番号を設定します。半角20文字まで入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑩e-mail

管理者の e メールアドレスを設定します。半角40文字まで入力が可能です。
半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。
ここに入力されたメールアドレスは、署名データに記述するメールアドレスです。
異常時に送信されるメールアドレスではありません。実際に送信するメールアドレスは
3.4.9e-mail通知設定画面を参照して下さい。

⑪設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑫キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.4. SNMP設定画面

メニューの[SNMP 設定]を選択すると、右フレームに SNMP 設定画面を表示します。

管理画面[SNMP設定]

SNMPトラップ通知先の設定

IP Address				Community Name	Virsion	UPS MIB	JEMA MIB	PRIVATE MIB	
10	65	11	223	public	テスト実行	V2c	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
0	0	0	0	public	テスト実行	V1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
0	0	0	0	public	テスト実行	V1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
0	0	0	0	public	テスト実行	V1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
0	0	0	0	public	テスト実行	V1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

テスト用トラップ選択: MIBをドロップダウンリストで選択
 テスト実行ボタンをクリックすると、その行の管理サーバやパソコンに、
 テスト用トラップ選択されたものが送信されます。

JEMAトラップの設定(JEMA MIB)

送信レベル 1:重故障 2:重+軽故障 3:重+軽故障+警告 4:全て

ANYトラップの設定 1:無効 2:有効 3:中断

トラップ送信間隔 秒

SNMPマネージャとRead/Write許可属性の設定

IP Address				Read	Write	Community Name
10	65	11	242	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	public
0	0	0	0	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	public
0	0	0	0	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	public
0	0	0	0	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	public
0	0	0	0	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	public

図 3-11 SNMPトラップ設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- “テスト実行”ボタンを押すことにより、「テスト用トラップ選択」で選択されたトラップを送信します。
トラップを使用される場合は、SNMP マネージャとの通信が正常であることを事前に確認してください。
- IP アドレスには半角数字のみ入力可能です。ピリオドを入力する必要は有りません。

本画面では、SNMP に関するパラメータを設定します。

①IP Address1-5 (SNMP マネージャに関するパラメータ)

トラップ情報の送信先である SNMP マネージャの IP アドレスを入力します。
半角数字のみ入力可能。

②Community Name

トラップ情報の送信先である SNMP マネージャの Community Name を設定します。
半角英数字10文字まで入力可能です。

③テスト実行ボタン

このボタンを選択すると、「テスト用トラップ選択」で選択されているトラップのみを指定された IP Address に対して送信します。
SNMP マネージャに情報が伝達されることを事前に確認してください。
このボタンを選択しても UPS の状態は変化しません。

④Version 選択

送信するトラップ情報のバージョンを設定します。対応しているトラップの形式は V1 および V2c 形式になりますが、テスト送信の実行の際に送信されるトラップは V1 固定となります。

⑤UPS MIB、JEMA MIB、PRIVETE MIB 選択

送信するトラップ情報の ON/OFF を設定します。ただしテスト送信の実行の際にはすべてのトラップが送信されます。

⑥テスト用トラップ選択

テスト用のトラップを選択します。テスト送信されるトラップを以下に示します。

テストトラップ名	識別子 (JEMA MIB)	識別子 (UPS-MIB RFC 1628)	識別子 (PRIVATE MIB)
バックアップ運転中	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.1	1.3.6.1.2.1.33.2.1	1.3.6.1.4.1.1356.0.6
バッテリーテスト完了	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.2	1.3.6.1.2.1.33.2.2	1.3.6.1.4.1.1356.0.8
商用電源異常	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.3		1.3.6.1.4.1.1356.0.12
商用電源復旧	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.4		1.3.6.1.4.1.1356.0.5
バッテリー電圧低下	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.5		1.3.6.1.4.1.1356.0.9
出力過負荷	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.6		1.3.6.1.4.1.1356.0.2
出力過負荷解除	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.7		1.3.6.1.4.1.1356.0.13
バッテリー異常	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.8		1.3.6.1.4.1.1356.0.14
周囲温度異常	1.3.6.1.4.1.4550.1.2.9		1.3.6.1.4.1.1356.0.15

*テスト送信時に送信されるトラップは

V1 固定で、上記 MIB の全トラップが送信されます。

⑦送信レベル

JEMA MIB トラップの送信レベルを設定します。

本設定値は“jemaUpsConfigTransferTrapControl”と同意です。

⑧ANY トラップの設定

JEMA MIB ANY トラップ” jemaUpsTrapAny”の制御を設定します。

本設定値は” jemaUpsConfigIntervalTrapControl”と同意です。

⑨トラップ送信間隔

“jemaUpsTrapBatteryLow”及び“jemaUpsTrapAny”の繰り返し送出間隔を設定します。

本設定値は” jemaUpsConfigIntervalTrapTime”と同意です。

⑩IP Address1-5 (SNMP マネージャと Read/Write 許可属性の設定)

状態監視、UPS 制御する SNMP マネージャの IP アドレスを入力します。

状態監視には Read 許可属性

UPS 制御には Write 許可属性を設定します。

⑪Read 属性

指定 IP Address 上の SNMP マネージャからWeb/SNMPカードへの Read を許可します。

⑫Write 属性

指定 IP Address 上の SNMP マネージャからWeb/SNMPカードへの Write を許可します。

⑬Community Name

指定 IP Address 上の SNMP マネージャから受け取る Community Name を設定します。

半角英数字10文字まで入力可能です。

⑭設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑮キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.5. 設備管理情報の設定

メニューの[設備管理情報の設定]を選択すると、右フレームに設備管理情報の設定を表示します。

管理画面[設備管理情報の設定]

No	名称	種類
No01		-
No02		-
No03		-
No04		-
No05		-
No06		-
No07		-
No08		-

No01 No02 No03 No04 No05 No06 No07 No08

01の設備管理情報の設定

名称

IP Address

種類

負荷セグメント

設定 削除 キャンセル

図 3-12 設備管理情報画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- Netshut、RCCMD、Telnet は OS シャットダウン設定、Telnet 設定より、自動で設備機器として自動で登録されます。

[設備管理情報の設定]画面では PowerSOL ドメインにて表示される設備機器の情報の設定と確認が可能です。Netshut、RCCMD、telnet/rsh の登録を実施した場合は自動で設備管理情報として登録されます。

①名称

設備機器の名称を設定します。

半角”&”, ”=”以外、全角 24 文字(半角 49 文字、トータルで 49 バイト)まで入力可能。

②IP Address

設備機器の IP Address を設定します。

③種類

設備機器の種類を設定します。

④負荷セグメント

設備機器が接続されている、負荷セグメントを選択します。

設備機器が Netshut、RCCMD、Telenet の場合は設定の変更は出来ません(表示のみ)。

設備機器は最大 32 件まで登録可能です。設備機器には Netshut、RCCMD、Telenet が含まれ、既存の設備機器が 32 件の場合、新規に Netshut、RCCMD、Telenet は登録できません。その場合は不要な設備機器を減らしてから、Netshut、RCCMD、Telenet を登録して下さい。

⑤設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑥削除ボタン

設定内容を消去します。

⑦キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.6. PowerSOLドメインの設定

メニューの[PowerSOLドメインの設定]を選択すると、右フレームに PowerSOLドメインの設定を表示します。

管理画面[PowerSOLドメインの設定]

PowerSOLドメインの設定

グループ名:

接続先ドメインIP:Port : 10.65.11.242:20069

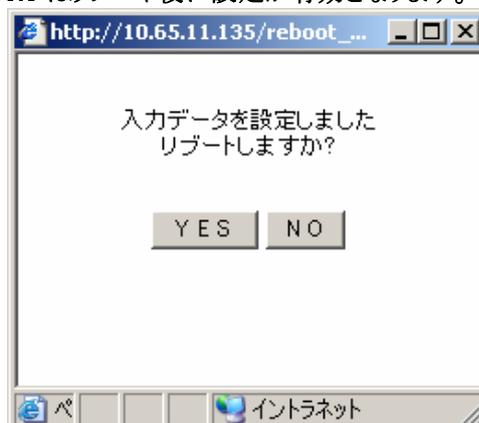
Web/SNMPカード側のPORT : [設定可能範囲 10069 - 19999]

警告レベル : 1

図 3-13 PowerSOLドメインの設定画面

重要

- Web/SNMP カード側の PORT を変更した場合、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- Web/SNMP カード側の PORT はリポート後に設定が有効となります。



“YES”ボタンを選択するとWeb/SNMPカードはリポートを行い、変更した内容が反映されます。

“NO”ボタンを選択した場合は現在の設定が維持されますが、Web/SNMPカードのリポート(RESET スイッチを押して、Web/SNMPカードの電源 OFF/ON)を行うと変更した設定が有効となります。

- ブラウザでポップアップブロックが有効となっている場合は、上記ポップアップが表示されない事があります。ポップアップブロックを無効又は、Web/SNMP カードの設定画面 URL からのポップアップを許可する設定にしてください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。

①グループ名

PowerSOLドメインで表示されるグループ名を設定します。

半角”&”,”=”以外、全角 15 文字(半角31文字、トータルで 31 バイト)まで入力可能。

デフォルト ”Web/SNMP Card(H*****)” (H*****)はシリアル No)

②接続先ドメイン IP:Port

接続済みの PowerSOLドメインの IP アドレスとポートが設定されます。

PowerSOLドメインと未接続の場合は”---.---.---.---:-” (非表示になります)。

③リセットボタン

接続済みの PowerSOLドメインの IP アドレスとポートを初期化します。

④Web/SNMP カード側の PORT

PowerSOLドメインのアクセスを受け付けるポート番号を設定します。

デフォルト 10069

Web/SNMP カード側の PORT を変更は Web/SNMP カードのリブート後に有効となります。

⑤警告レベル(表示のみ)

PowerSOLドメインより設定されます。

⑥設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑦キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.7. telnet/rsh/ssh設定

メニューの[telnet/rsh/ssh 設定]を選択すると、右フレームに telnet/rsh/ssh の設定を表示します。

管理画面[telnet/rsh/ssh設定]

No	名称	IP Address	状態
No01	-	0.0.0.0	-
No02	-	0.0.0.0	-
No03	-	0.0.0.0	-
No04	-	0.0.0.0	-
No05	-	0.0.0.0	-
No06	-	0.0.0.0	-
No07	-	0.0.0.0	-
No08	-	0.0.0.0	-

No01	No02	No03	No04	No05	No06	No07	No08
------	------	------	------	------	------	------	------

No01 telnet/rsh/ssh実行先設定	
プログラム	telnet ▼ テスト実行
名称	<input type="text"/>
IP Address:Port	<input type="text" value="0"/> . <input type="text" value="0"/> . <input type="text" value="0"/> . <input type="text" value="0"/> : <input type="text" value="23"/>
負荷セグメント	1 ▼
遅延時間	<input type="text" value="0"/>
受信/送信データ1	<input type="text"/> / <input type="text"/>
受信/送信データ2	<input type="text"/> / <input type="text"/>
受信/送信データ3	<input type="text"/> / <input type="text"/>
受信/送信データ4	<input type="text"/> / <input type="text"/>
設定	削除
キャンセル	

図 3-14 telnet/rsh 設定画面

[telnet/rsh/ssh 設定]画面では、OS シャットダウン開始時に telnet、rsh、sshサーバにコマンドを送信し、サーバのシャットダウンを実行させる設定が可能です。[telnet/rsh/ssh 設定]画面では、上部のリストに設定一覧と下部にタブ表示にて設定項目を表示します。上部リストにはには設定したサーバへのアクセス死活状態が[状態]に表示されます。

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- telnet、rsh、sshは OS シャットダウン設定、Telnet 設定より、自動で設備機器として自動で登録されます。

①プログラム

telnet、rsh、sshのを選択します。

②テスト実行ボタン

telnet、rsh、sshサーバへのテスト実行をします。

③名称

設備機器用の名称を設定します。telnet、rsh、sshを追加時に自動で設備機器情報として登録されます。設備機器の空きが無い場合は追加できません。

半角”&”,”=”以外、全角 25 文字(半角 50 文字、トータルで 50 バイト)まで入力可能。

④IP Address:Port

telnet、rsh、sshの IP Address および Port 番号を設定します。

プログラムで rsh を指定した場合、ポート番号は固定(54)になります。

⑤負荷セグメント

接続されている、負荷セグメントを選択します。

⑥遅延時間

OS シャットダウン開始時からの遅延時間を設定します。

⑦受信データ/送信データ(telnet 選択時)

telnet サーバからの受信データと telnet サーバへの送信データを設定します。

登録されている一行目(最上段)の受信データの内容と一致すれば一行目の送信データを PC またはサーバに返信します。telnet サーバからのレスポンスが受信データの設定内容と異なる場合は、送信データを再送します(リトライ 3 回)。

⑧ユーザ名/スクリプト(rsh 選択時)

rsh サーバへユーザ名と実行スクリプトを送信します。

⑨ユーザ名/パスワード(ssh選択時)

ssh サーバへのログインユーザ名とパスワード設定します。

⑩スクリプト(ssh選択時)

ssh サーバへで実行するスクリプトを設定します。

⑪設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑫削除ボタン

設定内容を消去します。消去時に自動で設備機器情報から削除されます。

⑬キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

telnet サーバのシャットダウン例

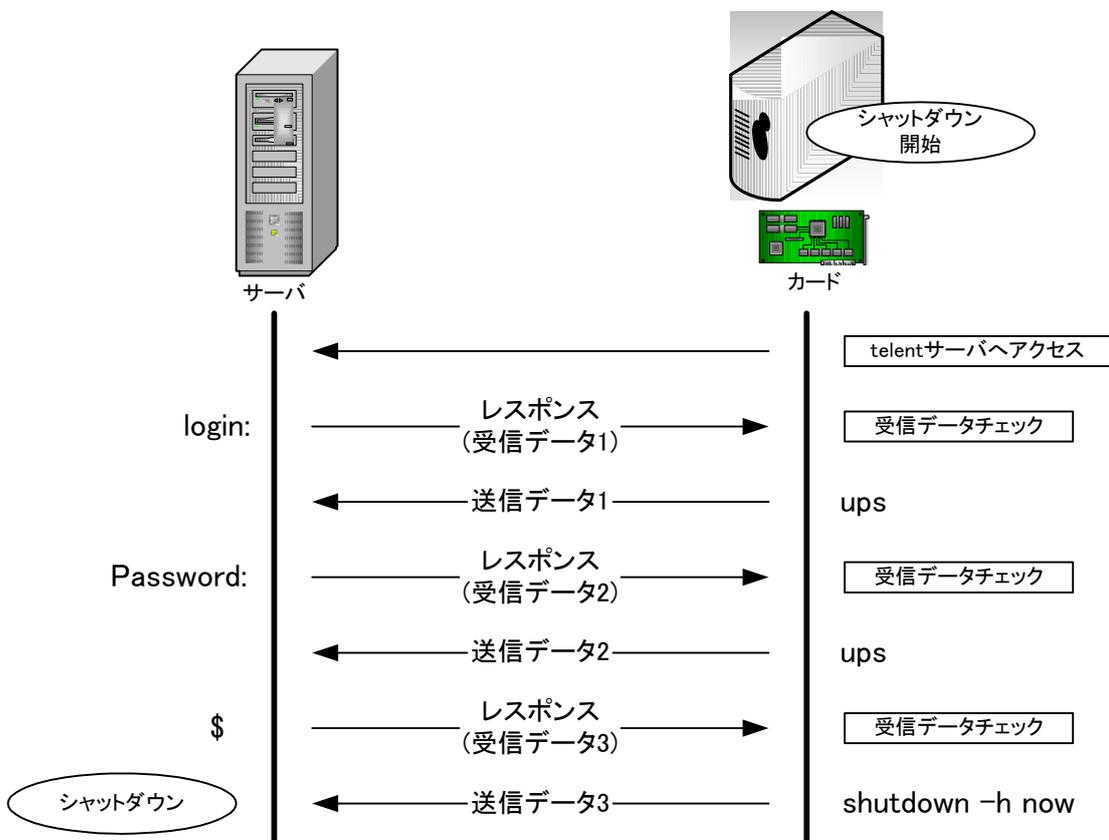


図 3-15 telnet サーバシャットダウン例

rshサーバのシャットダウン例

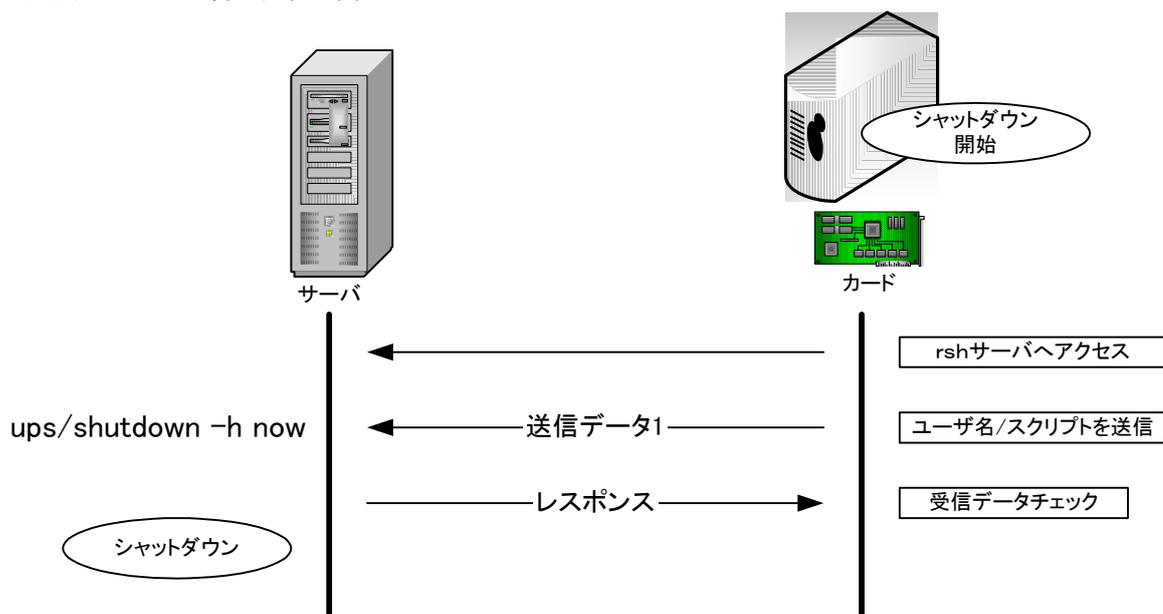


図 3-16 rshサーバシャットダウン例

sshサーバのシャットダウン例

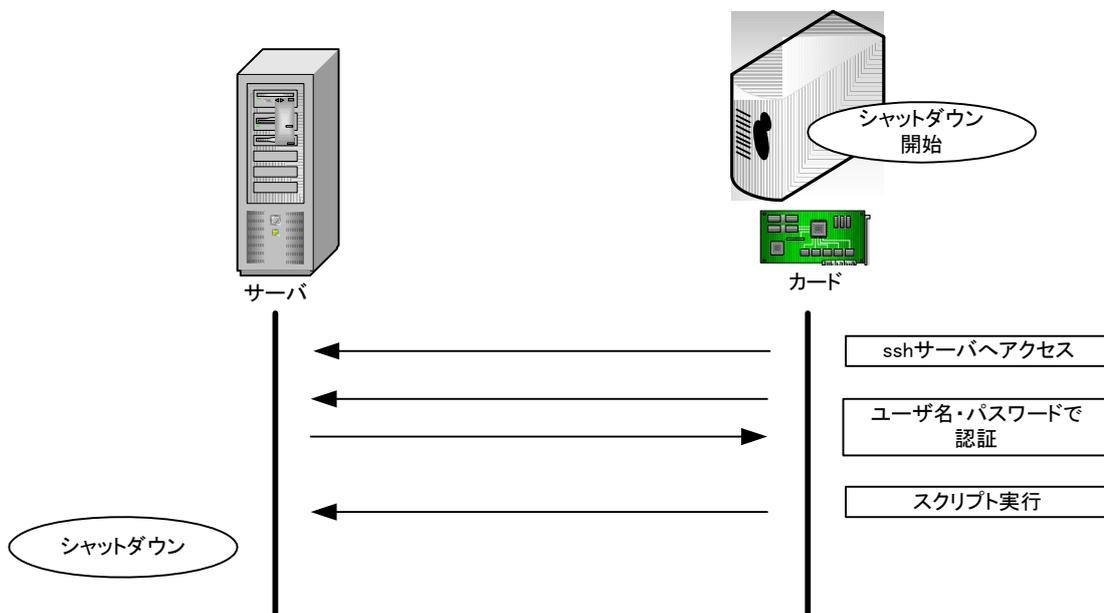


図 3-17 sshサーバシャットダウン例

3.4.7.1. sshについて

Web/SNMPカード SSH仕様は以下の通り

対応バージョン : SSH-2.0

対応アルゴリズム

アルゴリズム	内容
暗号アルゴリズム	aes256-ctr
鍵交換アルゴリズム	diffie-hellman-group-exchange-sha1 diffie-hellman-group-exchange-sha256
ホストキーアルゴリズム	ssh-rsa
MAC アルゴリズム	hmac-sha1
圧縮アルゴリズム	-

3.4.7.2. sshシャットダウンに指定するスクリプトについて

指定したスクリプトはバックグラウンドで実施されます(スクリプトの最後に自動で”&”が追加され、スクリプトはバックグラウンドで実施されます)。ただし、一部サーバやVmware ESXi 5.0 ではシャットダウンを含む動作を実施した場合に ssh でログインしたユーザがログアウトす事によってスクリプトが最後まで実行されません。その場合は”nohup”等を使用してスクリプトを実行して下さい。

例) Vmware ESXi 5.0 でのスクリプト設定例

```
nohup /vmfs/volumes/disk1/ups/doshutdown.sh
```

3.4.8. WOL設定

メニューの[WOL 設定]を選択すると、右フレームに WOL 設定画面を表示します。

管理画面[WOL設定]

No	名称	MAC Address
No01	Netshut(10.65.11.223)	-- : -- : -- : -- : --
No02	RCCMD(10.65.11.242)	-- : -- : -- : -- : --
No03	PC	-- : -- : -- : -- : --
No04		-- : -- : -- : -- : --
No05		-- : -- : -- : -- : --
No06		-- : -- : -- : -- : --
No07		-- : -- : -- : -- : --
No08		-- : -- : -- : -- : --

No01 No02 No03 No04 No05 No06 No07 No08

01のWOL設定

MAC Address : : : : :

遅延時間

取得/テスト操作 /

図 3-18 WOL設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- WOL を設定するためには、設備管理情報画面にて設備機器として登録する必要があります。
- “テスト送信”ボタンを押すことにより、設定された MAC Address に Wake On Lan を送信します。

①MAC Address

Wake On Lan を送信する対象の MAC Address を設定します。

②遅延時間

Wake On Lan を送信開始からの遅延時間を設定します。

③MAC アドレス取得ボタン（設備管理情報の機器が Netshut、RCCMD、telnet/rsh 場合のみ）

設定されている IP Address から MAC アドレスの自動取得を行います。

④テスト実行ボタン

設定されている内容で、Wake On Lan を送信します。

⑤設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑥キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

Wake On Lan は各負荷セグメントの出力が OFF 状態から ON 状態へ移行時、または Web/SNMP カードの再起動からの復帰時に送信開始となり、設定された遅延時間後に送信されます。

3.4.9. e-mail通知設定画面

メニューの[e-mail 通知設定]を選択すると、右フレームに e-mail 通知設定画面を表示します。

UPS管理画面[e-mail通知設定]

e-mail 1:	<input type="text"/>	テスト送信
e-mail 2:	<input type="text"/>	テスト送信
e-mail 3:	<input type="text"/>	テスト送信
e-mail 4:	<input type="text"/>	テスト送信
e-mail 5:	<input type="text"/>	テスト送信

テスト送信メッセージ:

e-mailのFromアドレス:

送信アドレス宛での発信でエラーがあったとき受信するe-mailアドレス。
UPS管理者(サーバ管理者)のアドレスを設定してください。

図 3-19 e-mail 通知設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- e-mailを送信するためには[一般設定]にてSMTP IP Addressを設定する必要があります。
- “テスト送信”ボタンを押すことにより、設定された e-mail Address に e-mail を送信します。
e-mail を使用される場合は、事前に確認してください。
- e-mailの送信タイミングは3.4.16イベント通知設定画面を参照してください。

本画面では、各種イベント発生時の e-mail の送信に関するパラメータを設定します。

①e-mail アドレス 1-5

e-mail 送信相手先(管理者)のアドレスを入力します。

半角 40 文字のみ入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

②テスト送信ボタン

このボタンを選択すると、指定した e-mail アドレスに対してテスト用の e-mail を送信します。

テスト送信を行い e-mail が確実に届くことを事前に確認してください。

③テスト送信メッセージ

e-mail 送信テストの際のテスト用メールメッセージを入力します。

全角60文字(半角120文字)まで入力可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

④e-mail の From アドレス

メール送信時にエラーがあった時にエラーの旨のメールを受信するアドレス。

UPS 管理者(サーバ管理者)のアドレスを設定してください。

半角 40 文字のみ入力が可能です。

半角文字は ‘a-z’ ‘A-Z’ ‘0-9’ ‘_ - @ . ()’ が使用可能です。

⑤設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑥キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.10. 停止動作(停電)設定画面

メニューの[停止動作(停電)設定]を選択すると、右フレームに停止動作(停電)設定画面を表示します。

管理画面[停止動作 (停電)設定]

1. 停電検出時のOSシャットダウン

停電検出時、負荷セグメント1のOSシャットダウン
OSシャットダウンのタイミング

(1) ダウンタイムによるOSシャットダウン (Shutdown信号の発行) [説明](#)
ダウンタイム: 分

(2) 停電後の経過時間によるシャットダウン (Shutdown信号の発行) [説明](#)
 OSシャットダウン開始時間: 分

停電検出時、負荷セグメント2のOSシャットダウン
OSシャットダウンのタイミング

(1) ダウンタイムによるOSシャットダウン (Shutdown信号の発行) [説明](#)
ダウンタイム: 分

(2) 停電後の経過時間によるシャットダウン (Shutdown信号の発行) [説明](#)
 OSシャットダウン開始時間: 分

2. 停電検出時の出力停止 [説明](#)

停電検出時出力停止
負荷セグメント1の出力停止遅延時間: 分

停電検出時出力停止
負荷セグメント2の出力停止遅延時間: 分

出力停止遅延時間中に復電した場合でも、出力停止遅延時間が経過すると一旦出力を停止し、約一分後に出力を再開します。

図 3-20 停止動作(停電)設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- OS のシャットダウン開始時間はWeb/SNMPカードがシャットダウン信号を送信する時刻を意味しています。
- UPS にサーバ、パソコンを接続している時は「停電検出時 OS シャットダウン」のチェックを外さないで下さい。
- OS のシャットダウンを行うには対象となるサーバ、パソコンに Netshut をインストールしてサービス(デーモン)として実行する必要があります。また、[OS shutdown 設定]にて設定を行い、事前の確認が必要となります。
- 停電検出時の UPS 出力停止遅延時間は OS のシャットダウン時間に対して十分余裕がある時間を設定してください。
- 「停電検出時 OS シャットダウン」のチェックをしている場合、停電中にバッテリー電圧の低下を検出すると OS シャットダウンのタイミング設定に関わらず、すぐに OS シャットダウン(シャットダウン信号の発行)を開始します。
- 停電検出時の UPS 出力停止遅延中に復電した場合でも、UPS は出力停止遅延時間後に出力を一旦停止させ、約60秒後に出力を再開します。
- バックアップ可能時間よりダウンタイムの設定値が大きい場合入力異常発生時、即座に OS シャットダウンが開始されます。

本画面では、停電検出時の OS シャットダウン(シャットダウン信号の発行)及び UPS の出力停止に関するパラメータを設定します。

①「停電検出時 OS シャットダウン」のチェックボックス

停電検出時に OS のシャットダウンを行うかどうかを設定します。

このチェックボックスをチェックすると停電検出時に OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行、または Windows 標準の UPS シグナル(接点信号)の極性反転、コンソールの送受信)が実行されます。

Netshut を使用して OS をシャットダウンさせるためには対象となるサーバ、パソコンに Netshut をインストールしてサービス(デーモン)として実行し、[OS Shutdown 設定]で Netshut のシャットダウン信号発行先の IP Address を指定する必要があります。

詳しくは3.4.15OS Shutdown設定画面を参照してください。コンソールfを使用してOSのシャットダウンを行う場合は3.4.12停止動作(シリアル)設定画面を参照してください。

②説明(ダウンタイムによる OS シャットダウン)ボタン

このボタンを選択すると、新しいウィンドウが開き、バックアップ可能時間、ダウンタイムの説明を表示します。

The screenshot shows a Microsoft Internet Explorer window with the address bar displaying `http://10.65.11.133/files/setumei_1.html`. The main content area is titled "バックアップ可能時間、ダウンタイムの説明" (Explanation of Backup Time and Downtime). It features a timeline diagram starting from a box labeled "停電検出" (Power Outage Detection). A solid arrow labeled "バックアップ可能時間" (Backup Time) extends to the right. A second solid arrow labeled "ダウンタイム" (Downtime) starts from the end of the backup time and extends further right. A dashed arrow labeled "OSシャットダウン" (OS Shutdown) starts from the end of the downtime and extends to the right. A box labeled "Shut down信号の発行" (Issuance of Shutdown Signal) is positioned below the OS shutdown arrow. Below the diagram is a section titled "[用語説明]" (Terminology Explanation) with two entries: "バックアップ可能時間" and "ダウンタイム". At the bottom center is a "Close" button.

バックアップ可能時間、ダウンタイムの説明

停電検出

バックアップ可能時間

ダウンタイム

OSシャットダウン

Shut down信号の発行

[用語説明]

バックアップ可能時間: 周囲温度25℃、バッテリー初期状態において、UPSがバックアップ可能な時間の目安です。UPSモニタ画面上で確認できます。UPSに接続される負荷が最大の状態でご確認ください。

ダウンタイム: 「バックアップ可能時間」で予想されるバックアップ停止時間を基点にして、当設定時間前にサーバやパソコンのOSシャットダウンを開始します

Close

図 3-21 バックアップ可能時間とダウンタイムの説明

③ダウンタイム

バックアップ可能時間がダウンタイムに設定されている時間より少なくなった時点で OS シャットダウンを開始(シャットダウン信号の発行)する時間(分)を設定します。(デフォルト:7分)

シャットダウン開始条件:

バックアップ可能時間 ≤ ダウンタイム(デフォルト:7分)

例) 停電検出時、バックアップ可能時間が 15 分、ダウンタイムの設定が 7 分の時

停電運転を継続し、バックアップ可能時間が 7 分以下の時にシャットダウン信号を発行し、指定されたサーバ、パソコンの OS シャットダウンを開始します。

バックアップ可能時間は、バッテリー充電容量と UPS に接続された負荷により変動します。

上記例の場合、8 分間バックアップ運転を継続しても、バックアップ可能時間が 8 分以上である場合はシャットダウン動作の開始を行いません。

④説明(停電検出後の経過時間による OS シャットダウン)ボタン

このボタンを選択すると、新しいウィンドウが開き、停電検出後の経過時間による OS シャットダウン(シャットダウン信号の発行)の説明を表示します。

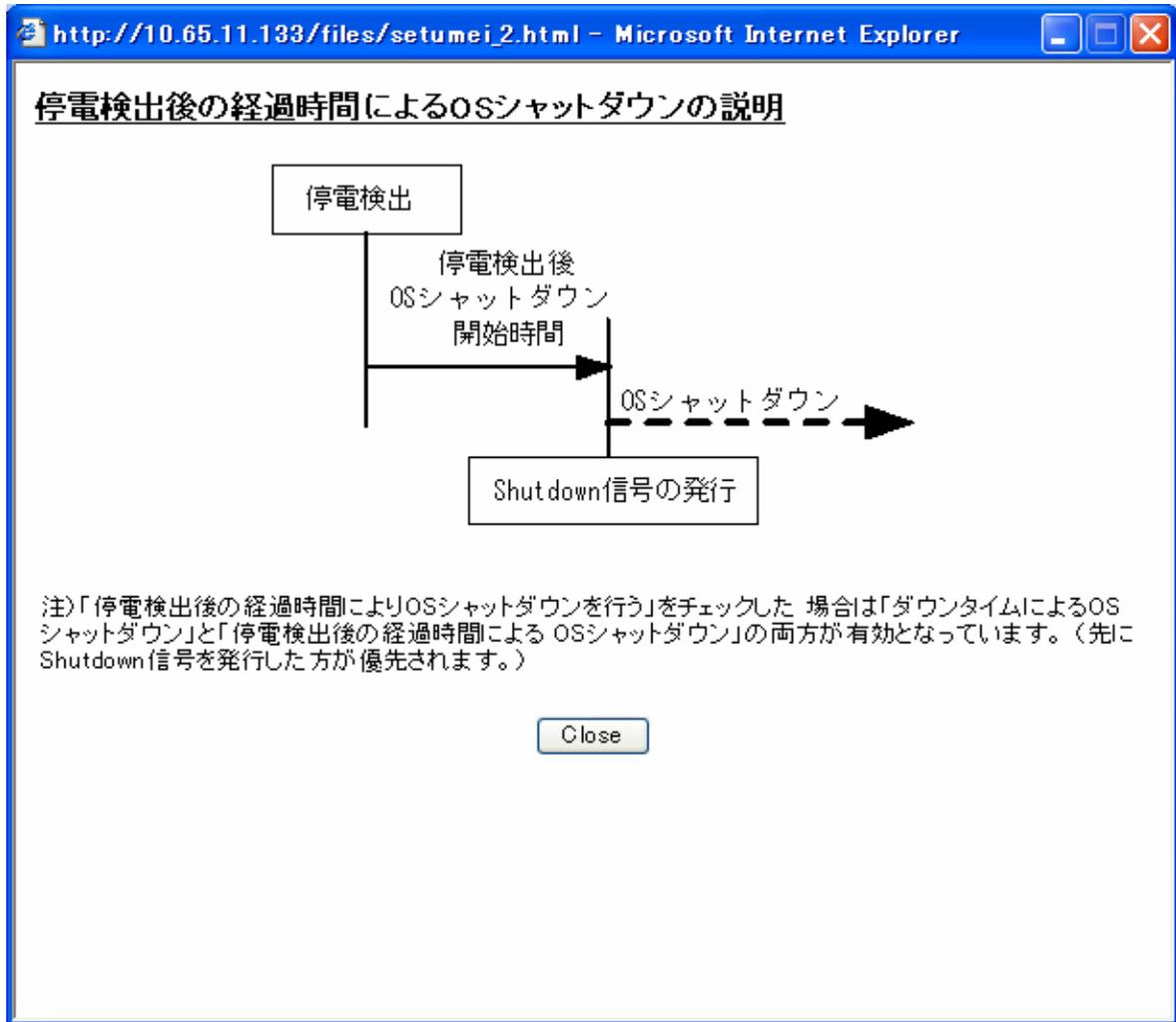


図 3-22 停電検出後の経過時間によるOSシャットダウンの説明

⑤「停電検出後の経過時間により OS シャットダウンを行う」チェックボックス

このチェックボックスをチェックすると、停電検出後から指定された経過時間(⑥で入力する)停電が継続していると OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行)を開始します。

⑥停電検出後 OS シャットダウン開始時間

停電検出後に OS シャットダウン(シャットダウン信号の発行)を開始する時間を設定します。
(デフォルト値:3 分 0 分から 999 分まで設定可能)

重要
<ul style="list-style-type: none">● 停電検出後 OS シャットダウン開始時間はサーバまたはパソコンの OS が起動する時間より長い時間を設定してください。

シャットダウン開始条件:

停電検出からの経過時間 \geq 停電検出後 OS シャットダウン開始時間(デフォルト:0 分)

注意「停電検出後の経過時間によりOSシャットダウンを行う」をチェックした場合

「ダウンタイムによる OS シャットダウン」と「停電検出後の経過時間による OS シャットダウン」の両方が有効となり、先にどちらかの条件を満たした時間で OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行)を開始します。

⑦説明(停電検出時のUPS出力停止)ボタン

このボタンを選択すると新しいウィンドウが開き、停電検出時のUPS出力停止の説明を表示します。

復電時オートリブート設定OFFの場合

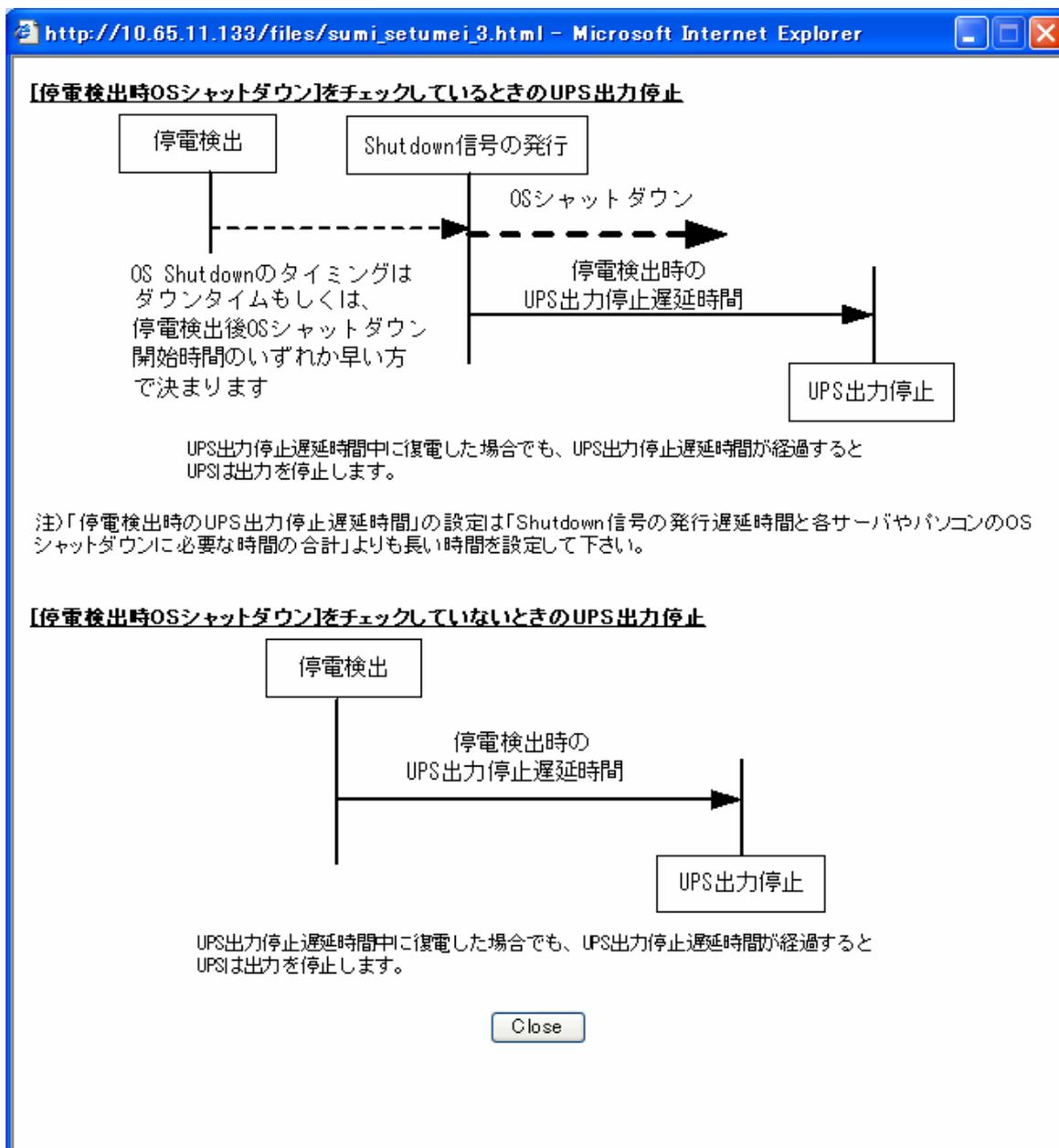


図 3-23 停電検出後の経過時間による OS シャットダウンの説明

復電時オートリブート設定ONの場合

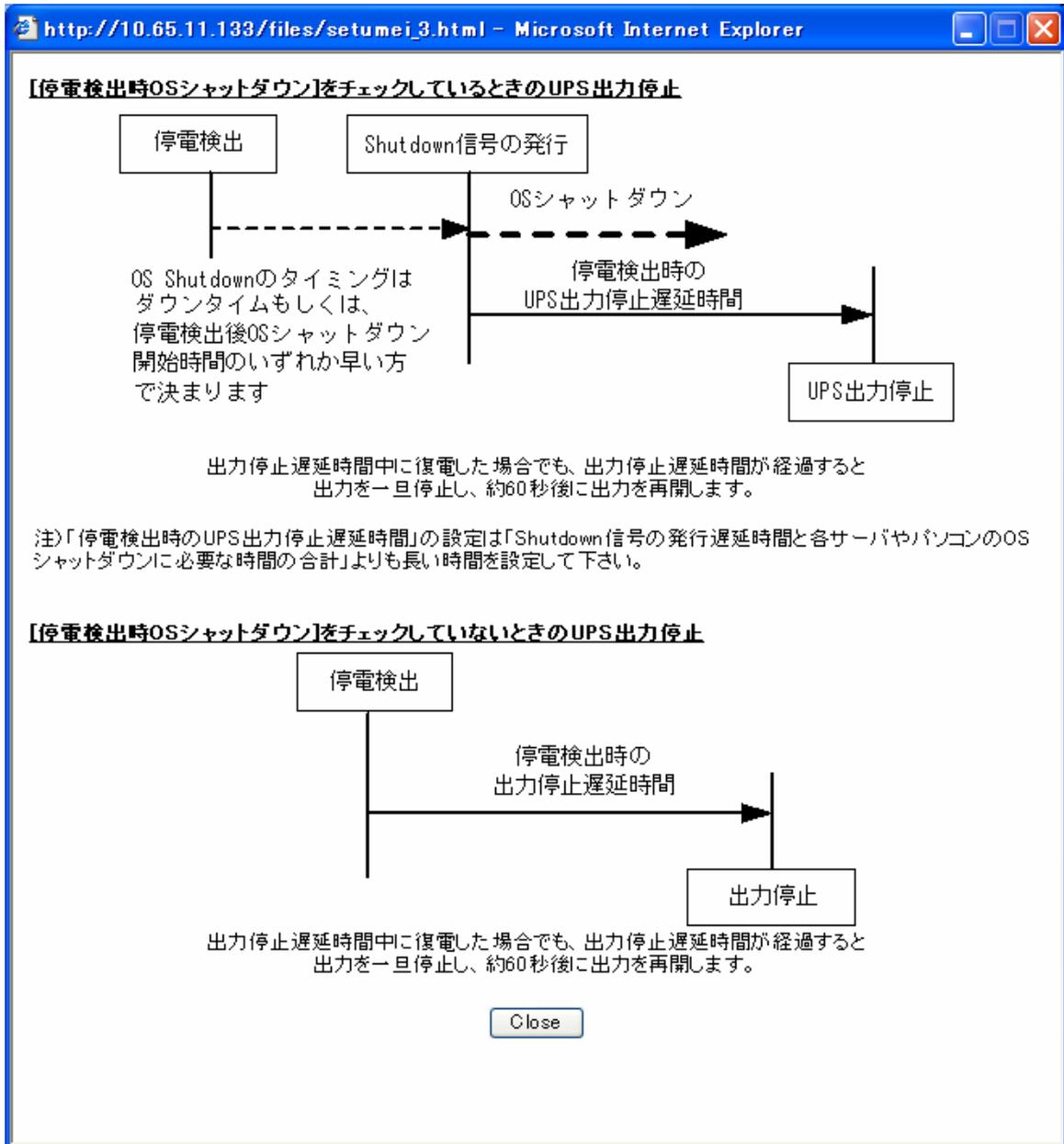


図 3-24 停電検出後の経過時間による OS シャットダウンの説明2

⑧「停電検出時の UPS 出力停止」チェックボックス

このチェックボックスをチェックすると、停電検出時に指定された遅延時間(⑨で入力)の後 UPS の出力停止を行います。

注意)「停電検出時 OS シャットダウン」のチェックの有無で遅延時間の起点が異なります。

OS のシャットダウンチェック	カウント開始起点
チェック有り	OS シャットダウン開始(シャットダウン信号の発行)からカウント開始
チェック無し	停電検出時点からカウント開始

⑨停電検出時の UPS 出力停止遅延時間

停電検出後、「停電時の OS シャットダウン」の有無で決まるカウント開始時点から UPS の出力を停止するまでの時間を設定します。(最小 0 分から最大 99 分まで設定可能です。)

停電検出時の UPS 出力停止遅延時間は OS のシャットダウン時間に対して十分余裕がある時間を設定してください。

(デフォルト 3 分)

⑩設定ボタン

設定した各値を Web/SNMP カードのメモリへ書き込みます。

⑪キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

⑫初期値ボタン

各入力値をデフォルト値に戻します。

デフォルト値は以下の値です。

項目	値
停電検出時 OS シャットダウン	ON
ダウンタイム	7 分
停電検出後の経過時間によりシャットダウンを行う	ON
停電検出後 OS シャットダウン開始時間	3 分
停電検出時 UPS 出力停止	ON
停電検出時の UPS 出力停止遅延時間	3 分

3.4.11. 停止動作(イベント)設定画面

メニューの[停止動作(イベント)設定]を選択すると、右フレームに停止動作(イベント)設定画面を表示します。

管理画面[停止動作 (イベント)設定]

1. イベント発生時のOSシャットダウン 説明

負荷セグメント1

- 「過負荷時」OSシャットダウン
- 「周囲温度異常時」OSシャットダウン
- 「故障時」OSシャットダウン
- 「出力OFF、またはリブート操作時」OSシャットダウン

負荷セグメント2

- 「過負荷時」OSシャットダウン
- 「周囲温度異常時」OSシャットダウン
- 「故障時」OSシャットダウン
- 「出力OFF、またはリブート操作時」OSシャットダウン

2. イベント発生時の出力停止 説明

負荷セグメント1

- 「過負荷時」出力停止
- 「周囲温度異常時」出力停止
- 「故障時」出力停止
- 「出力OFF、またはリブート操作時」出力停止(このチェックは必ずONです)

イベント発生時の出力停止遅延時間 分

負荷セグメント2

- 「過負荷時」出力停止
- 「周囲温度異常時」出力停止
- 「故障時」出力停止
- 「出力OFF、またはリブート操作時」出力停止(このチェックは必ずONです)

イベント発生時の出力停止遅延時間 分

イベント発生時の出力停止遅延時間は、
・イベント発生時
・スケジュール運転での停止時
に適用されます。

図 3-25 停止動作(イベント)設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- UPS にサーバ、パソコンを接続している時は「UPS 出力 OFF、またはリブート操作時 OS シャットダウン」のチェックを外さないで下さい。
- OS のシャットダウンを行うには対象となるサーバ、パソコンに RCCM をインストールしてサービス(デーモン)として実行する必要があります。また、[OS Shutdown 設定]にて設定を行い、事前の確認が必要となります。
- イベント発生時の OS シャットダウンをチェックすると、各イベント発生時に即 OS シャットダウン(シャットダウン信号の発行)を実行します。
- イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間は OS のシャットダウン時間に対して十分余裕がある時間を設定してください。
- スケジュール運転時の UPS 出力停止遅延時間はイベント発生時の UPS 出力停止遅延時間を使用します。OS のシャットダウン時間に対して十分余裕のある時間を設定して下さい。

本画面ではイベント発生時の OS のシャットダウンと UPS の出力停止に関するパラメータの設定を行います。各発生イベントに対して OS シャットダウン、UPS 出力停止の動作の可否を選択、設定出来ます。

①説明(イベント発生時の OS シャットダウン)ボタン

このボタンを選択すると、新しいウィンドウが開き、イベント発生時の OS のシャットダウンに関する説明を表示します。

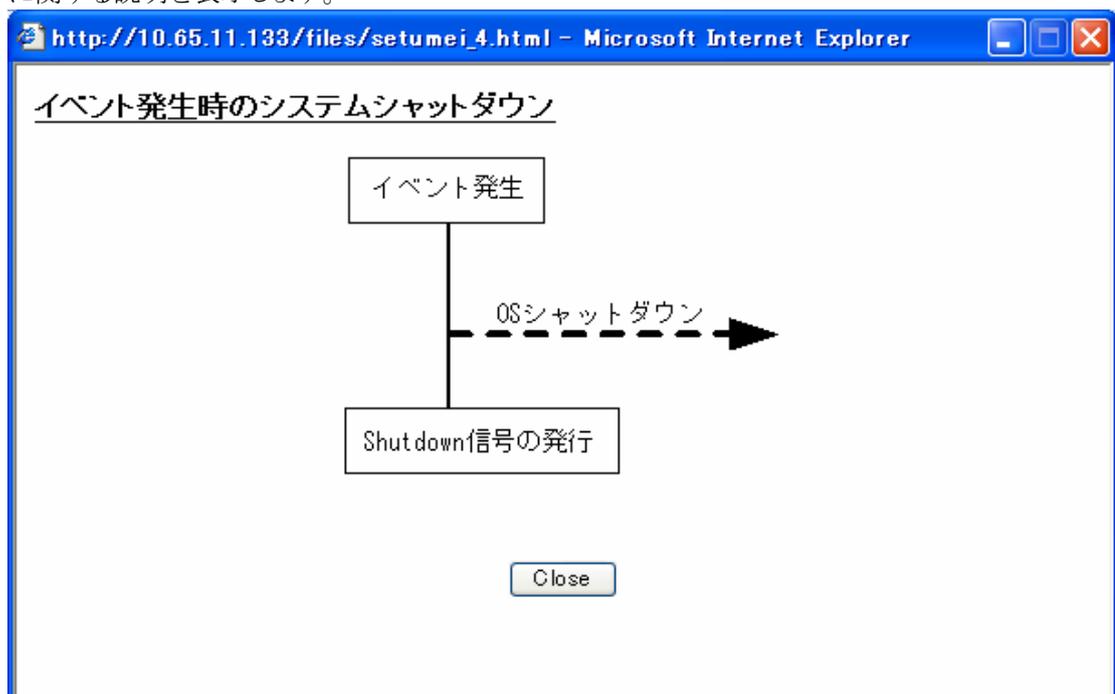


図 3-26 イベント発生時のシステムシャットダウンの説明

②「過負荷時 OS シャットダウン」チェックボックス

過負荷時(UPS の定格容量以上になった時)に OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行)を行うかどうかを設定します。

③「周囲温度異常時 OS シャットダウン」チェックボックス

周囲温度異常時に OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行)を行うかどうかを設定します。

④「UPS 故障常時 OS シャットダウン」チェックボックス

UPS 故障時に OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行)を行うかどうかを設定します。

但し、故障状態によっては UPS の出力が即断する可能性があり、この場合は、OS のシャットダウンは正常に実行できない場合があります。

⑤「UPS 出力 OFF またはリブート操作時 OS シャットダウン」チェックボックス

UPS 出力 OFF またはリブート操作時に OS のシャットダウン(シャットダウン信号の発行)を行うかどうかを設定します。

UPS にサーバ、パソコンを接続している場合はこのチェックを外さないで下さい。

⑥説明(イベント発生時の UPS 出力停止)ボタン

このボタンを選択すると、新しいウィンドウが開き、イベント発生時の UPS 出力停止に関する説明を表示します。

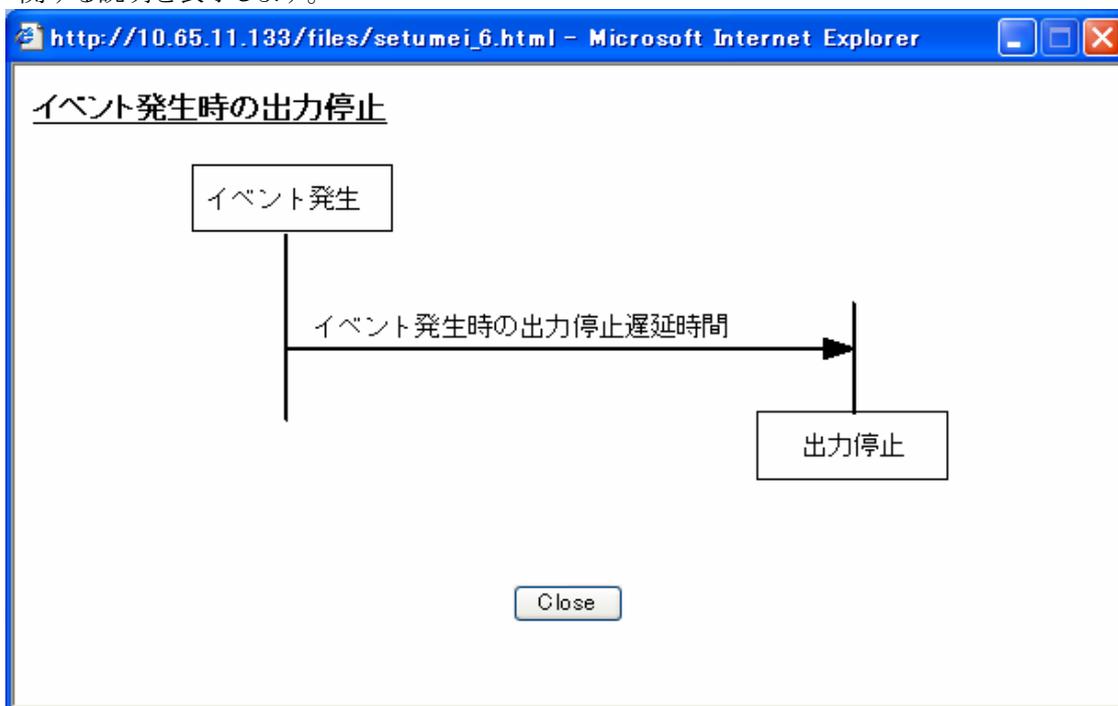


図 3-27 イベント発生時の UPS 出力停止の説明

⑦「過負荷時 UPS 出力停止」チェックボックス

過負荷時に UPS の出力停止を行うかどうかを設定します。
この機能を有効にするためには「過負荷時 OS シャットダウン」の設定を ON にする必要があります。

⑧「周囲温度異常時 UPS 出力停止」チェックボックス

周囲温度異常時に UPS の出力停止を行うかどうかを設定します。
この機能を有効にするためには「周囲温度異常時 OS シャットダウン」の設定を ON にする必要があります。

⑨「UPS 故障時 UPS 出力停止」チェックボックス

UPS 故障時に UPS の出力停止を行うかどうかを設定します。
但し故障状態によっては当設定に関係なく UPS が即断する場合があります。
この機能を有効にするためには「UPS 故障時 OS シャットダウン」の設定を ON にする必要があります。

⑩「UPS 出力 OFF またはリブート操作 UPS 出力停止」チェックボックス

UPS 出力 OFF またはリブート操作時に UPS の出力停止を行うかどうかを設定します。
この設定の解除は出来ません。

⑪イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間

イベント発生時に UPS の出力を停止するまでの時間を設定します。

設定時間は、0 分から 99 分まで分単位で入力して下さい。

イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間は OS のシャットダウン時間に対して十分余裕がある時間を設定してください。

⑫設定ボタン

設定した各値を Web/SNMP カードのメモリへ書き込みます。

⑬キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

⑭初期値ボタン

各入力値をデフォルト値に戻します。

デフォルト値は以下の値です。

項目	値
過負荷時 OS シャットダウン	OFF
周囲温度異常時 OS シャットダウン	OFF
UPS 故障時 OS シャットダウン	OFF
UPS 出力 OFF、またはリブート操作時 OS シャットダウン	ON
過負荷時 UPS 出力停止	OFF
周囲温度異常時 UPS 出力停止	OFF
UPS 故障時 UPS 出力停止	OFF
UPS 出力 OFF、またはリブート操作時 UPS 出力停止	常時 ON
イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間	3 分

3.4.12. 停止動作(シリアル)設定画面

[停止動作(シリアル)]を選択すると、右フレームに停止動作(シリアル)設定画面を表示します。

管理画面[停止動作(シリアル)設定]

シャットダウン設定

シリアル信号によるシャットダウンは停電発生時とイベント実行時のOSシャットダウンにて開始されます。

なし シリアル信号によるシャットダウン機能を使用しません。

<input type="radio"/> 接点(Windows)	負荷セグメント 1	接点信号によるシャットダウンを行います。 注意 「停電信号」「バッテリー電圧低下信号」の極性は 正極性 となります。 OS(Windows)のUPSシグナル極性も 正極性 に設定してください。
<input type="radio"/> コンソール		サーバに対してコンソールによるシャットダウンを行います。 「コンソール送受信データ設定」において設定された送受信データを使用してサーバにログインし、サーバのシャットダウンを行います。

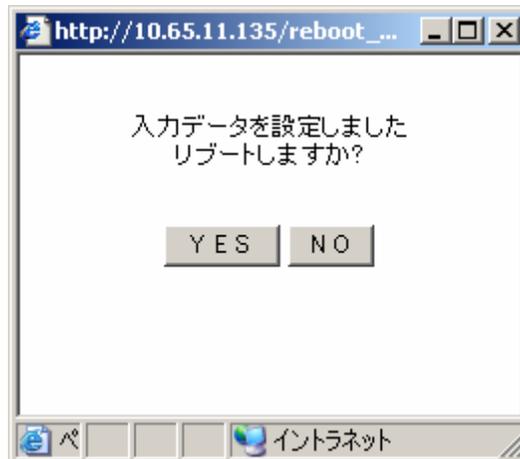
UPSの出力停止について

停電検出時の出力停止遅延時間は、「停止動作(停電)」で設定下さい。
イベント発生(スケジュール設定含む)によるUPSの停止時間は「停止動作(イベント)」で設定下さい。

図 3-28 停止動作(シリアル)設定画面

重要

- 本設定項目 (シャットダウン設定) はリポート後に設定が有効となります。



本設定画面で“設定”ボタンを選択すると上記ポップアップウィンドウが表示され
“YES”ボタンを選択するとWeb/SNMPカードはリポートを行い、変更した内容が反映
されます。

“NO”ボタンを選択した場合は現在の設定が維持されますが、Web/SNMPカードの
リポート(RESET スイッチを押して、Web/SNMPカードの電源 OFF/ON)を行うと変更した
設定が有効となります。

- ブラウザでポップアップブロックが有効となっている場合は、上記ポップアップが表示されない
事があります。
ポップアップブロックを無効又は、Web/SNMP カードの設定画面 URL からのポップアップを
許可する設定にしてください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」
というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため、再度“設定”ボタンを
選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。

重要

- Web/SNMPカードの D-SUB9ピンコネクタとサーバ、パソコン間の接続は添付の専用ケーブルをご使用ください。
- WindowsNTで UPS サービスを使用する場合、リモート無停電電源シャットダウン機能は使用できません。
- Windows で UPS サービスを使用する場合、バッテリー容量低下信号機能は必ず ON 状態で使用して下さい。(OS 上の UPS サービスの設定)
- スケジュールによる UPS の出力停止設定時刻に停電信号とバッテリー容量低下信号を送出します。UPS は[停止動作(イベント)設定]で設定された「UPS 出力遅延時間」後に停止します。停電検出時の UPS 出力停止遅延時間は OS のシャットダウン時間に対して十分余裕がある時間を設定してください。

本画面では、Web/SNMPカードの RS232C(D-Sub 9 ピンコネクタ)信号によるシャットダウンに関するパラメータを設定します。

①「シリアル信号によるシャットダウン」 なし

シリアル信号によるシャットダウンを行いません。

②「シリアル信号によるシャットダウン」 接点(Windows)

接点信号による OS のシャットダウン(Windows の UPS サービスを使用)を行います

③「シリアル信号によるシャットダウン」 コンソール

コンソールログインによる OS のシャットダウンを行います。

④負荷セグメント

接続されている、負荷セグメントを選択します。

⑥設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑦キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

⑧初期値ボタン

各入力値をデフォルト値に戻します。

項目	値
シリアル信号によるシャットダウン	なし

3.4.13. シリアルでのOSシャットダウン

Windows の UPS サービスを使用して停電検出時やイベント発生時に OS のシャットダウンを行います。接点信号 (Windows) での OS シャットダウンを行うためには Windows の UPS サービスが動作している環境が必要です。

OS シャットダウンを行うタイミングは以下の条件で異なります

3.4.13.1. 停電検出後OSシャットダウンONの場合

OS シャットダウン開始のトリガーとなる、シャットダウン信号の送信、接点信号の極性反転、コンソールのコマンド実行は以下のタイミングで実行されます。

タイミン	UPS の状態	停電発生時	ダウンタイム時間の経過 停電検出後 OS シャットダウン時間経過
シャットダウン信号の送信実行		-	シャットダウン信号の送信
接点信号 (UPS シグナル極性) 停電信号の極性反転		極性反転	極性反転維持
接点信号 (UPS シグナル極性) バッテリー電圧低下の極性反転		-	極性反転
コンソールコマンド実行		-	コマンド送受信開始

3.4.13.2. イベント発生時のOSシャットダウンONの場合

イベント発生時(スケジュールでの UPS 停止時刻、[停止動作(イベント)設定]でのイベント発生時と UPS 操作での UPS 出力 OFF またはリブート実行時) OS シャットダウン開始のトリガーとなる、シャットダウン信号の送信、接点信号の極性反転、コンソールのコマンド実行は以下のタイミングで実行されます。

タイミン	UPS の状態	イベント発生時
シャットダウン信号の送信実行		シャットダウン信号の送信
接点信号 (UPS シグナル極性) 停電信号の極性反転		極性反転
接点信号 (UPS シグナル極性) バッテリー電圧低下信号の極性反転		極性反転
コンソールコマンド実行		コマンド送受信開始

3.4.13.3. 停電検出後OSシャットダウンOFFの場合

停電検出後 OS シャットダウン開始の設定が OFF の場合、シャットダウン信号の送信、コンソールのコマンド送受信は開始されません。

ただし、接点信号の停電信号の極性は停電検出時に極性を反転します。バッテリー電圧低下信号の極性は停電から 30 秒経過すると極性が反転します。停電が 30 秒未満の場合にはバッテリー電圧低下の極性は反転せず、復電後には停電信号の極性も復旧します。

OS シャットダウン開始のトリガーとなる接点信号の極性反転は、以下のタイミングで実行されます。

タイミン	UPS の状態	停電発生時	停電検出から 30 秒経過後
シャットダウン信号の送信実行		-	-
接点信号(UPS シグナル極性) 停電信号の極性反転		極性反転	極性反転維持
接点信号(UPS シグナル極性) バッテリー電圧低下の極性反転		-	極性反転
コンソールコマンド実行		-	-

3.4.13.4. イベント発生時のOSシャットダウンOFFの場合

イベント発生後の OS シャットダウン開始の設定が OFF の場合、シャットダウン信号の送信、コンソールのコマンド送受信は開始されません。ただし、接点信号の停電信号とバッテリー電圧低下信号の極性はイベント発生時に極性が反転します。

接点信号の極性反転は以下のタイミングで実行されます。

タイミン	UPS の状態	イベント発生時
シャットダウン信号の送信実行		-
接点信号(UPS シグナル極性) 停電信号の極性反転		極性反転
接点信号(UPS シグナル極性) バッテリー電圧低下の極性反転		極性反転
コンソールコマンド実行		-

①受信データ

サーバまたは PC 側からの受信待ちデータを設定します。

停止動作(シリアル)設定のコンソールを選択すると、停電での OS シャットダウンや、スケジュールでの UPS 出力停止時刻、Web からの UPS 出力 OFF 実行時に改行コード(CR)をサーバに送信します。改行コードの送信によってサーバから返されるデータが、登録されている一行目(最上段)の受信データの内容と一致すれば一行目の送信データを PC またはサーバに返信します。

サーバからのレスポンスが受信データの設定内容と異なる場合は、受信データの内容と一致するまで一行目の場合は改行コード(CR)を、二行目以降は送信データを再送信します。

受信データには英文字(半角)及び” \$#>.:@ 0123456789-[]/ ”が設定可能です。
受信データは最大半角31文字まで入力可能です。

②送信データ

サーバまたは PC 側に送信するデータを設定します。

送信データには英文字(半角)及び” \$#>.:@ 0123456789-[]/ ”が設定可能です。
送信データは最大半角63文字まで入力可能です。

受信データ側の文字列が” pass ”で始まる場合、送信データの内容は“設定”ボタンを選択後に伏字になります。

例

入力した受信データ	Password:	入力した送信データ	abcdefg
表示される受信データ	Password:	表示される送信データ	*****

管理画面[コンソール送受信データ設定]

受信データ	送信データ
login:	root
Password:	●●●●●●
root>	shutdown -h now

図 3-30 受信データ、送信データ入力例

③設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

④キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

コンソールを使用しての OS シャットダウンを実行する場合、通信先のサーバ、またはパソコンの通信ポートは以下の設定にあわせる必要があります。

ビット/秒	9600
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

停電時にコンソールを使用して OS のシャットダウンまたはコマンドの実行を行うためには [停止動作(停電)設定]で OS のシャットダウンが有効である必要があります。

スケジュールや故障、過負荷、周囲温度異常などのイベント発生時に OS のシャットダウンまたはコマンドの実行を行うためには [停止動作(イベント)設定]でイベント発生時の OS シャットダウン の設定が有効になっている 必要があります。

3.4.14.1. コンソールを使用したOSのシャットダウン

受信データ、送信データの設定例

受信データ	送信データ
sunblade100 console login	root
Password:	abcdefg
#	shutdown -y -i0

コンソールを使用したOSシャットダウンの概略図

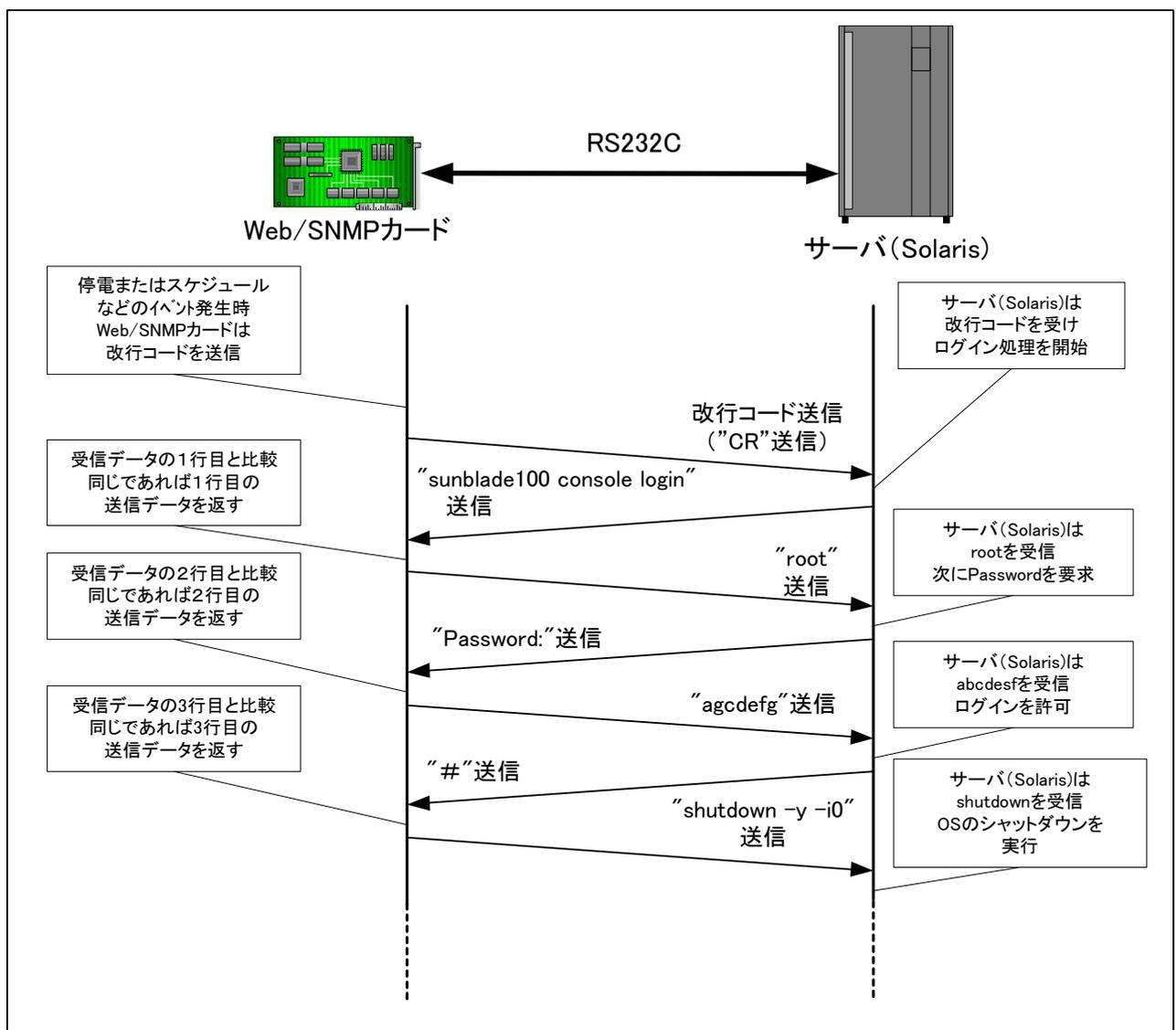


図 3-31 コンソールを使用した OS シャットダウン

3.4.15. OS Shutdown設定画面

メニューの[OS Shutdown 設定]を選択すると、右フレームに OS Shutdown 設定画面を表示します。

管理画面 [OS shutdown設定]

OSシャットダウン実行先PCのIPアドレスと遅延時間の設定

プログラム	IP Address				ポート番号	負荷セグメント	遅延時間	テスト
Netshut ▼	10	65	11	223	7006	1 ▼	-	テスト実行
RCCMD ▼	10	65	11	242	6003	1 ▼	0 秒	テスト実行
Netshut ▼	0	0	0	0	7006	1 ▼	0 秒	テスト実行
Netshut ▼	0	0	0	0	7006	1 ▼	0 秒	テスト実行
Netshut ▼	0	0	0	0	7006	1 ▼	0 秒	テスト実行
Netshut ▼	0	0	0	0	7006	1 ▼	0 秒	テスト実行
Netshut ▼	0	0	0	0	7006	1 ▼	0 秒	テスト実行
Netshut ▼	0	0	0	0	7006	1 ▼	0 秒	テスト実行

出力停止遅延時間は以下の設定になっています。

・停電検出時	負荷セグメント1：180秒 負荷セグメント2：180秒
・イベント発生時	負荷セグメント1：60秒 負荷セグメント2：60秒

上記遅延時間の設定は設定は出力停止遅延時間より短くして下さい。

設定
キャンセル

注) OSシャットダウンではWeb/SNMPカードからサーバやパソコンへシャットダウンを実行させるトリガをTCP/IPで発信しますが指定されたマシンでNetshutまたはRCCMDサービス(デーモン)をインストール、実行していません。

図 3-32 OS Shutdown 設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- シャットダウン信号の発行遅延時間の設定を行う場合、各 IP Address 間で 10 秒以上の間隔を空けて設定してください。
- Web/SNMPカードの Netshut のポート番号はデフォルトで 7006/TCP です。各サーバにインストールする Netshut のポート番号と同じ番号を設定して下さい。

重要

• Netshut を使用する前に下記内容の確認をして下さい。

- (1) UPS から電源供給を受けるサーバ、パソコンの IP アドレスを全て登録してください。
- (2) “テスト実行”ボタンは登録した IP Address のサーバ、パソコンがシャットダウン信号によりシャットダウンする事を事前に確認するためのものです。停電、スケジュール運転での運用の前に必ず実施してください。
なお、登録した IP Address が間違っていた場合、他のサーバ、パソコンをシャットダウンしてしまう可能性がありますので IP Address の設定には十分注意してください。
- (3) 登録 IP Address が違っていると、シャットダウン信号の発行にむだな時間が生じ期待する順序停止が遅れる事があります。
- (4) Web/SNMPカードとサーバ、パソコン間の接続ルートに存在する HUB の電源がバックアップされてない場合、停電で HUB の機能が喪失します。
その場合、Web/SNMPカードからサーバ、パソコンへシャットダウン信号が送信できないため OS のシャットダウンが正常に実行されません。
Web/SNMPカードとサーバ、パソコン間の接続ルートに存在する HUB の電源もバックアップすることを推奨します。

本画面では、シャットダウン信号の発行に関するパラメータの設定を行います。

シャットダウン信号は UPS から電源供給を受けているサーバ、パソコンに TCP/IP で信号を送り、サーバ、パソコンの OS シャットダウンを実行するものです。

最大 8 台のサーバ、パソコンの登録が可能です。(UPS に最大 8 台接続可能)

①プログラム

OS シャットダウンを実行するソフトウェアを選択します。デフォルトでは Netshut が有効となります。旧ソフトウェアを使用する場合は本設定値を変更して下さい。

②IP Address 1-8

シャットダウン信号の発行相手先(UPS から電源供給を受けるサーバやパソコン)の IP Address を入力します。

③ポート番号

シャットダウン信号の送信先ポートを設定します。①のプログラムで Netshut 以外を選択した場合は変更できません。

④負荷セグメント

接続されている、負荷セグメントを選択します。

⑤シャットダウン信号の発行遅延時間

IP Address 1 に対するシャットダウン信号の発行からの時間間隔(秒)を入力します。

IP Address 2～IP Address 8 に関しては IP Address 1 を基準にしてシャットダウン信号の発行に遅延時間を設けることが可能です。サーバ、パソコンの停止に順序関係が必要な用途に対応できます。

⑥テスト実行ボタン

①で設定した IP Address のサーバ、パソコンに対してシャットダウン信号の発行(OS シャットダウン)テストを実行します。このテストは実際にシャットダウン信号を発行(OS シャットダウン)するため、①で設定した IP Address が間違っていた場合、他のサーバ、パソコンをシャットダウンしてしまう可能性がありますので IP Address の設定には十分注意してください。

⑦設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑧キャンセルボタン

各入力値を入力前の値に戻します。

シャットダウン信号を発行し、OS をシャットダウンした後に UPS の出力を停止するまでの時間(UPS 出力停止遅延時間)の設定は2通りあり、個別にその時間設定が可能です。

停電検出時	停電検出時の UPS 出力停止遅延時間設定
スケジュール運転、イベント発生時	イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間設定

3.4.16. イベント通知設定画面

メニューの[イベント通知設定]を選択すると、右フレームにイベント通知設定画面を表示します。

管理画面[イベント通知設定]

発生イベント	レベル	e-mail	ログ
商用電源異常発生	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
商用電源復旧	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
OSシャットダウン開始	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
停電中バッテリー電圧低下	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
過負荷	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
過負荷解除	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
周囲温度異常	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
周囲温度異常解除	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
UPS故障	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
起動時入力異常	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バッテリーテスト異常	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バッテリーテスト正常	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
UPS通常運転	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
UPSバックアップ運転	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
UPSバイパス運転	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
UPS出力停止	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
通信切断	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
通信復帰	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
過負荷停止	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
定格電圧設定異常	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
緊急停止状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
初充電不能	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
負荷短絡	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
負荷短絡解除	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
CPU異常	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
緊急シャットダウン命令状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
セットアップスイッチオフ状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
セットアップスイッチオフ状態解除	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バイパス切替不可	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
インバータ運転状態	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
出力過負荷レベル1	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
出力過負荷レベル2	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
出力過負荷レベル3	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
インバータ給電状態	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
遠方始動指令状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バッテリー電圧低下停止	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
自動運転機能有効状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バッテリー起動状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バックフィード接触器異常	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
バッテリー未接続状態	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
UPS停止前通知	アラーム	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
HE給電状態	情報	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

設定 キャンセル

注) シャットダウンは停止動作設定で選択したモードでサーバやパソコンのOSシャットダウンUPSの出力停止の動作を行います。

図 3-33 イベント通知設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 瞬時停電や瞬時の過負荷など、Web/SNMPカードが異常を検出するより早く、UPS が正常な状態に復帰すると、e-mail の送信やイベントログへの書き込みが実行されない場合があります。

本画面では、イベント発生時の各種通知に関するパラメータの設定を行います。

①発生イベント

通知処理の対象となるイベントを表示します。

②レベル

イベントのレベルを表示します。

アラームとは UPS が出力を停止する危険性があるイベントを意味します。

情報とは UPS の出力に影響がないイベントを意味します。

③e-mail

イベント発生時に e-mail を送信するかどうかを設定します。

デフォルトの設定はアラームレベルのイベントが有効となっています。

④ログ

イベント発生時にイベントログの出力を行うかどうかを設定します。

デフォルトの設定は全イベントが有効となっています。

⑤設定ボタン

設定した各値をWeb/SNMPカードのメモリへ書き込みます。

⑥キャンセルボタン

各設定値を入力前の値に戻します。

3.4.17. 時刻設定画面

メニューの[時刻設定]を選択すると、右フレームに時刻設定画面を表示します。

UPS管理画面[時刻設定]

カードに設定する時刻を入力して下さい。

2001年 11月 19日 11時 00分

設定 キャンセル

図 3-34 時刻設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- [一般設定]で Time Server IP Address を設定した場合、NTP サーバから取得した時刻情報で Web/SNMPカード内部の時計を自動補正します。
補正は 2 回/日で内部の時計が 11:45 と 23:45 になった時に実行します。
NTP サーバが利用できる環境で Web/SNMPカードを使用することを推奨します。
- Web/SNMPカード内部の時計 IC は水晶発振器を使用しておりますが、長時間連続使用で若干の時間のずれを生じます。
NTP サーバを利用できない場合は、1回/月は時刻の確認とズレ補正の為に時刻設定を実施してください。
- Web/SNMPカード上の時計のバックアップ可能期間は約 2 週間です。長期間 Web/SNMPカードの電源を OFF している場合は、時刻設定を実施して下さい。

本画面では、Web/SNMPカード内の内部時刻の設定を行います。

①時刻

Web/SNMPカードに設定すべき時刻を設定します。

②設定ボタン

時刻設定値をWeb/SNMPカードへ設定します。

③キャンセルボタン

時刻設定値を入力前の値に戻します。

3.4.18. ユーザ名/パスワードの設定画面

メニューの[ユーザ名/パスワード設定]を選択すると、右フレームにユーザ名/パスワード設定画面を表示します。

UPS管理画面[ユーザ名/パスワード設定]

ユーザ名、パスワードを変更する時は下記フォームに入力してください。
パスワードは伏せ字になりますが、同じものを入力してください。

ユーザ名:

パスワード:

パスワードの再入力:

図 3-35 ユーザ名/パスワード設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- パスワード、ユーザ名を忘れてしまった場合でログインできない場合はWeb/SNMPカード・インストールガイドの「[4.1.2 シリアル通信による設定方法](#)」を参照して下さい。

本画面では、ログイン時に必要なユーザ名とパスワードを設定します。

①ユーザ名

ログイン画面で入力するユーザ名を設定します。
デフォルトは”FUJI”です。
半角英数字8文字まで入力可能です。
ユーザ名には大文字、小文字の区別があります。

②パスワード

ログイン画面で入力するパスワードを設定します。
デフォルトは”FUJI”です。
半角英数字8文字まで入力可能です。
パスワードには大文字、小文字の区別があります。

③パスワードの再入力

確認のため、②で設定したパスワードと同じ値を設定します。

④設定ボタン

ユーザ名とパスワードの設定値をWeb/SNMPカード内のメモリに書き込みます。

⑤キャンセルボタン

ユーザ名とパスワードの設定値を入力前の値に戻します。

3.5. イベントログ

メニューの[イベントログ]を選択すると、右フレームにイベントログ画面を表示します。

イベントログクリア ^①		イベントログ保存(CSV) ^②		ログ件数:31 ^③	前ページ ^④	1/2 ^⑤	次ページ ^⑥
年月日	時刻	発生イベント					
2003-08-05	16:10:14	UPS 通常運転					
2003-08-05	16:10:06	スケジュールUPS出力ON (Daily delay = 0sec)					
2003-08-05	16:10:06	&C (UPS出力ON command OK).					
2003-08-05	16:07:07	UPS出力停止 (Sent email OK).					
2003-08-05	16:07:07	UPS出力停止					
2003-08-05	16:05:03	OSシャットダウン開始 (Sent email OK).					
2003-08-05	16:05:03	OSシャットダウン開始					
2003-08-05	16:05:03	スケジュールUPS出力OFF (Daily delay = 120sec, 5min)					
2003-08-05	15:57:13	バッテリーテスト正常					
2003-08-05	15:56:46	&T (バッテリーテスト command OK).					
2003-08-05	15:54:41	UPS 通常運転					
2003-08-05	15:49:45	&T (バッテリーテスト command OK).					
2003-08-05	15:31:06	UPS故障 / 出力電圧異常 (Sent email OK).					
2003-08-05	15:31:06	UPS故障 / 出力電圧異常					
2003-08-05	15:30:16	UPS 通常運転					
2003-08-05	15:30:10	スケジュールUPS出力ON (Daily delay = 0sec)					
2003-08-05	15:30:09	&C (UPS出力ON command OK).					
2003-08-05	15:27:20	UPS出力停止 (Sent email OK).					
2003-08-05	15:27:20	UPS出力停止					
2003-08-05	15:25:07	スケジュールUPS出力OFF (Daily delay = 120sec, 5min)					

図 3-36 イベントログ表示画面

重要

- UPS スケジュール設定による UPS の出力 OFF、または UPS の前面にある運転/停止スイッチを押すことによって UPS の出力を OFF した後、すぐに UPS の交流入力プラグを抜くと一部のログが消失する可能性があります。UPS の交流入力プラグは UPS の出力を OFF してから約 10 秒経過してから抜いてください。
- [イベントログクリア]リンクや[イベントログ保存(csv)]リンクを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。このメッセージが表示された時は、実行した操作が正常に受け付けられていませんので再度リンクを選択してください。

本画面は上下 2 つのフレームから構成され、上フレームには[イベントログクリア]リンクと[イベントログ保存(csv)]リンク、[前のページ]リンク、[次のページ]リンクとログ件数、現在開いているページ数(n/m)を表示します。下フレームにはイベントログの内容を表示します。

イベントログは 800 件保存することができます。800 件を越えると古いイベントログから順次上書きされます。イベントログに記録される内容は、[イベント通知設定]で行います。

設定方法は3.4.16イベント通知設定画面を参照して下さい。

①[イベントログクリア]リンク

このリンクを選択すると、新しいウィンドウが開き、イベントログのクリア確認ダイアログが表示されます。

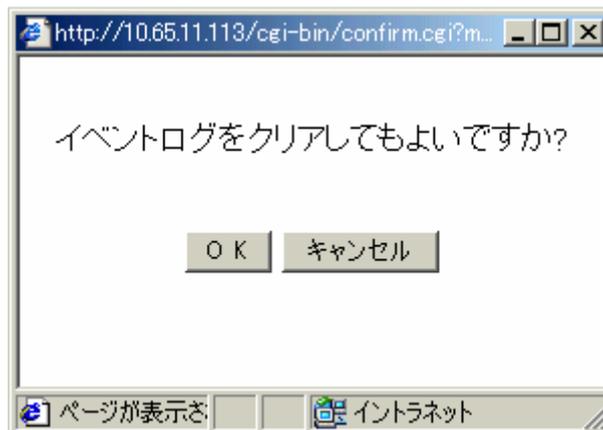


図 3-37 イベントログクリア確認ダイアログ

“OK”ボタンを選択すると、イベントログのクリアが実行されます。

“キャンセル”ボタンを選択するとこのダイアログが閉じられます。

②[イベントログ保存(csv)]リンク

このリンクを選択すると新しいウィンドウが開き、イベントログのダウンロードダイアログを表示します。



図 3-38 イベントログの保存ダイアログ

[eventlog.csv]リンクを選択すると、イベントログのダウンロード画面を表示します。

ブラウザによってはダウンロード画面を表示せず、ダイアログにイベントログを表示する事があります。その場合はダイアログを閉じて、再度イベントログの保存を選択して[eventlog.csv]リンクを右クリックから保存して下さい。

[閉じる]リンクを選択するとこのダイアログが閉じられます。



図 3-39 イベントログのダウンロードダイアログ

③ログ件数:

現在保存されているログの件数を表します。

④[前のページ]リンク

このリンクを選択すると前のページに移動します。

⑤ 現在の参照ページ番号 (n / m)

現在 m 分の n ページを開いていることを表します。

⑥[次のページ]リンク

このリンクを選択すると次のページに移動します。

イベントログに記録されるログの内容例を以下に示します。

No	ログ記録内容例	イベント通知	イベント内容
		設定選択	
1	商用電源異常発生／電圧 0V 周波数 0Hz	ログ	商用電源異常発生時
	商用電源異常発生／電圧 0V 周波数 0Hz (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	商用電源異常発生／電圧 0V 周波数 0Hz (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
2	商用電源復旧 (Auto-reboot Enabled).	ログ	商用電源復旧時
	商用電源復旧 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	商用電源復旧 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
3	停電中バッテリー電圧低下	ログ	停電中バッテリー電圧低下時
	停電中バッテリー電圧低下(Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	停電中バッテリー電圧低下(Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
4	OS シャットダウン開始	ログ	OS シャットダウン開始時
	OS シャットダウン開始 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	OS シャットダウン開始 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
5	過負荷／負荷率	ログ	出力過負荷時
	過負荷／負荷率 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	過負荷／負荷率 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
6	過負荷解除	ログ	過負荷解除時
	過負荷解除 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	過負荷解除 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
7	周囲温度異常／周囲温度 **°C	ログ	周囲温度異常時 (**は現在の温度)
	周囲温度異常／周囲温度 **°C(Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	周囲温度異常／周囲温度 **°C(Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
8	周囲温度異常解除	ログ	周囲温度異常解除時
	周囲温度異常解除 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	周囲温度異常解除 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
9	UPS 故障／温度異常	ログ	UPS 温度異常時
	UPS 故障／温度異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／温度異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／冷却ファン異常	ログ	UPS 冷却ファン異常時
	UPS 故障／冷却ファン異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／冷却ファン異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／INV 出力過電圧	ログ	INV 出力過電圧時
	UPS 故障／INV 出力過電圧 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／INV 出力過電圧 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／INV 出力不足電圧	ログ	INV 出力不足時
	UPS 故障／INV 出力不足電圧 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／INV 出力不足電圧 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／INV 出力過電流	ログ	INV 出力過電流時
	UPS 故障／INV 出力過電流 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／INV 出力過電流 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／整流器入力過電流	ログ	整流器入力過電流時
	UPS 故障／整流器入力過電流 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／整流器入力過電流 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／直流過電圧	ログ	直流過電圧時
	UPS 故障／直流過電圧 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／直流過電圧 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／直流不足電圧	ログ	直流不足電圧時
	UPS 故障／直流不足電圧 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障／直流不足電圧 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障／INV 故障	ログ	INV 故障時
	UPS 故障／INV 故障 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時

No	ログ記録内容例	イベント通知	イベント内容
		設定選択	
9	UPS 故障/INVN 故障 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障/充電器故障	ログ	充電器故障時
	UPS 故障/充電器故障 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障/充電器故障 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障/INVN 出力直流成分異常	ログ	INV 出力電流成分異常時
	UPS 故障/INVN 出力直流成分異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 故障/INVN 出力直流成分異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
	UPS 故障/CPU 異常	ログ	CPU 異常時(EERPM 異常を含む)
	UPS 故障/CPU 異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
UPS 故障/CPU 異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時	
10	起動時入力異常	ログ	起動時入力異常時
	起動時入力異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	起動時入力異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
11	バッテリーテスト異常	ログ	バッテリーテスト異常時
	バッテリーテスト異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バッテリーテスト異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
12	バッテリーテスト正常	ログ	バッテリーテスト正常時
	バッテリーテスト正常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バッテリーテスト正常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
13	UPS 通常運転	ログ	UPS 通常運転開始時
	UPS 通常運転 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 通常運転 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
14	UPS バックアップ運転	ログ	UPS バックアップ運転時
	UPS バックアップ運転 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS バックアップ運転 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
15	UPS バイパス運転	ログ	UPS バイパス運転時
	UPS バイパス運転 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS バイパス運転 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
16	UPS 出力停止	ログ	UPS 出力停止時
	UPS 出力停止 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 出力停止 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
17	通信切断	ログ	通信切断時
	通信切断 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	通信切断 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
18	通信復帰	ログ	通信復帰時
	通信復帰 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	通信復帰 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
19	緊急停止状態	ログ	緊急停止時
	緊急停止状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	緊急停止状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
20	負荷短絡	ログ	負荷短絡時
	負荷短絡 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	負荷短絡 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
21	負荷短絡解除	ログ	負荷短絡解除時
	負荷短絡解除 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	負荷短絡解除 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
22	緊急シャットダウン命令状態	ログ	緊急シャットダウン時
	緊急シャットダウン命令状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	緊急シャットダウン命令状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
23	セットアップスイッチオープン状態	ログ	セットアップ時
	セットアップスイッチオープン状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
23	セットアップスイッチオープン状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
24	セットアップスイッチオープン状態解除	情報	セットアップ解除時

No	ログ記録内容例	イベント通知	イベント内容
		設定選択	
24	セットアップスイッチオープン状態解除 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	セットアップスイッチオープン状態解除 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
25	バイパス切換不可	ログ	バイパス切り替え不可時
	バイパス切換不可 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バイパス切換不可 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
26	インバータ運転状態	ログ	インバータ運転時
	インバータ運転状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	インバータ運転状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
27	出力過負荷レベル 1	ログ	出力負荷レベル 1 状態時
	出力過負荷レベル 1 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	出力過負荷レベル 1 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
28	出力過負荷レベル 2	ログ	出力負荷レベル 2 状態時
	出力過負荷レベル 2 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	出力過負荷レベル 2 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
29	出力過負荷レベル 3	ログ	出力負荷レベル 3 状態時
	出力過負荷レベル 3 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	出力過負荷レベル 3 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
30	インバータ給電状態	ログ	インバータ給電開始時
	インバータ給電状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	インバータ給電状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
31	遠方始動指令状態	ログ	遠方指導指令状態時
	遠方始動指令状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	遠方始動指令状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
32	バッテリー電圧低下停止	ログ	バッテリー電圧低下時
	バッテリー電圧低下停止 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バッテリー電圧低下停止 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
33	自動運転機能有効状態	ログ	自動運転機能有効時
	自動運転機能有効状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	自動運転機能有効状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
34	バッテリー起動状態	ログ	バッテリー起動時
	バッテリー起動状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バッテリー起動状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
35	バックフィード接触器異常	ログ	バックフィード接触器異常時
	バックフィード接触器異常 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バックフィード接触器異常 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
36	バッテリー未接続状態	ログ	バッテリー未接続時
	バッテリー未接続状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	バッテリー未接続状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
37	UPS 停止前通知	アラーム	UPS 停止前通知発生時
	UPS 停止前通知 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	UPS 停止前通知 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時
38	HE 給電状態	ログ	HE 給電状態時
	HE 給電状態 (Sent email OK).	e-mail	e-mail 送信時
	HE 給電状態 (Sent email NG).	e-mail	e-mail 送信不可時

上記表のイベント通知設定選択はイベント通知設定の e-mail かログのどちらを有効にすると記録されることを示しています。

下記イベントログはイベント通知設定に関係なく記録されます。

ログ記録内容例	イベント内容
停電時出力停止遅延中 (SEG* shutdown delay 180).	商用異常時かつ UPS 出力停止遅延カウント開始時 (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
負荷セグメント* ON	負荷セグメント ON 時 (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
負荷セグメント* OFF	負荷セグメント OFF 時 (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
スケジュール負荷セグメント*出力 OFF (Daily delay = 180sec, 340min)	スケジュール実行時 (UPS 出力停止) (毎日) (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
スケジュール負荷セグメント*出力 ON (Daily delay = 0sec)	スケジュール実行 (UPS 出力 ON) (毎日) (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
スケジュール負荷セグメント*出力 OFF (Weekly delay = 180sec, 340min)	スケジュール実行時 (UPS 出力停止) (毎週) (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
スケジュール負荷セグメント*出力 ON (Weekly delay = 0sec)	スケジュール実行 (UPS 出力 ON) (毎週) (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
スケジュール負荷セグメント*出力 OFF (Once delay = 180sec, 340min)	スケジュール実行時 (UPS 出力停止) (指定日) (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
スケジュール負荷セグメント*出力 ON (Once delay = 0sec)	スケジュール実行 (UPS 出力 ON) (指定日) (* = 1, 2 負荷セグメントの No)
設定ファイルのアップロード完了	設定ファイルのアップロード完了時
ファームウェア更新終了	ファームウェアの更新完了時
リポート開始	ファームウェア更新後のリポート時
Netshut send OK (***, ***, ***, ***)	OS シャットダウン信号 (Netshut) の送信成功時
Netshut send NG (***, ***, ***, ***)	OS シャットダウン信号 (Netshut) の送信失敗時
Telnet/RSH send OK (***, ***, ***, ***)	Telnet/rsh の送信成功時
Telnet/RSH send NG (***, ***, ***, ***)	telnet/rsh の送信失敗時
[UD] 通信開始	PowerSOL ドメインとの通信開始時
[UD] 通信接続	PowerSOL ドメインとの通信接続時
[UD] 通信切断	PowerSOL ドメインとの通信切断時

3.6. データログ

メニューの[データログ]を選択すると、右フレームにデータログ画面を表示します。

データログクリア		データログ保存(CSV)		ログ件数:76		前ページ		1/4		次ページ	
①	②	③	④	⑤	⑥						
年月日	時刻	入力 電圧 [V]	入力 周波数 [Hz]	入力 電力 [kVA]	出力 電圧 [V]	出力 周波数 [Hz]	負荷率 [%]	バッテリ 電圧 [V]	周囲 温度 [℃]	バッテリ 容量 [%]	
2003-08-05	16:40:30	105.0	60.0	0.0	105.0	60.0	0	27.3	29.0	100	
2003-08-05	16:38:30	105.0	60.0	0.0	105.0	60.0	0	27.3	29.0	100	
2003-08-05	16:36:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	29.0	100	
2003-08-05	16:34:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	29.0	100	
2003-08-05	16:32:30	102.0	60.0	0.0	102.0	60.0	0	27.3	29.0	100	
2003-08-05	16:30:30	104.0	60.0	0.0	104.0	60.0	0	27.3	28.0	100	
2003-08-05	16:28:30	106.0	60.0	0.0	106.0	60.0	0	27.3	28.0	100	
2003-08-05	16:26:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	28.0	100	
2003-08-05	16:24:30	105.0	60.0	0.0	105.0	60.0	0	27.3	28.0	90	
2003-08-05	16:22:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	27.0	90	
2003-08-05	16:20:30	101.0	60.0	0.0	101.0	60.0	0	27.3	27.0	90	
2003-08-05	16:18:30	106.0	60.0	0.0	106.0	60.0	0	27.3	27.0	90	
2003-08-05	16:16:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	27.0	90	
2003-08-05	16:14:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	27.0	90	
2003-08-05	16:12:30	106.0	60.0	0.0	106.0	60.0	0	27.3	25.0	90	
2003-08-05	16:10:30	104.0	60.0	0.0	104.0	60.0	0	27.3	24.0	90	
2003-08-05	16:08:30	102.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	24.0	0	
2003-08-05	16:06:30	105.0	60.0	0.0	105.0	60.0	0	27.3	23.0	100	
2003-08-05	16:04:30	106.0	60.0	0.0	106.0	60.0	0	27.3	23.0	100	
2003-08-05	16:02:30	103.0	60.0	0.0	103.0	60.0	0	27.3	21.0	100	

図 3-40 データログ表示画面

重要

- UPS スケジュール設定による UPS の出力 OFF、または UPS の前面にある運転/停止スイッチを押すことによって UPS の出力を OFF した後、すぐに UPS の交流入力プラグを抜くと一部のログが消失する可能性があります。
UPS の交流入力プラグは UPS の出力を OFF してから約 10 秒経過してから抜いてください。
- [データログクリア]リンクや[データログ保存(csv)]リンクを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、実行した操作が正常に受け付けられていませんので再度リンクを選択してください。

本画面は上下2つのフレームから構成され、上フレームには[データログクリア]リンクと[データログ保存(csv)]リンク、[前のページ]リンク、[次のページ]リンクとログ件数、現在開いているページ数 (n / m)を表示します。下フレームにはデータログの内容を表示します。

データログは2分間隔で自動的に記録され、720件を越えると古いデータログから順次上書きされます。

①[データログクリア]リンク

このリンクを選択すると、新しいウィンドウが開き、データログのクリア確認ダイアログを表示します。

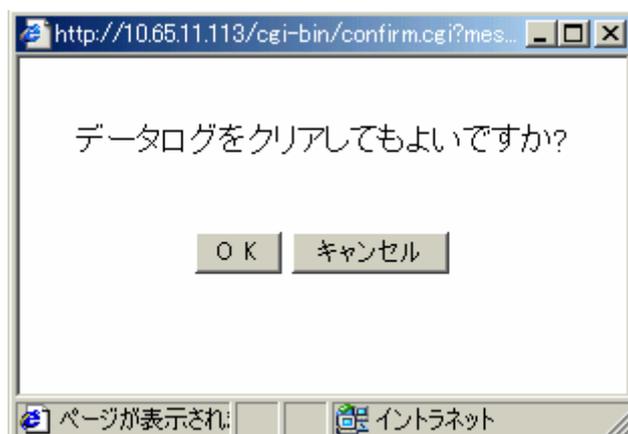


図 3-41 データログクリア確認ダイアログ

“OK ボタン”を選択すると、データログのクリアが実行されます。

“キャンセル”ボタンを選択するとこのダイアログが閉じられます。

②[データログ保存(csv)]リンク

このリンクを選択すると新しいウィンドウが開き、データログのダウンロードダイアログを表示します。



図 3-42 データログの保存ダイアログ

[datalog.csv]リンクを選択すると、データログのダウンロード画面を表示します。

ブラウザによってはダウンロード画面を表示せず、ダイアログにデータログを表示する場合があります。その場合はダイアログを閉じて、再度[データログの保存]を選択して[datalog.csv]のリンクを右クリックから保存して下さい。

“閉じる”リンクを選択するとこのダイアログが閉じられます。

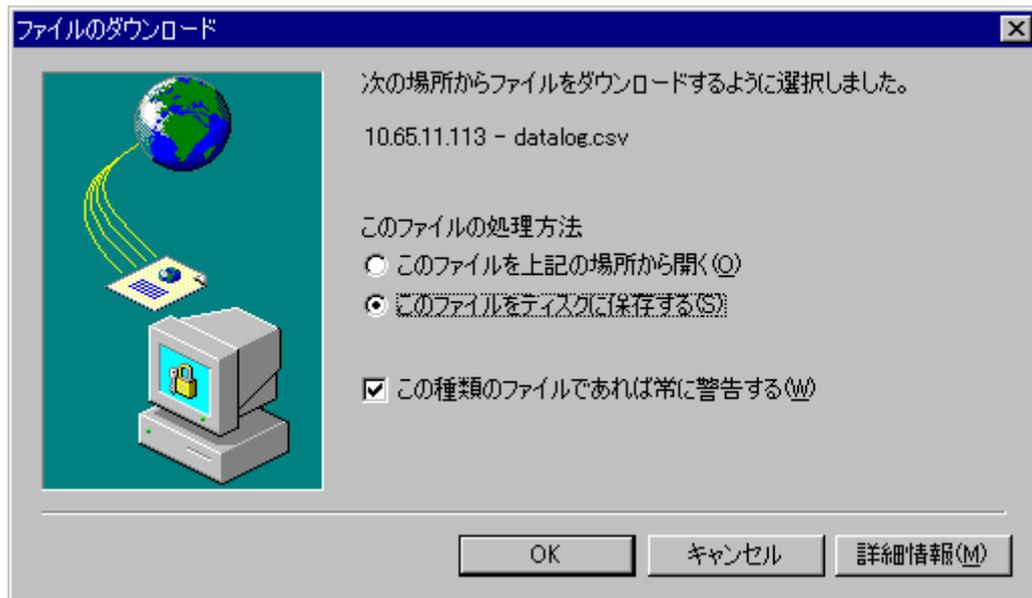


図 3-43 データログのダウンロードダイアログ

③ログ件数:

現在保存されているログの件数を表します。

④[前のページ]リンク

このリンクを選択すると前のページに移動します。

⑤現在の参照ページ番号 (n / m)

現在 m 分の n ページを開いていることを表します。

⑥[次のページ]リンク

このリンクを選択すると次のページに移動します。

3.7. UPS スケジュール設定

メニューの[UPS スケジュール設定]を選択すると、右フレームに UPS スケジュール設定画面を表示します。

UPSスケジュール設定

【毎日設定】

停止 17 時 30 分

起動 8 時 30 分

負荷セグメント1のみ

両セグメント

設定

負荷セグメント1

毎日

毎週

指定日

スケジュール全削除

設定リスト

停止時刻

起動時刻

削除

負荷セグメント2

スケジュール表示年月日 2011 年 7 月 19 日 **表示**

月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
07-19(火)																								
07-20(水)																								
07-21(木)																								
07-22(金)																								
07-23(土)																								
07-24(日)																								
07-25(月)																								
07-26(火)																								
07-27(水)																								
07-28(木)																								
07-29(金)																								
07-30(土)																								
07-31(日)																								
08-01(月)																								
08-02(火)																								
08-03(水)																								
08-04(木)																								
08-05(金)																								
08-06(土)																								
08-07(日)																								
08-08(月)																								
08-09(火)																								
08-10(水)																								
08-11(木)																								
08-12(金)																								
08-13(土)																								
08-14(日)																								
08-15(月)																								
08-16(火)																								
08-17(水)																								
08-18(木)																								
月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23

図 3-44 UPS スケジュール設定画面

⚠ 注意

- 停止、起動の日時をプルダウンメニューで選択後、“設定”ボタンを選択することによって設定が有効になります。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定は無効ですので注意してください。
- 停止、起動の日時をプルダウンメニューで選択後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合、設定は無効ですので注意してください。
- スケジュールのバーチャートの表示開始日は現在の日付より過去の日付の表示は出来ません。
- UPS の負荷がサーバの場合はスケジュール運転によりサーバを停止させるために下記設定を実施する必要があります。
 - ① サーバへの Netshut のインストール、およびサービス(デーモン)の実行
 - ② OS Shutdownの設定 (3.4.15OS Shutdown設定画面)
 - ③ 停止動作(イベント)設定 (3.4.11停止動作(イベント)設定画面)

本画面では、UPS の停止/起動スケジュールの設定を行います。
スケジュールには各負荷セグメント事に[毎日]、[毎週]、[指定日]の3種があります。

スケジュール実行時間で停電が発生、またはスケジュールでの UPS 出力停止中に
停電が生じた場合は以下のような動作で出力の停止、再開を行います。

① スケジュールによる停止設定時刻より前に停電が発生した場合

UPS は、スケジュールによる停止時間前に停電が生じた場合、復電後に自動的に出力を再開します。そのため、Web/SNMPカードを実装している場合、Web/SNMPカード起動の 10 分後に再びシャットダウン信号を発行し OS をシャットダウンさせ、UPS 出力を停止します。

ただし、スケジュールでの UPS の再起動予定時刻まで 15 分+UPS の出力停止遅延地時間の設定値未満 (Web/SNMPカード起動からスケジュール起動時間までが 15 分+出力停止遅延時間の設定値未満) の場合、UPS 出力停止動作を行いません。(UPS に起動が 10 分以上かかるパソコン、サーバが接続されている場合、そのパソコン、サーバの OS のシャットダウンが開始されませんので注意して下さい。)

スケジュール再実行条件:

$$15 \text{ 分} > (\text{スケジュール ON までの時間} - (\text{現在時刻} + \text{出力停止遅延時間}))$$

例) 負荷セグメント 1 スケジュール再実行あり/負荷セグメント 2 スケジュール再実行なし

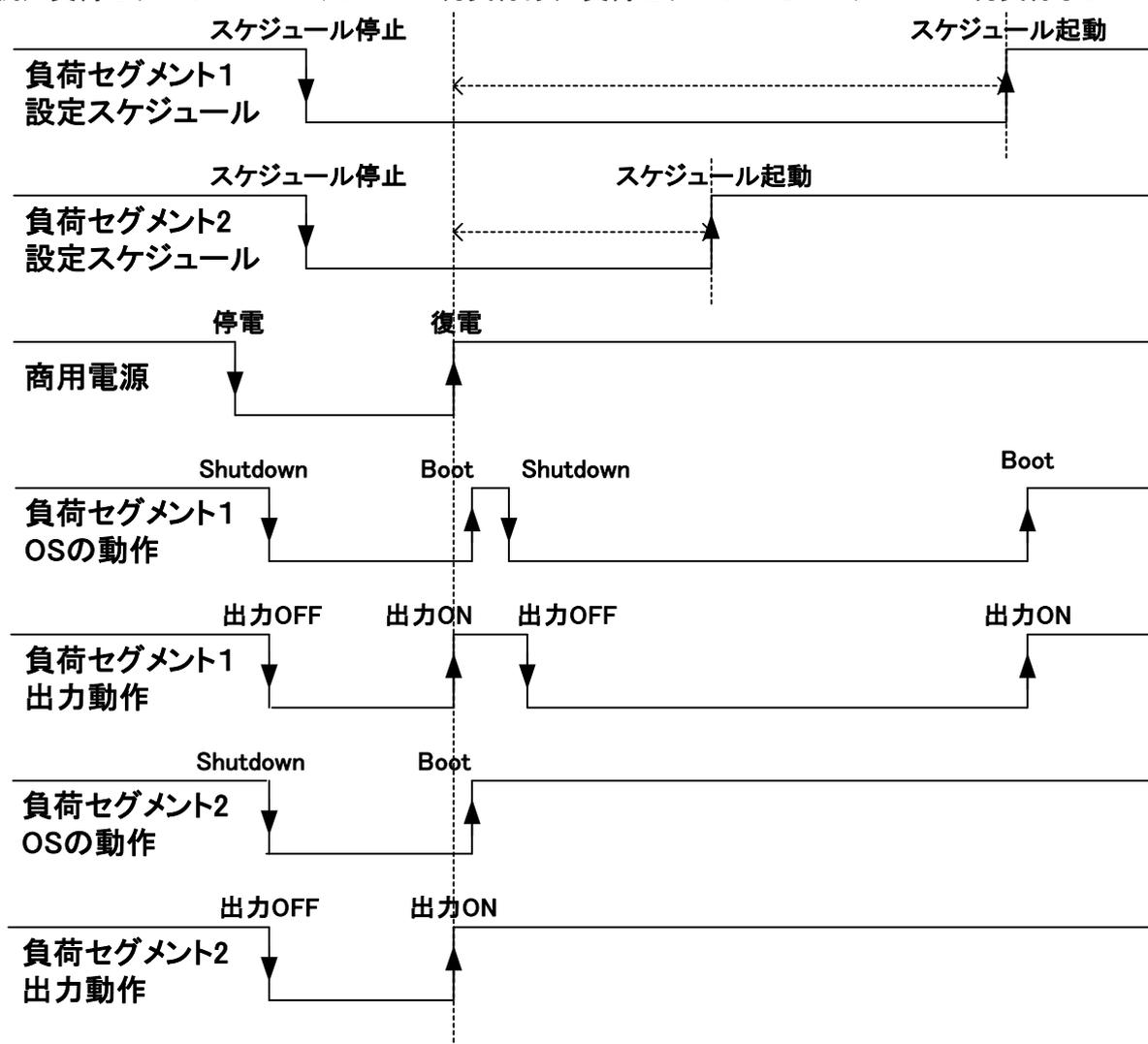


図 3-45 スケジュール再実行例 1

②スケジュールによる停止中(再起動待ち中)に停電が発生した場合

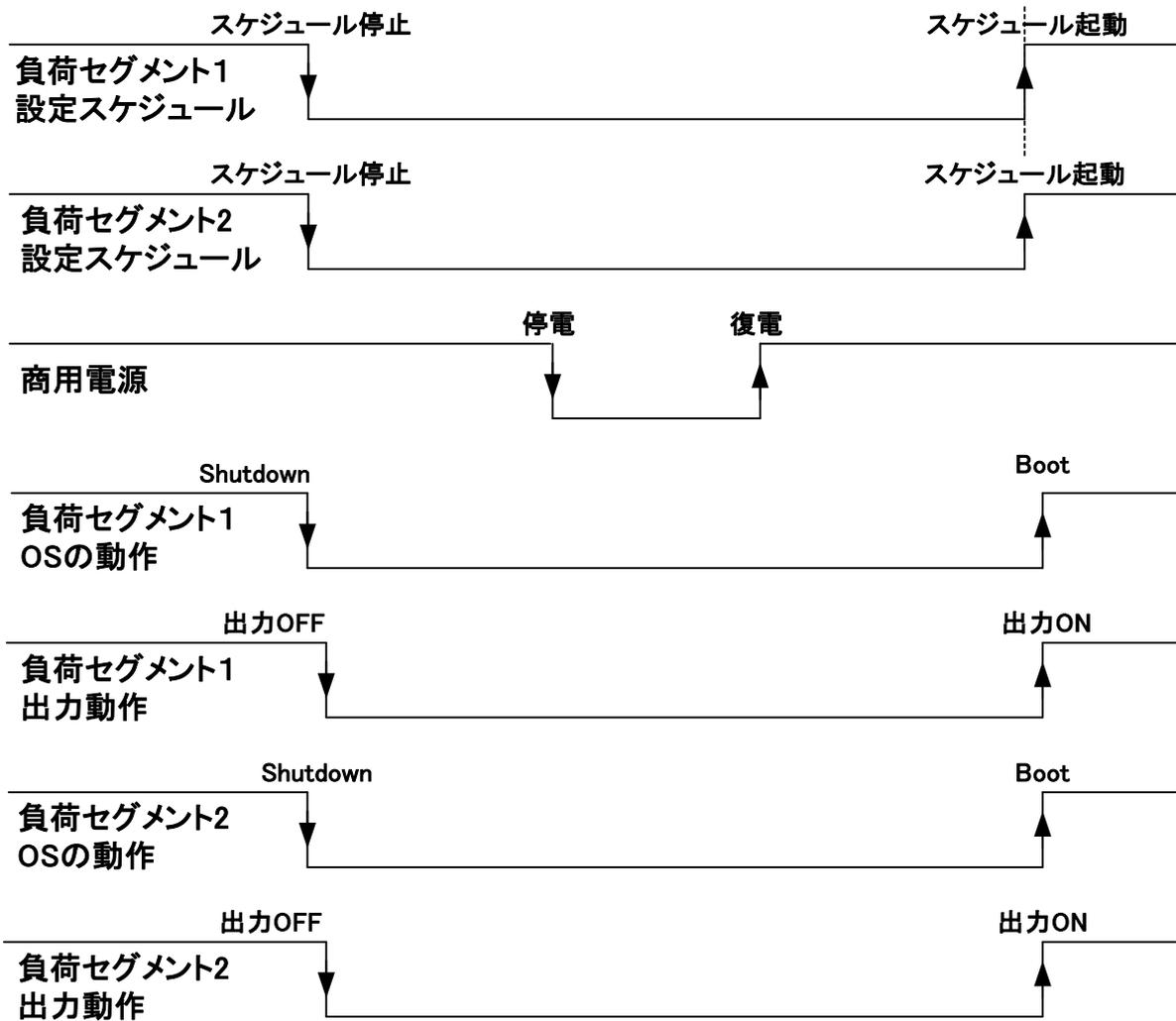


図 3-46スケジュール再実行例 2

③スケジュール起動時間に停電が発生した場合

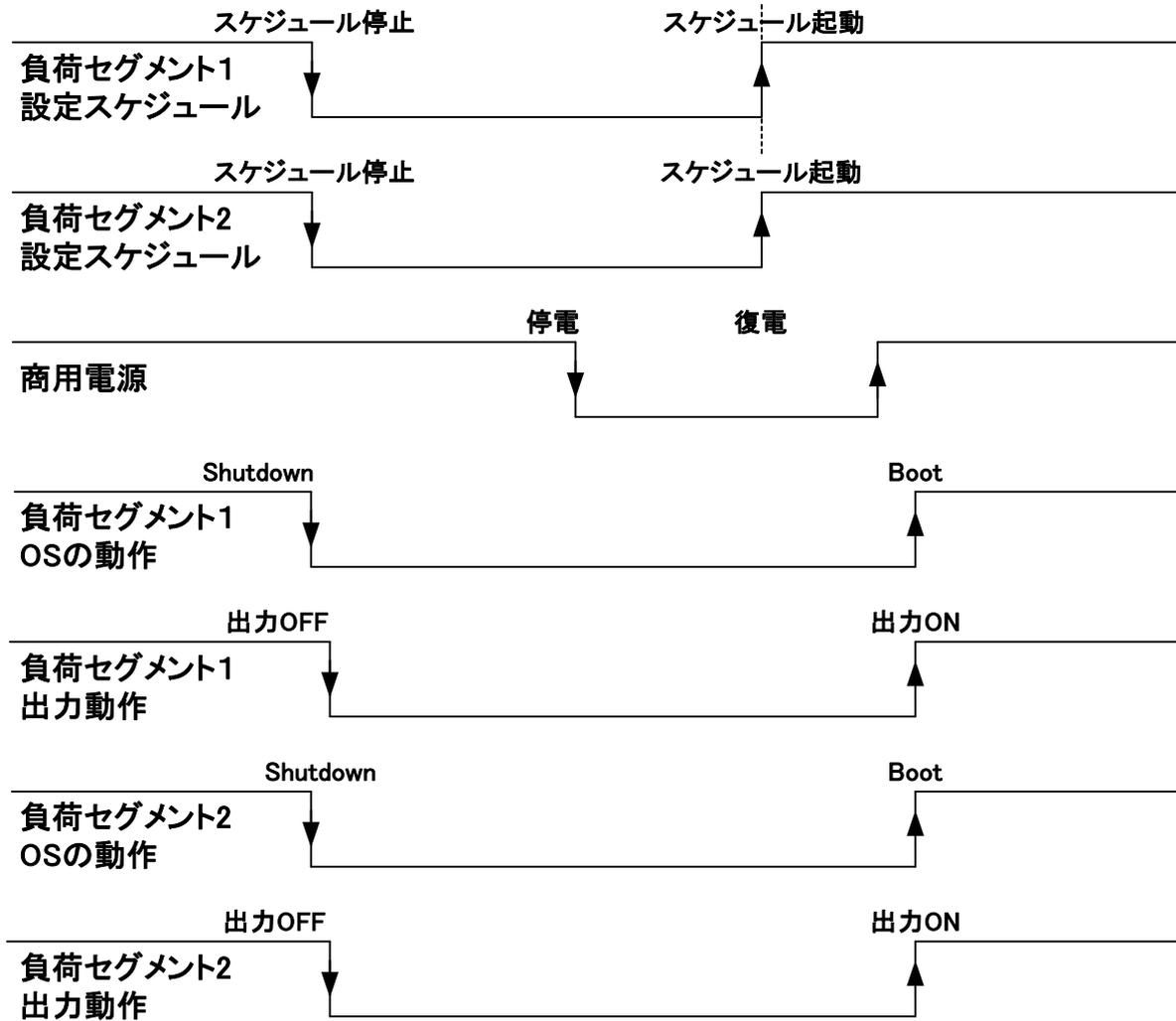


図 3-47スケジュール再実行例 3

④スケジュール OFF 中に各負荷セグメントの出力を ON→OFF を実行した場合

スケジュール OFF 期間中に、負荷セグメントの出力操作(UPS の前面スイッチ、Web 画面、MIB を含む)を実行して出力 ON から出力 OFF を実行した場合、出力操作が優先となるためスケジュール ON 時間が経過しても各負荷セグメントの出力は再開されません。

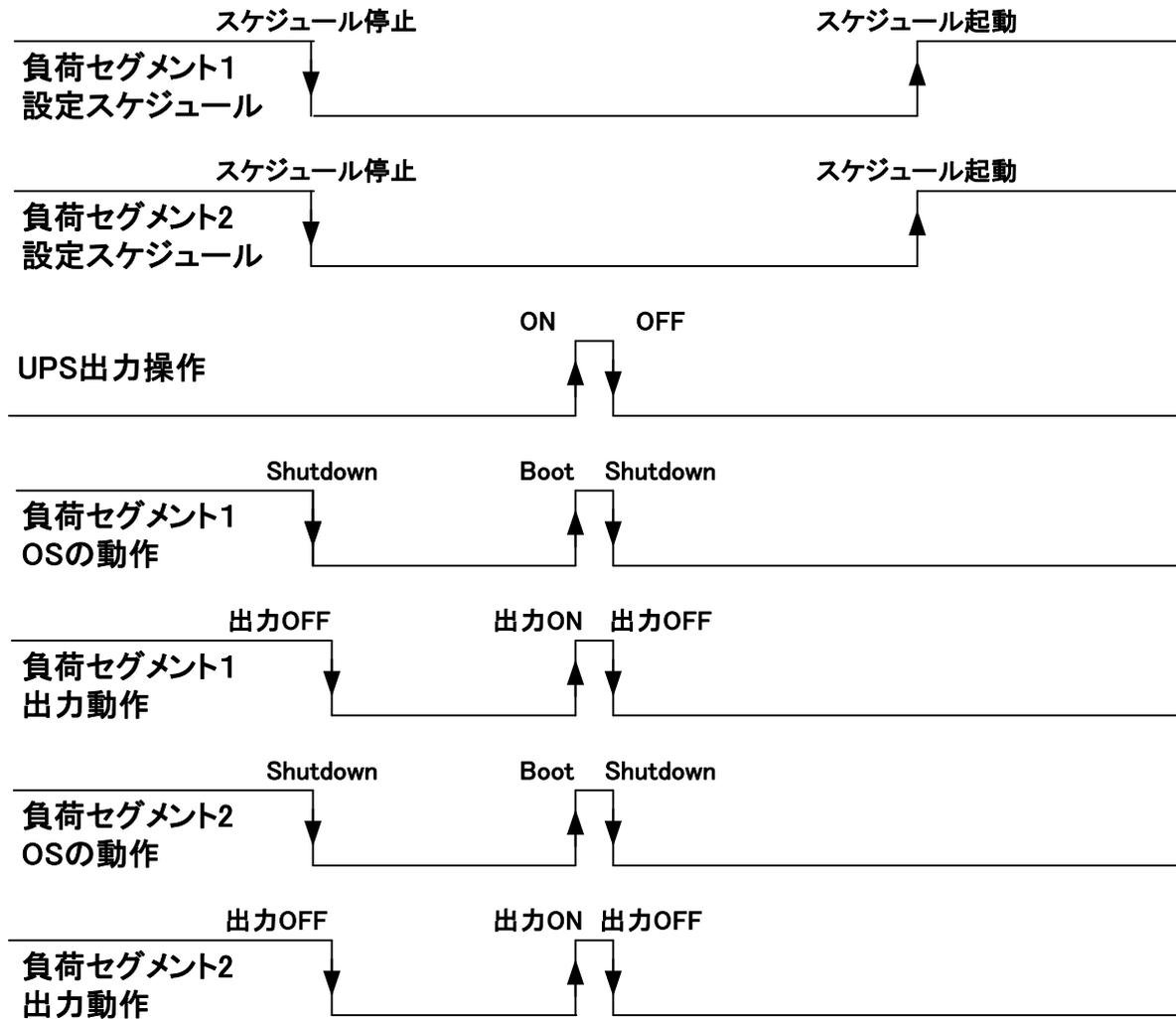


図 3-48スケジュール再実行例 4

⑤スケジュールによる停止設定時刻と停電の停止が同時に発生した場合

スケジュールによる停止と停電による停止時刻が同時に発生した場合、タイミングによって各負荷セグメントの動作が異なる場合があります。各負荷セグメントは独立して動作しているため、同じスケジュール設定であっても、停電で停止する負荷セグメントとスケジュールによる停止を実行する負荷セグメントに分かれる場合があります。

例) 負荷セグメント1 停電停止(再スケジュール) / 負荷セグメント2 スケジュール停止

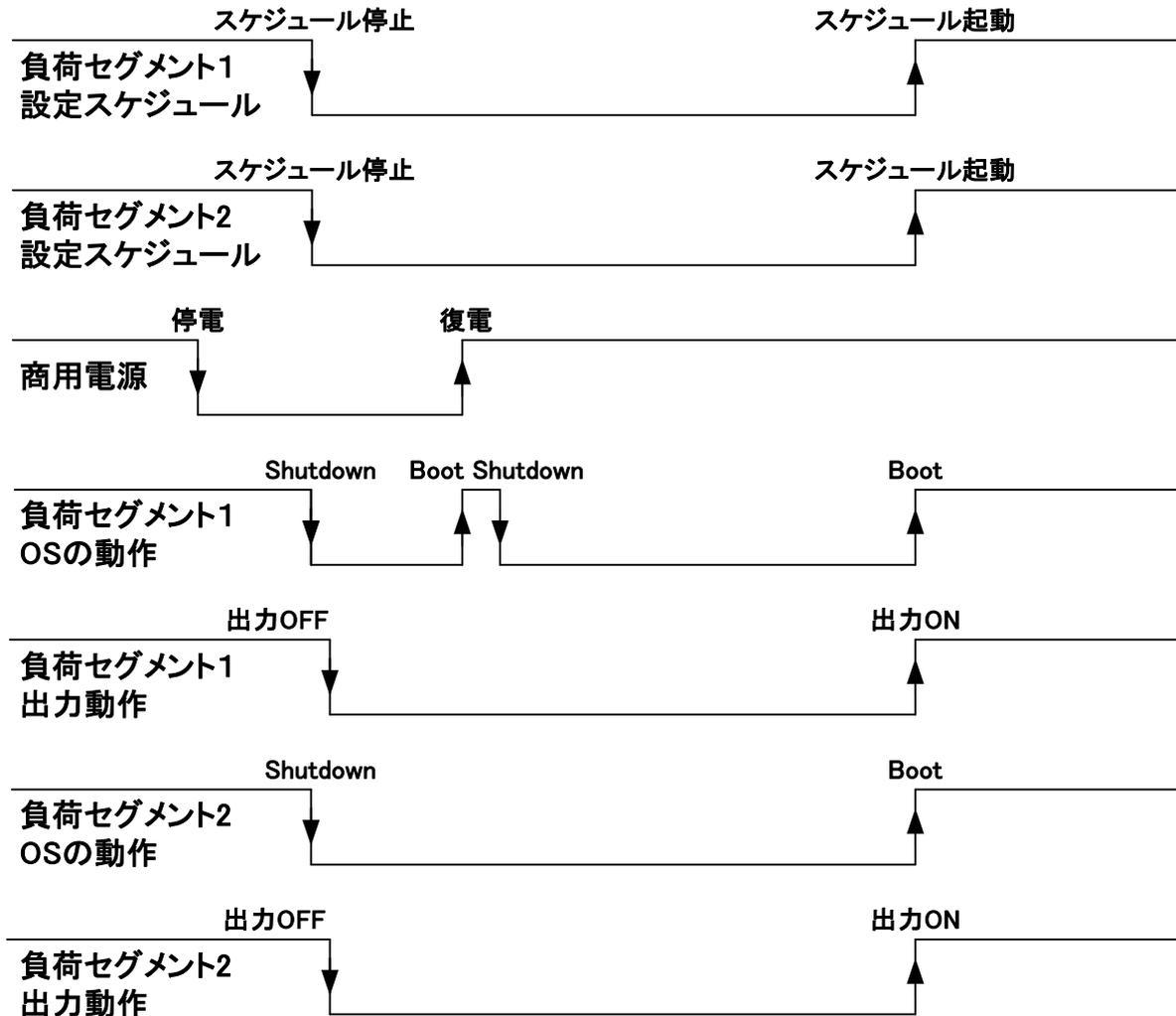


図 3-49スケジュール再実行例 5

- * 負荷セグメント1 は再スケジュールにより再度停止
- * 負荷セグメント2 はスケジュールにより停止

3.7.1. 毎日のスケジュール

UPS スケジュール設定画面の[毎日]リンクを選択すると、毎日実行する UPS の停止/起動のスケジュール設定画面を右フレームに表示します。



図 3-50 毎日リンク

UPSスケジュール設定

[毎日設定]

停止 19時30分
 起動 8時30分

スケジュール表示年月日 2001年 11月 21日

毎日

設定リスト

停止時刻	起動時刻	削除
19:30	08:30	<input type="button" value="削除"/>

月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
11-21(水)									*											*				
11-22(木)									*											*				
11-23(金)									*											*				
11-24(土)																								
11-25(日)																								
11-26(月)									*											*				
11-27(火)									*											*				
11-28(水)									*											*				
11-29(木)									*											*				
11-30(金)									*											*				
12-01(土)																								
12-02(日)																								
12-03(月)									*											*				
12-04(火)									*											*				
12-05(水)									*											*				
12-06(木)									*											*				
12-07(金)									*											*				
12-08(土)																								
12-09(日)																								
12-10(月)									*											*				
12-11(火)									*											*				
12-12(水)									*											*				
12-13(木)									*											*				
12-14(金)									*											*				
12-15(土)																								
12-16(日)																								
12-17(月)									*											*				
12-18(火)									*											*				
12-19(水)									*											*				
12-20(木)									*											*				
12-21(金)									*											*				
月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23

図 3-51 UPS スケジュール設定画面(毎日のスケジュール)

本画面では、毎日実行する UPS の停止/起動スケジュール設定を行います。
 毎日実行する UPS の停止/起動のスケジュールデータは最大 3 件まで設定することが可能です。

①停止

停止時刻の時と分を選択します。

5分単位の設定のみ可能です。

②起動

起動時刻の時と分を選択します。

5分単位の設定のみ可能です。

③設定ボタン

毎日実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータを設定します。

設定が完了すると設定リストに設定データを表示します。

設定したスケジュールが設定リストに表示されることを確認してください。

④[毎日]リンク

このリンクを選択すると毎日実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑤[毎週]リンク

このリンクを選択すると毎週実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑥[指定日]リンク

このリンクを選択すると指定日に実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑦設定リスト

設定されている毎日実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータを表示します。

毎日実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータは最大3件まで設定することが可能です。

⑧[削除]リンク

設定リストの各データの右側に[削除]リンクが表示されています。

このリンクを選択すると、そのデータが削除されます。

⑨[スケジュール全削除]リンク

登録されている全てのスケジュールデータ(毎日、毎週、指定日)を削除します。

このリンクを選択すると右フレームに確認画面を表示します。

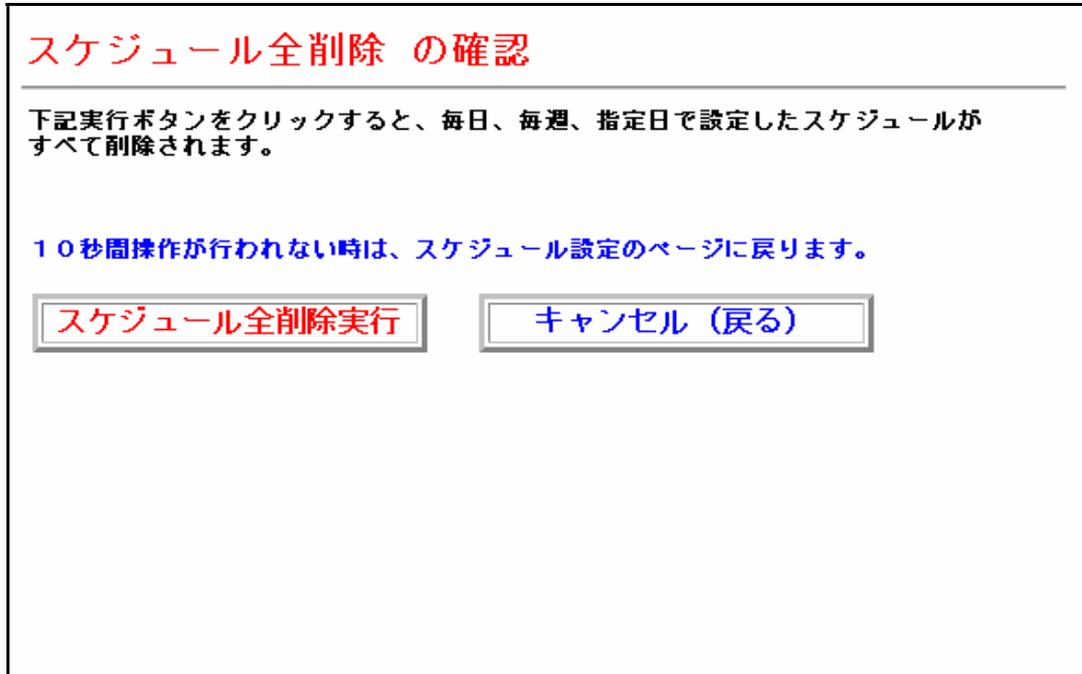


図 3-52 [スケジュール全削除]確認画面

この画面で[スケジュール全削除実行]リンクを選択すると全スケジュールデータが削除されます。
[キャンセル(戻る)]リンクを選択すると、スケジュール設定画面に戻ります。

⑩スケジュール表示年月日

バーチャートの表示開始日をプルダウンメニューから選択します。

現在の日付より過去の日付は表示できません。

⑪表示ボタン

スケジュール表示年月日を選択した後、このボタンを選択すると、選択した日付を開始日としたバーチャートを表示します。

⑫バーチャート

UPS の停止/起動のスケジュールを表示します。

UPS が起動している時間帯は各ますは白色で表示されます。

毎日実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが水色で表示されます。

毎週実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが緑色で表示されます。

指定日に実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが黄色で表示されます。

ます目に*が表示されている場合は、その時間内に停止/起動が行われることを示しています。(停止/起動が正時でない場合)

複数のスケジュールが設定されている状態で、毎日、毎週、指定日に実行するスケジュールが重なっているときには、優先順位(指定日>毎週>毎日)に基づいて実行されるスケジュールが表示されます。(3.7.4スケジュールデータの優先順位)

3.7.2. 毎週のスケジュール

UPS スケジュール設定画面の[毎週]リンクを選択すると、毎週実行するUPS の停止/起動のスケジュール設定画面を右フレームに表示します。



図 3-53 毎週リンク

UPSスケジュール設定

停止 金曜日 19時 30分
 起動 月曜日 8時 30分 設定

【毎週設定】

毎日 毎週 指定日

スケジュール表示年月日 2001年 11月 21日 表示

スケジュール全削除

設定リスト

停止曜日時刻	起動曜日時刻	削除
金 19:30	月 08:30	削除

月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
11-21(水)								*												*				
11-22(木)								*												*				
11-23(金)								*												*				
11-24(土)																								
11-25(日)																								
11-26(月)								*												*				
11-27(火)								*												*				
11-28(水)								*												*				
11-29(木)								*												*				
11-30(金)								*												*				
12-01(土)																								
12-02(日)																								
12-03(月)								*												*				
12-04(火)								*												*				
12-05(水)								*												*				
12-06(木)								*												*				
12-07(金)								*												*				
12-08(土)																								
12-09(日)																								
12-10(月)								*												*				
12-11(火)								*												*				
12-12(水)								*												*				
12-13(木)								*												*				
12-14(金)								*												*				
12-15(土)																								
12-16(日)																								
12-17(月)								*												*				
12-18(火)								*												*				
12-19(水)								*												*				
12-20(木)								*												*				
12-21(金)								*												*				
月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23

図 3-54 UPS スケジュール設定画面(毎週のスケジュール)

本画面では、毎週実行する停止/起動のスケジュール設定を行います。
 毎週実行するUPS の停止/起動のスケジュールデータは最大 5 件まで設定することが可能です。

①停止

停止時刻の曜日と時、分を選択します。

5分単位の設定のみ可能です。

②起動

起動時刻の曜日と時、分を選択します。

5分単位の設定のみ可能です。

③設定ボタン

毎週実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータを設定します。

設定が完了すると設定リストに設定データを表示します。

設定したスケジュールが設定リストに表示されることを確認してください。

④[毎日]リンク

このリンクを選択すると毎日実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑤[毎週]リンク

このリンクを選択すると毎週実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑥[指定日]リンク

このリンクを選択すると指定日に実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑦設定リスト

設定されている毎週実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータを表示します。

毎週実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータは最大5件まで設定することが可能です。

⑧削除リンク

設定リストの各データの右側に削除リンクが表示されています。

このリンクを選択すると、そのデータが削除されます。

⑨[スケジュール全削除]リンク

登録されている全てのスケジュールデータ(毎日、毎週、指定日)を削除します。

このリンクを選択すると、確認画面を表示します。(毎日のスケジュール設定画面と同様)

⑩スケジュール表示年月日

バーチャートの表示開始日をプルダウンメニューから選択します。

現在の日付より過去の日付は表示できません。

⑪表示ボタン

スケジュール表示年月日を選択した後、このボタンを選択すると、選択した日付を開始日としたバーチャートを表示します。

⑫バーチャート

UPS の停止/起動のスケジュールを表示します。

UPS が起動している時間帯は各ますは白色で表示されます。

毎日実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが水色で表示されます。

毎週実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが緑色で表示されます。

指定日に実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが黄色で表示されます。

ます目に*が表示されている場合は、その時間内に停止/起動が行われることを示しています。(停止/起動が正時でない場合)

複数のスケジュールが設定されている状態で、毎日、毎週、指定日に実行するスケジュールが重なっているときには、優先順位(指定日>毎週>毎日)に基づいて実行されるスケジュールが表示されます。(3.7.4スケジュールデータの優先順位)

3.7.3. 指定日のスケジュール

UPS スケジュール設定画面の[指定日]リンクを選択すると、指定日に実行する UPS の停止/起動のスケジュール設定画面を右フレームに表示します。



図 3-55 指定日リンク

UPSスケジュール設定

停止 2001年 11月 21日 19時 30分
 起動 2001年 11月 22日 8時 30分 設定

[指定日設定]

毎日 毎週 指定日

スケジュール全削除

スケジュール表示年月日 2001年 11月 21日 表示

月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
11-21(水)									*											*				
11-22(木)									*											*				
11-23(金)									*											*				
11-24(土)																								
11-25(日)																								
11-26(月)									*											*				
11-27(火)									*											*				
11-28(水)									*											*				
11-29(木)									*											*				
11-30(金)									*											*				
12-01(土)																								
12-02(日)																								
12-03(月)									*											*				
12-04(火)									*											*				
12-05(水)									*											*				
12-06(木)									*											*				
12-07(金)									*											*				
12-08(土)																								
12-09(日)																								
12-10(月)									*											*				
12-11(火)									*											*				
12-12(水)									*											*				
12-13(木)									*											*				
12-14(金)									*											*				
12-15(土)																								
12-16(日)																								
12-17(月)									*											*				
12-18(火)									*											*				
12-19(水)									*											*				
12-20(木)									*											*				
12-21(金)									*											*				
月日	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23

設定リスト

停止年月日時刻	起動年月日時刻	削除
2001-11-21 19:30	2001-11-22 08:30	削除

図 3-56 UPS スケジュール設定画面(指定日のスケジュール)

本画面では、指定日に実行する停止/起動のスケジュール設定を行います。
 指定日に実行する UPS の停止/起動のスケジュールデータは最大 5 件まで設定することが可能です。

①停止

停止時刻の日付と時、分を選択します。

5分単位の設定のみ可能です。

②起動

起動時刻の日付と時、分を選択します。

5分単位の設定のみ可能です。

③設定ボタン

指定日に実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータを設定します。

設定が完了すると設定リストに設定データを表示します。

設定したスケジュールが設定リストに表示されることを確認してください。

④[毎日]リンク

このリンクを選択すると毎日実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑤[毎週]リンク

このリンクを選択すると毎週実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑥[指定日]リンク

このリンクを選択すると指定日に実行するUPSの停止/起動のスケジュール設定画面に移行します。

⑦設定リスト

設定されている指定日に実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータを表示します。

指定日に実行するUPSの停止/起動のスケジュールデータは最大5件まで設定することが可能です。なお、実行済みのスケジュール設定は自動的に削除されます。

⑧削除リンク

設定リストの各データの右側に削除リンクが表示されています。

このリンクを選択すると、そのデータが削除されます。

⑨[スケジュール全削除]リンク

登録されている全てのスケジュールデータ(毎日、毎週、指定日)を削除します。

このリンクを選択すると、確認画面を表示します。(毎日のスケジュール設定画面と同様)

⑩スケジュール表示年月日

バーチャートの表示開始日をプルダウンメニューから選択します。

現在の日付より過去の日付は表示できません。

⑪表示ボタン

スケジュール表示年月日を選択した後、このボタンを選択すると、選択

した日付を開始日としたバーチャートを表示します。

⑫バーチャート

UPS の停止/起動のスケジュールを表示します。

UPS が起動している時間帯は各ますは白色で表示されます。

毎日実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが水色で表示されます。

毎週実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが緑色で表示されます。

指定日に実行するスケジュールによって UPS が停止している時間帯は各ますが黄色で表示されます。

ます目に*が表示されている場合は、その時間内に停止/起動が行われることを示しています。(停止/起動が正時でない場合)

複数のスケジュールが設定されている状態で、毎日、毎週、指定日に実行するスケジュールが重なっているときには、優先順位(指定日>毎週>毎日)に基づいて実行されるスケジュールが表示されます。(3.7.4スケジュールデータの優先順位)

3.7.4. スケジュールデータの優先順位

スケジュールデータには3種(毎日、毎週、指定日)ありますが、3種のデータには、優先順位があり、その順位は以下のようになります。

指定日のスケジュール > 毎週のスケジュール > 毎日のスケジュール

シャットダウン期間の重なった2つのデータがある場合、より上位のデータが優先して実行されます。

(例) 毎週のスケジュールと指定日のスケジュールが重なった場合

指定日のスケジュール	停止	10月5日(金)	20時	起動	10月8日(月)	8時
毎週のスケジュール	停止	金曜	21時	起動	月曜	9時

この場合、10月5日は金曜であり、指定日のデータと毎週のデータのシャットダウン期間が重複しています。

この時、指定日のデータが優先される為、毎週のデータは無効となり、指定日のデータで指定された時刻20時にシャットダウンが実行され、指定日のデータで指定された時刻10月8日の8時に起動します。

バーチャートにはスケジュールデータの優先順位を考慮したチャートが表示されます。

3.8. 拡張コマンド

メニューの[拡張コマンド]を選択すると、左フレームに[UPS 操作]リンクと[UPS 設定]リンクを表示します。

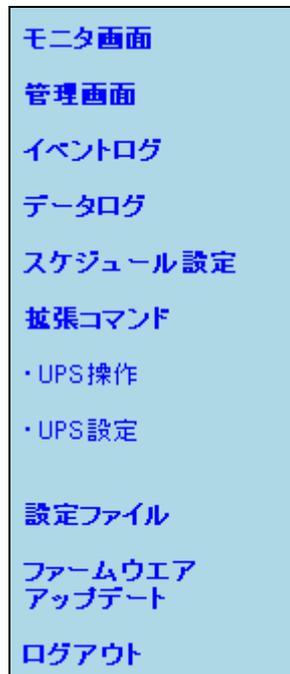


図 3-57 拡張コマンドリンクを選択した場合

3.8.1. UPS操作

メニューの[UPS 操作]を選択すると、右フレームに UPS 操作画面を表示します。

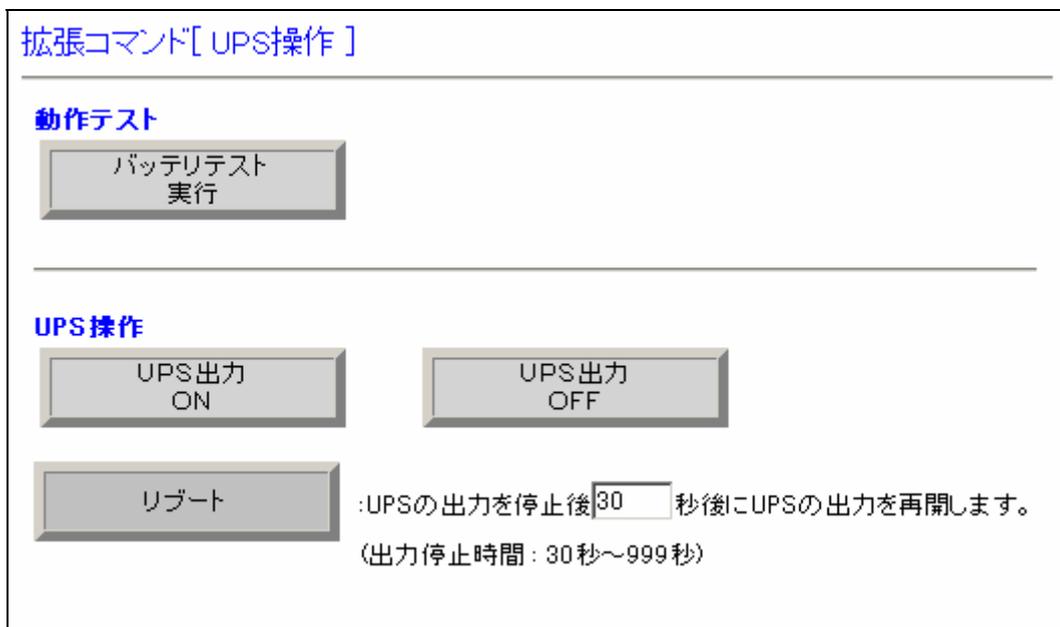


図 3-58 UPS 操作画面

この画面では EX シリーズに対する各種の操作を行います。

△ 注意
<ul style="list-style-type: none">● UPS の負荷がサーバの場合はリモート OFF、リポート実行をさせるために下記設定を実施する必要があります<ul style="list-style-type: none">① サーバへの Netshut のインストール、およびサービス(デーモン)の実行② OS Shutdownの設定 (3.4.15OS Shutdown設定画面)③ 停止動作(イベント)設定 (3.4.11停止動作(イベント)設定画面)

重要
<ul style="list-style-type: none">● UPS 操作画面で各リンクを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。 このメッセージが表示された時は、実行した操作が正常に受け付けられていませんので再度リンクを選択してください。

3.8.1.1. バッテリテスト実行

UPS 操作画面で[バッテリーテスト実行]リンクを選択すると、バッテリーテストコマンドが UPS に対して送信され、バッテリーテスト実行結果画面を表示します。

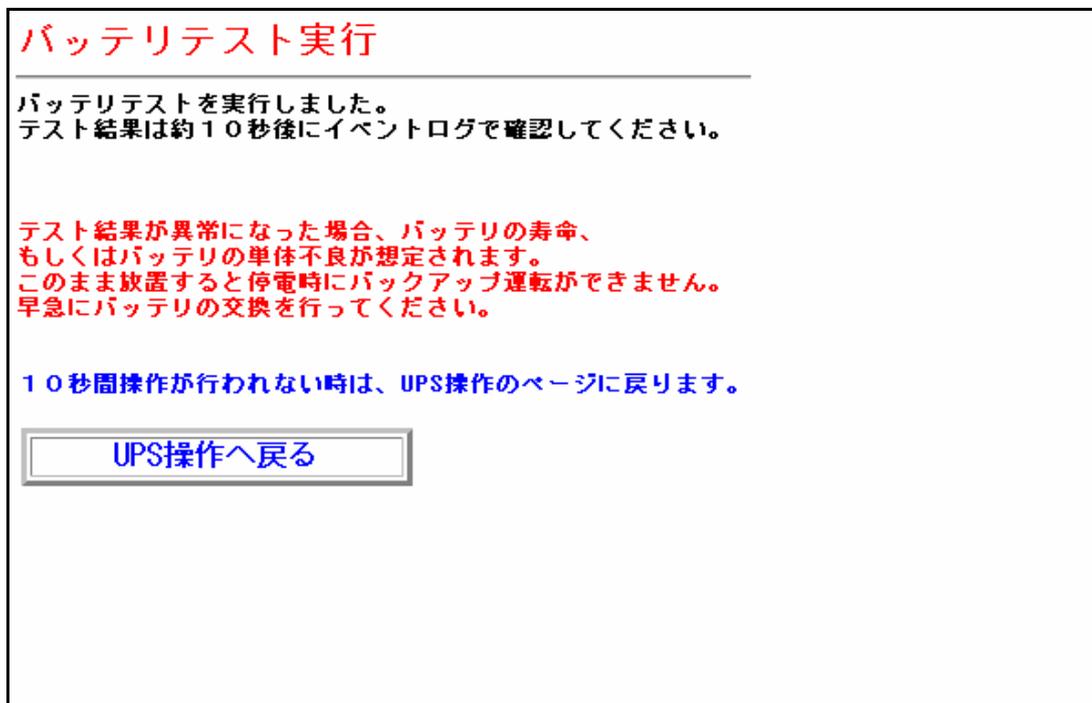


図 3-59 バッテリテスト実行結果画面

ここで何も操作しない場合、約 10 秒後に自動的に UPS 操作画面に戻ります。

[UPS 操作へ戻る]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

注意) UPS の工場出荷時にはバッテリーテストが運転継続状態で

1 ヶ月毎に自動的に行われる設定になっていますので通常は[バッテリーテスト実行]リンクを選択してバッテリーテストを実行する必要はありません。

バッテリー異常時、または自動バッテリーテスト以外のタイミングでバッテリーテストを行いたい時のみ [バッテリーテスト実行]リンクを選択してください。

なお、バッテリーテストは実際に UPS の内部にあるバッテリーを放電してバッテリーの

電圧をチェックするため、バッテリーテストを連続して行うとバッテリーの損傷、交換時期の短縮になる恐れがあります。

3.8.1.2. UPS出力ON

UPS 操作画面で[UPS 出力 ON]リンクを選択すると UPS に対して出力 ON コマンドが送信され、UPS 出力 ON 実行結果画面を表示します。

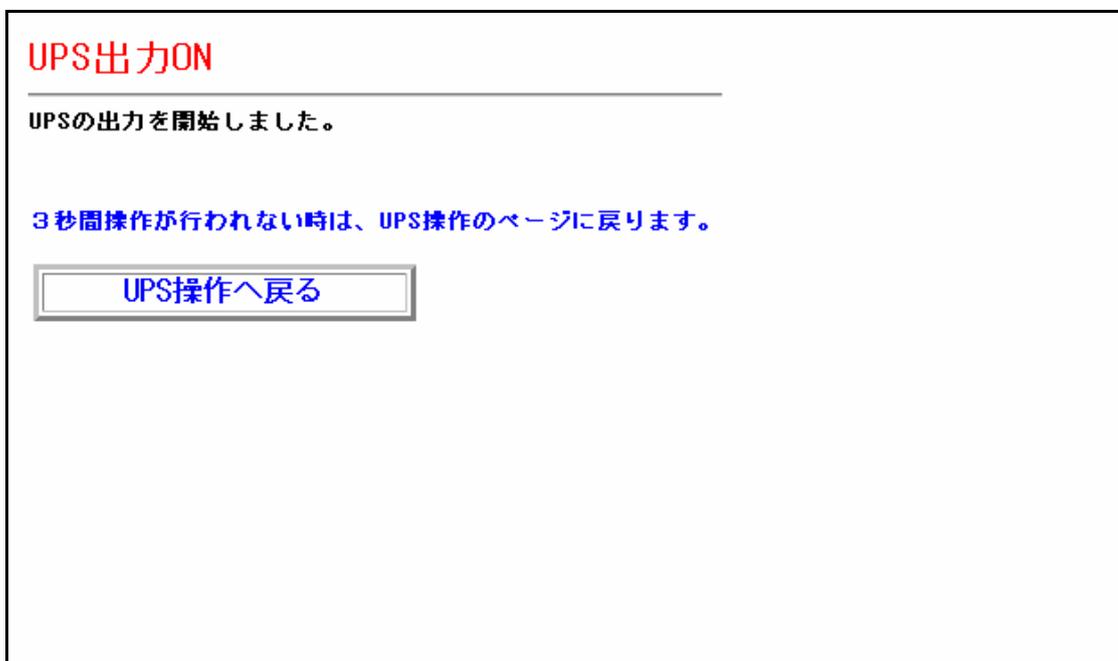


図 3-60 UPS 出力 ON 実行結果画面

ここで何も操作しない場合、約 3 秒後に自動的に UPS 操作画面に戻ります。
[UPS 操作へ戻る]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

3.8.1.3. UPS出力OFF (OSのシャットダウン設定が有効な場合)

UPS 出力 OFF 実行時の出力停止までの画面推移を以下に示します。

(OSのシャットダウン設定は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面を参照してください。)

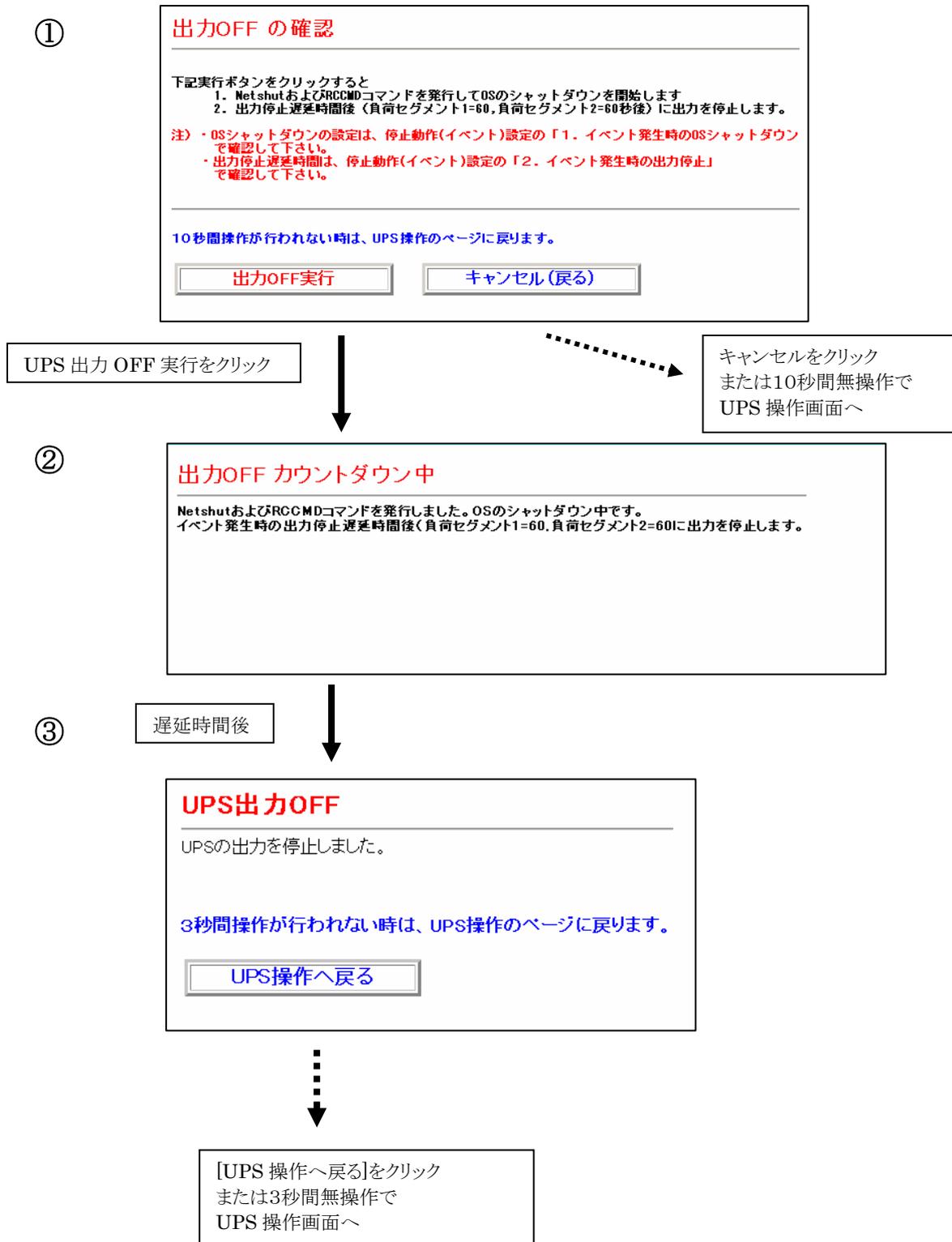


図 3-61 UPS 出力OFFの推移 1

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面にて変更が可能です。

3.8.1.3.1. UPS出力OFF確認 (OSのシャットダウン設定が有効な場合)

UPS 操作画面で[UPS 出力 OFF]リンクを選択するとUPS 出力 OFF の確認画面を表示します。

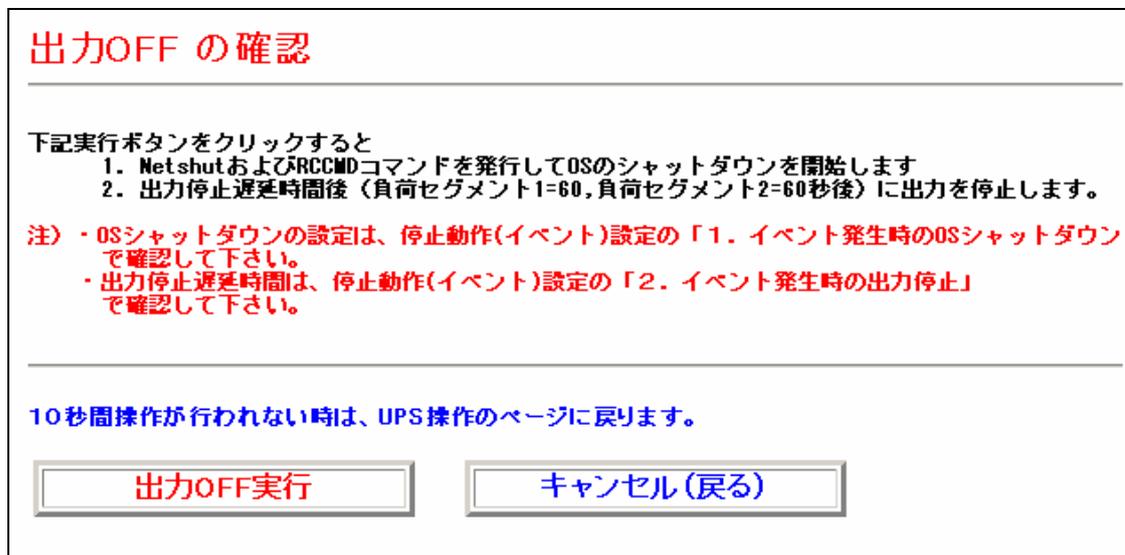


図 3-62 UPS 出力 OFF 実行確認画面

ここで何も操作しない場合、約 10 秒後に自動的に UPS 操作画面に戻ります。

[キャンセル(戻る)]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

[UPS 出力 OFF 実行]リンクを選択すると、シャットダウン信号が発行され、UPS に対して遅延時間付きの出力停止コマンドが送信されます。

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面にて変更が可能です。

3. 8. 1. 3. 2. UPS出力OFFカウントダウン（OSのシャットダウン設定が有効な場合）

UPS 出力 OFF の確認画面で[UPS 出力 OFF 実行]リンクを選択すると UPS 出力 OFF カウントダウン画面を表示します。

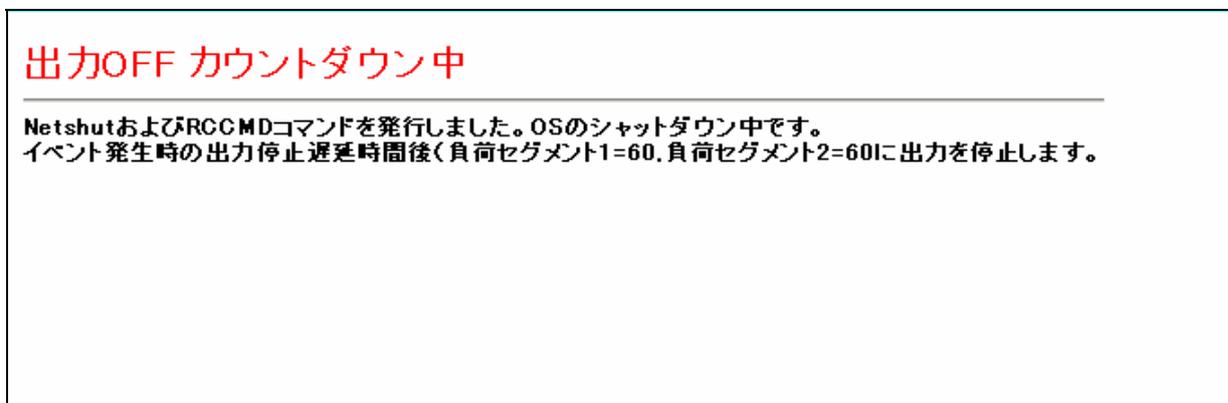


図 3-63 UPS 出力 OFF カウントダウン画面

ここで何も操作しない場合、イベント発生時の UPS 出力停止時間後に UPS の出力が停止され、UPS 出力 OFF の結果画面を表示します。

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面にて変更が可能です。

3.8.1.3.3. UPS出力OFF実行結果（OSのシャットダウン設定が有効な場合）

UPS 出力 OFF カウントダウン画面で UPS 出力停止遅延時間を経過すると UPS の出力が停止され、UPS 出力 OFF の結果画面を表示します。



図 3-64 UPS 出力 OFF 実行結果画面

この画面の表示から、約 3 秒後に UPS 操作画面に戻ります。

3.8.1.4. UPS出力OFF (OSのシャットダウン設定が無効な場合)

UPS 出力 OFF 実行時の出力停止までの画面推移を以下に示します。

(OSのシャットダウン設定は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面を参照してください。)

①

出力OFFの確認

下記実行ボタンをクリックすると
1. 出力停止遅延時間後(負荷セグメント1=60, 負荷セグメント2=60秒後)に出力を停止します。

(この場合、OSの動作状態とは無関係に出力を停止します。
安全のため接続されたサーバやパソコンのOSをあらかじめ
シャットダウンした後に下記実行ボタンをクリックしてください。)

注) ・OSシャットダウンの設定は、停止動作(イベント)設定の「1. イベント発生時のOSシャットダウン」
で確認して下さい。
・出力停止遅延時間は、停止動作(イベント)設定の「2. イベント発生時の出力停止」
で確認して下さい。

10秒間操作が行われない時は、コンセント操作のページに戻ります。

UPS 出力 OFF
実行をクリック

キャンセルをクリック
または10秒間無操作で
UPS 操作画面へ

②

出力OFF カウントダウン中

イベント発生時の出力停止遅延時間後(60秒後)に出力を停止します。

遅延時間後

③

UPS出力OFF

UPSの出力を停止しました。

3秒間操作が行われない時は、UPS操作のページに戻ります。

[UPS 操作へ戻る]をクリック
または3秒間無操作で
UPS 操作画面へ

図 3-65 UPS 出力OFFの推移 2

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面にて変更が可能です。

3.8.1.4.1. UPS出力OFF確認 (OSのシャットダウン設定が無効な場合)

UPS 操作画面で[UPS 出力 OFF]リンクを選択すると UPS 出力 OFF の確認画面を表示します。

出力OFF の確認

下記実行ボタンをクリックすると
1. 出力停止遅延時間後 (負荷セグメント1=60, 負荷セグメント2=60秒後) に出力を停止します。

(この場合、OSの動作状態とは無関係に出力を停止します。
安全のため接続されたサーバやパソコンのOSをあらかじめ
シャットダウンした後に下記実行ボタンをクリックしてください。)

注) ・ OSシャットダウンの設定は、停止動作(イベント)設定の「1. イベント発生時のOSシャットダウン」
で確認して下さい。
・ 出力停止遅延時間は、停止動作(イベント)設定の「2. イベント発生時の出力停止」
で確認して下さい。

10秒間操作が行われない時は、コンセント操作のページに戻ります。

出力OFF実行

キャンセル(戻る)

図 3-66 UPS 出力 OFF 実行確認画面

ここで何も操作しない場合、約 10 秒後に自動的に UPS 操作画面に戻ります。

[キャンセル(戻る)]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

[UPS 出力 OFF 実行]リンクを選択すると、UPS に対して遅延時間付きの出力停止コマンドが送信されます。

注意) OS のシャットダウン設定が無効な場合、[UPS 出力 OFF]リンクを選択すると

OS の動作状態とは無関係に UPS の出力を停止します。

(OSのシャットダウン設定、3.4.11停止動作(イベント)設定画面を参照してください。)

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面にて変更が可能です。

3.8.1.4.2. UPS出力OFFカウントダウン（OSのシャットダウン設定が無効な場合）

UPS 出力 OFF の確認画面で、[UPS 出力 OFF 実行]リンクを選択すると UPS 出力 OFF カウントダウン画面を表示します。

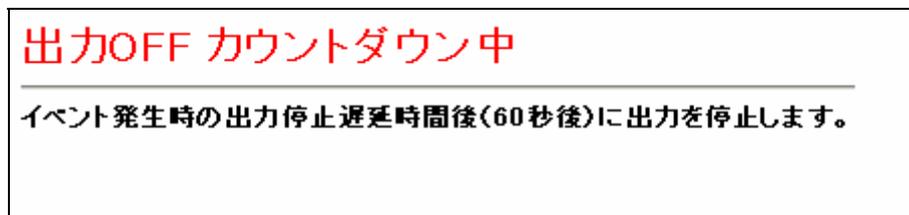


図 3-67 UPS 出力 OFF カウントダウン画面

ここで何も操作しない場合、イベント発生時の UPS 出力停止時間後に UPS の出力が停止され、UPS 出力 OFF の結果画面を表示します。

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面にて変更が可能です。

3. 8. 1. 4. 3. UPS出力OFF実行結果（OSのシャットダウン設定が無効な場合）

UPS 出力 OFF カウントダウン画面で UPS 出力停止遅延時間を経過すると UPS の出力が停止され、UPS 出力 OFF の結果画面を表示します。

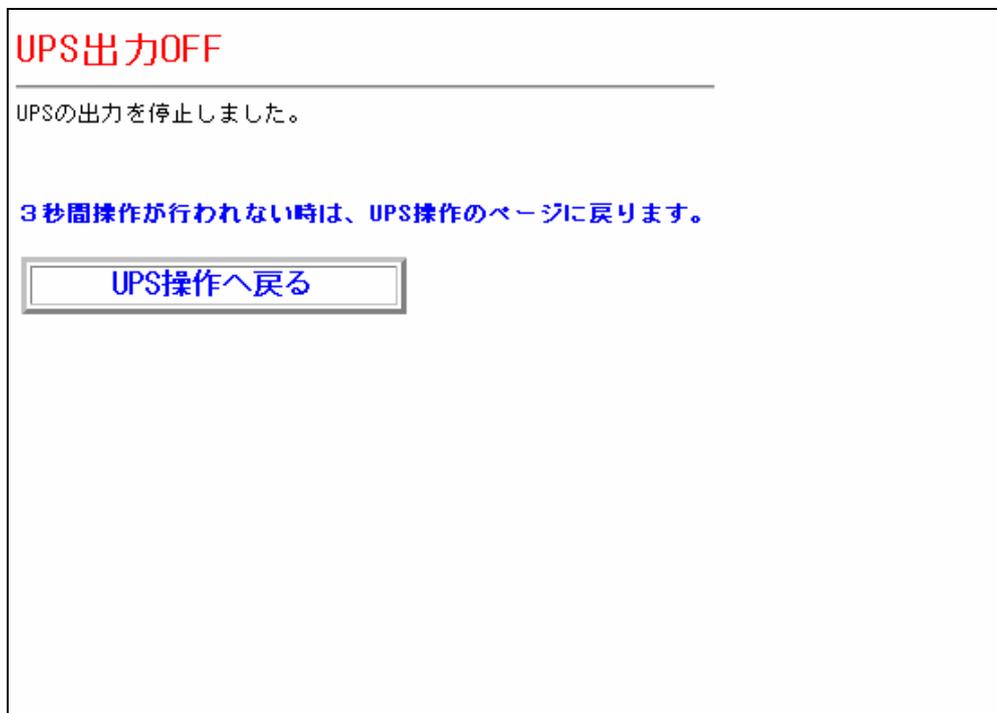


図 3-68 UPS 出力 OFF 実行結果画面

この画面の表示から、約 3 秒後に UPS 操作画面に戻ります。

3.8.1.5. リブート(OSのシャットダウン設定が有効な場合)

リブート実行時の画面推移を以下に示します。

(OSのシャットダウン設定は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面を参照してください。)

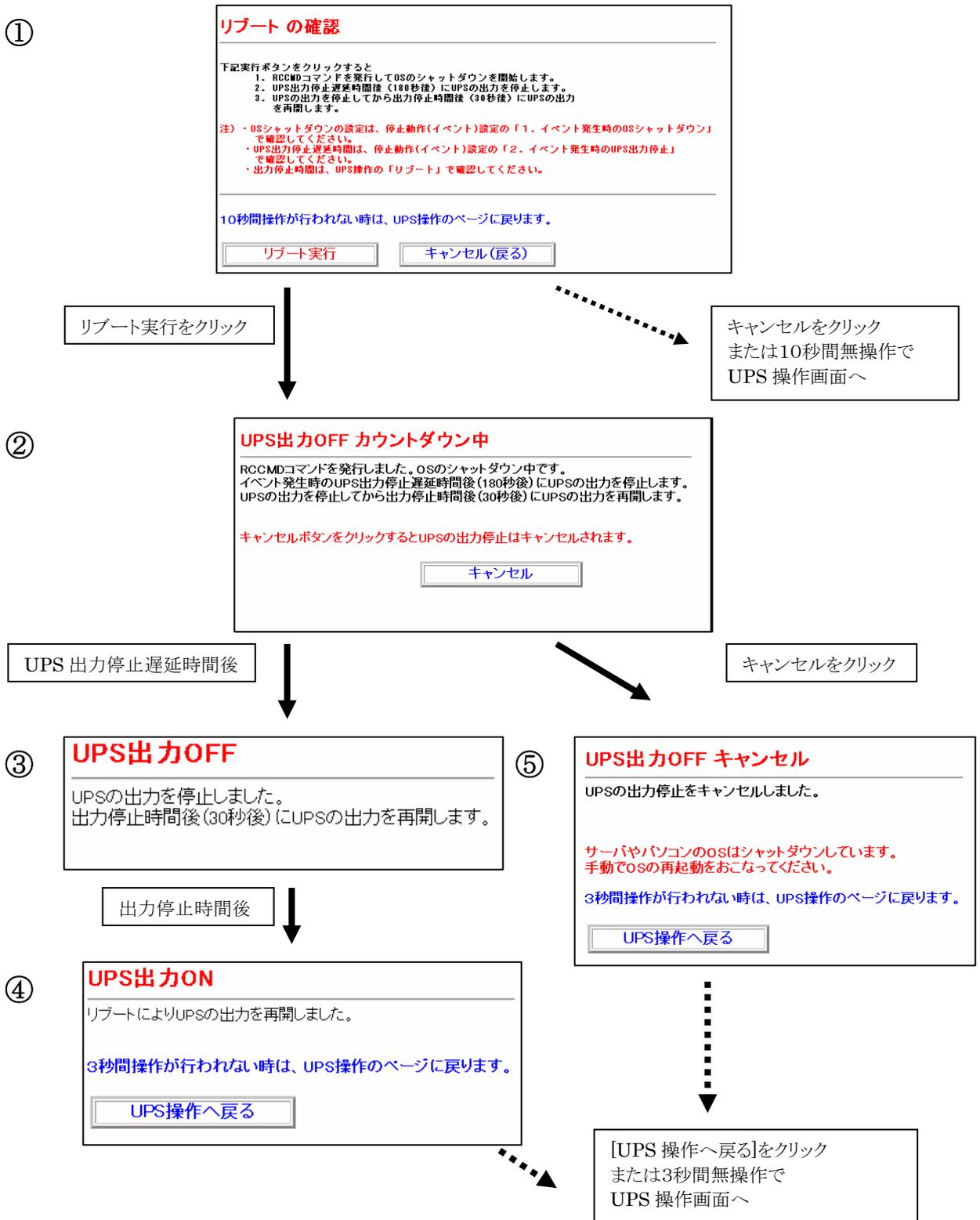


図 3-69 リブートの推移 1

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は3.4.11停止動作(イベント)設定画面、出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.5.1. リポートの確認 (OSのシャットダウン設定が有効な場合)

UPS 操作画面で[リポート]リンクを選択するとリポートの確認画面を表示します。

リポートの確認

下記実行ボタンをクリックすると

1. NetshutおよびRCCMDコマンドを発行してOSのシャットダウンを開始します
2. 出力停止遅延時間後(180秒後)に出力を停止します。
3. 出力を停止してから出力停止時間後(30秒後)に出力を再開します。

注) ・OSシャットダウンの設定は、停止動作(イベント)設定の「1. イベント発生時のOSシャットダウン」で確認して下さい。
・出力停止遅延時間は、停止動作(イベント)設定の「2. イベント発生時の出力停止」で確認して下さい。
・出力停止時間は、UPS操作の「リポート」で確認してください。

10秒間操作が行われない時は、UPS操作のページに戻ります。

図 3-70 リポートの確認画面

ここで何も操作しない場合、約 10 秒後に UPS 操作画面に戻ります。

[キャンセル(戻る)]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

[リポート実行]リンクを選択すると、シャットダウン信号が発行され、UPS に対して遅延時間付きの出力停止コマンドが送信されます。

続いて、UPS の出力 OFF カウントダウン画面が表示されます。

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は3.4.11停止動作(イベント)設定画面、出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.5.2. UPS出力OFFカウントダウン（OSのシャットダウン設定が有効な場合）

リポートの確認画面で[リポート実行]リンクを選択すると
UPS 出力 OFF カウントダウン画面を表示します。

リポートの確認

下記実行ボタンをクリックすると

1. NetshutおよびRCCMDコマンドを発行してOSのシャットダウンを開始します
2. 出力停止遅延時間後（180秒後）に出力を停止します。
3. 出力を停止してから出力停止時間後（30秒後）に出力を再開します。

注) ・OSシャットダウンの設定は、停止動作(イベント)設定の「1. イベント発生時のOSシャットダウン」で確認して下さい。
・出力停止遅延時間は、停止動作(イベント)設定の「2. イベント発生時の出力停止」で確認して下さい。
・出力停止時間は、UPS操作の「リポート」で確認してください。

10秒間操作が行われない時は、UPS操作のページに戻ります。

リポート実行

キャンセル(戻る)

図 3-71 UPS 出力 OFF カウントダウン画面(リポート時)

ここで何も操作しない場合、イベント発生時のUPS出力停止時間後にUPSの出力が停止され、UPS出力OFFの結果画面が表示されます。

[キャンセル(戻る)]リンクを選択すると、UPSの出力停止を取り消して、UPS出力OFFキャンセル画面を表示します。UPS出力停止はキャンセルされますが、OSはシャットダウン実行済み(シャットダウン信号発行済み)です。手動でOSを再立ち上げしてください。

注意)画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は3.4.11停止動作(イベント)設定画面、出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.5.3. UPS出力OFF実行結果（OSのシャットダウン設定が有効な場合）

UPS 出力 OFF カウントダウン画面表示の後、イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間を経過すると UPS の出力が停止され、UPS 出力 OFF の結果画面を表示します。

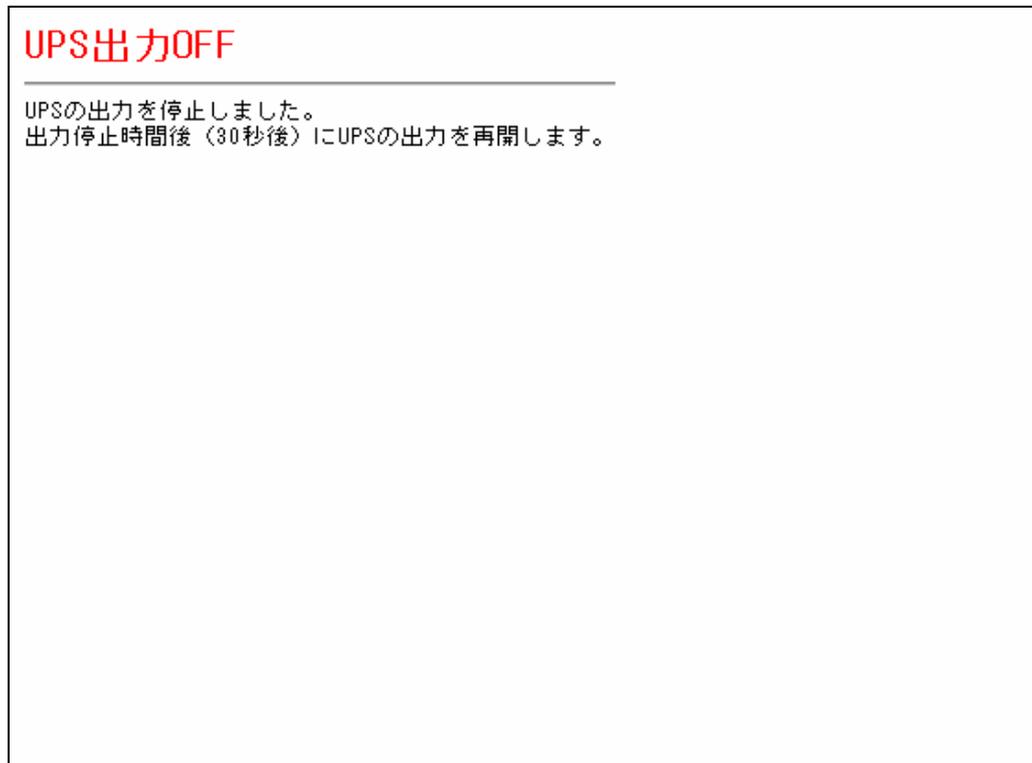


図 3-72 UPS 出力 OFF 実行結果画面(リポート時)

この画面の表示後、3.8.1UPS操作にて設定した出力停止時間が経過すると UPS の出力が再開されます。

注意)画面イメージ内の出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.5.4. UPS出力ON (OSのシャットダウン設定が有効な場合)

UPS出力OFF画面の表示の後、3.8.1UPS操作にて設定した出力停止時間が経過するとUPSの出力が再開され、UPS出力ONの結果画面を表示します。

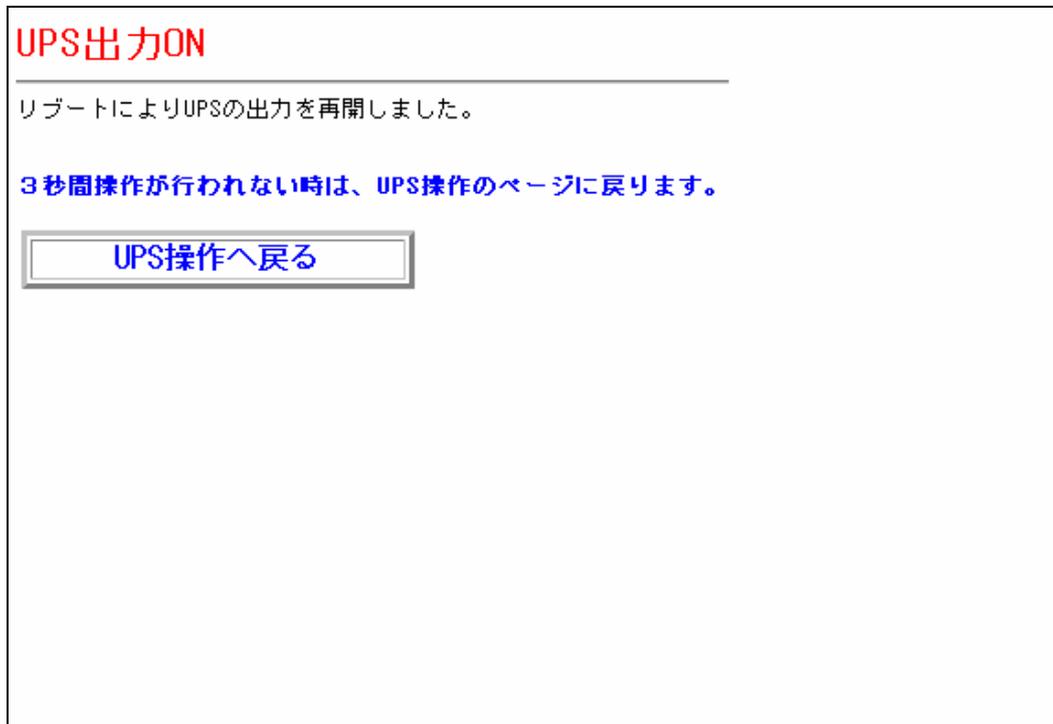


図 3-73 UPS出力OFF画面

ここで何も操作しない場合、約3秒後に自動的にUPS操作画面に戻ります。
[UPS操作へ戻る]リンクを選択すると、すぐにUPS操作画面に戻ります。

3.8.1.5.5. UPS出力OFFキャンセル（OSのシャットダウン設定が有効な場合）

UPS 出力 OFF カウントダウン中画面で[キャンセル]を選択すると
UPS の出力 OFF がキャンセルされ、UPS 出力 OFF キャンセル画面を表示します。

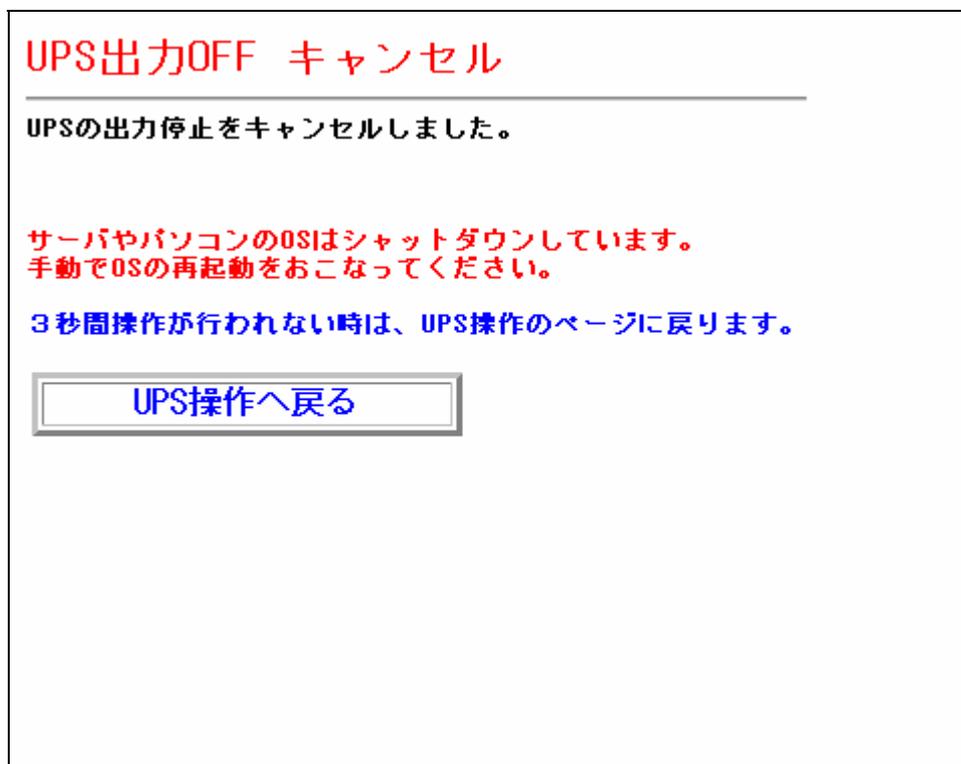


図 3-74 UPS 出力 OFF キャンセル画面

ここで何も操作しない場合、約 3 秒後に UPS 操作画面に戻ります。
[UPS 操作へ戻る]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

注意)UPS 出力停止はキャンセルされますが、OS はシャットダウン実行済み(シャットダウン信号発行済み)です。手動で OS を再立ち上げしてください。

3.8.1.6. リポート(OSのシャットダウン設定が無効な場合)

リポート実行時の画面推移を以下に示します。

(OSのシャットダウン設定は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面を参照してください。)

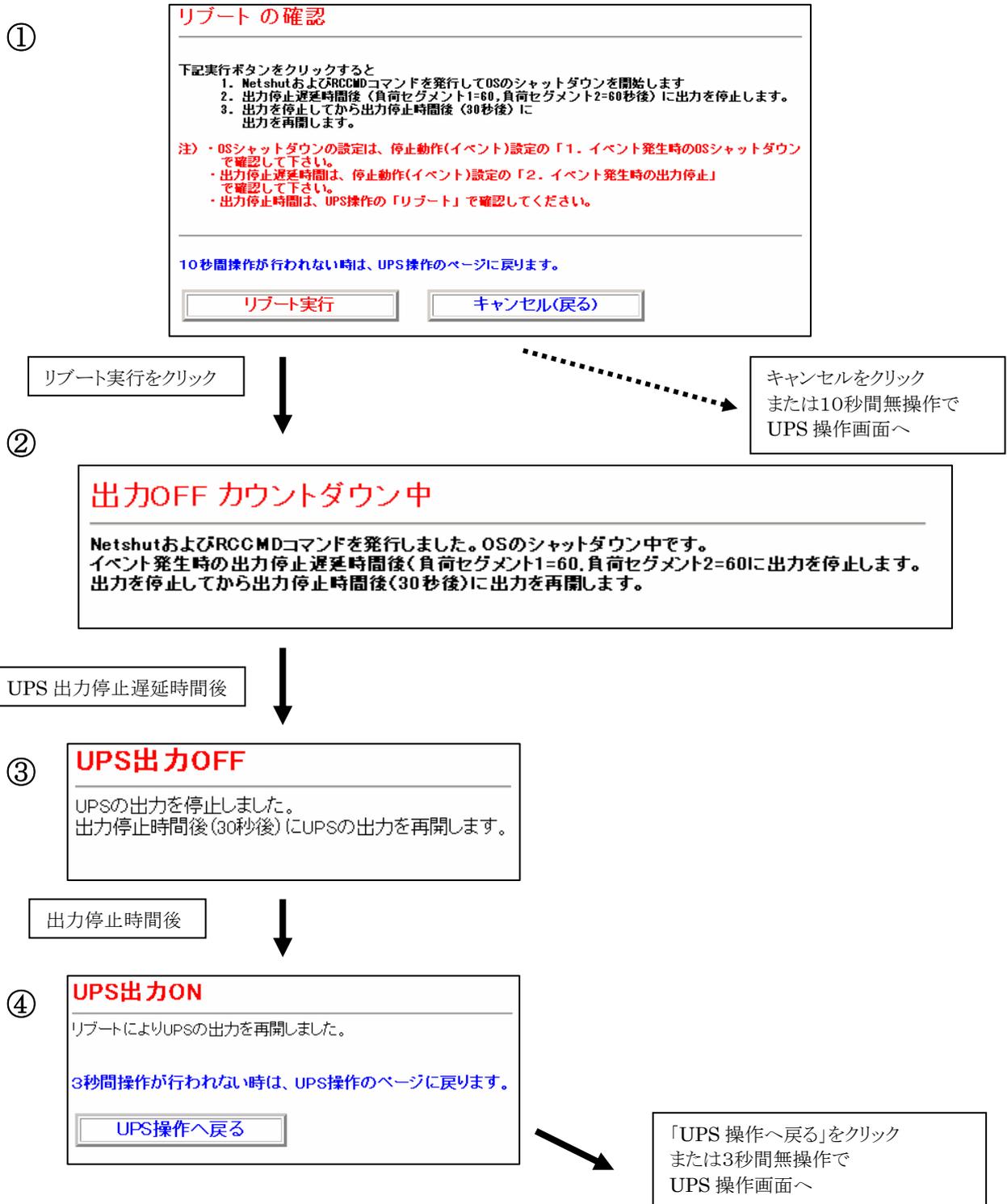


図 3-75 リポートの推移 2

注意)画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は3.4.11停止動作(イベント)設定画面、出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.6.1. リブートの確認 (OSのシャットダウン設定が無効な場合)

UPS 操作画面で[リブート]リンクを選択するとリブートの確認画面を表示します。

リブートの確認

下記実行ボタンをクリックすると

1. 出力停止遅延時間後 (負荷セグメント1=60, 負荷セグメント2=60秒後) に出力を停止します。
(この場合、OSの動作状態とは無関係に出力を停止します。
安全のため接続されたサーバやパソコンのOSをあらかじめ
シャットダウンした後に下記実行ボタンをクリックしてください。)

2. 出力を停止してから出力停止時間後 (30秒後) に
出力を再開します。

注) ・ OSシャットダウンの設定は、停止動作(イベント)設定の「1. イベント発生時のOSシャットダウン
で確認して下さい。
・ 出力停止遅延時間は、停止動作(イベント)設定の「2. イベント発生時の出力停止」
で確認して下さい。
・ 出力停止時間は、UPS操作の「リブート」で確認して下さい。

10秒間操作が行われない時は、UPS操作のページに戻ります。

リブート実行

キャンセル(戻る)

図 3-76 リブートの確認画面

ここで何も操作しない場合、約 10 秒後に UPS 操作画面に戻ります。

[キャンセル(戻る)]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

注意) OS のシャットダウン設定が無効な場合、[リブート実行]リンクを選択すると OS の動作状態とは無関係に UPS の出力を停止します。

(OSのシャットダウン設定は、3.4.11停止動作(イベント)設定画面を参照してください。)

注意) 画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は3.4.11停止動作(イベント)設定画面、出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.6.2. UPS出力OFFカウントダウン（OSのシャットダウン設定が無効な場合）

リポートの確認画面で、[リポート実行]リンクを選択するとUPS出力OFFカウントダウン画面を表示します。

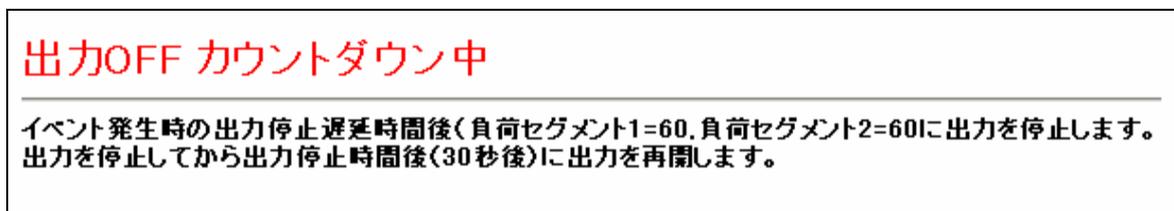


図 3-77 UPS出力OFFカウントダウン画面(リポート時)

ここで何も操作しない場合、イベント発生時のUPS出力停止時間後にUPSの出力が停止され、UPS出力OFFの結果画面が表示されます。

注意)画面イメージ内のUPS出力停止遅延時間は3.4.11停止動作(イベント)設定画面、出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.6.3. UPS出力OFF実行結果（OSのシャットダウン設定が無効な場合）

UPS 出力 OFF カウントダウン画面表示の後、イベント発生時の UPS 出力停止遅延時間を経過すると UPS の出力が停止され、UPS 出力 OFF の結果画面を表示します。

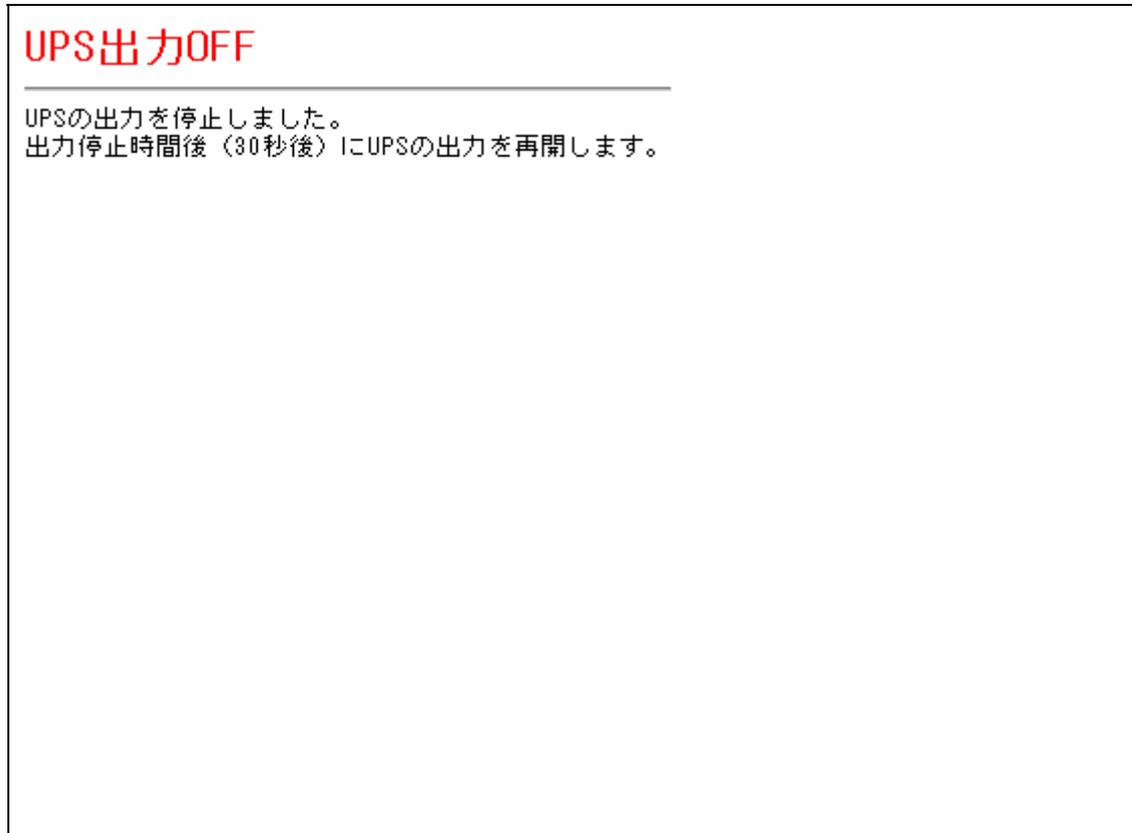


図 3-78 UPS 出力 OFF 実行結果画面(リポート時)

この画面の表示後、3.8.1UPS操作にて設定した出力停止時間を経過すると UPS の出力が再開されます。

注意)画面イメージ内の出力停止時間は3.8.1UPS操作にて変更が可能です。

3.8.1.6.4. UPS出力ON (OSのシャットダウン設定が無効な場合)

UPS出力OFF画面の表示の後、3.8.1UPS操作にて
設定した出力停止時間が経過するとUPS の出力が再開され、UPS 出力 ON の
結果画面を表示します。

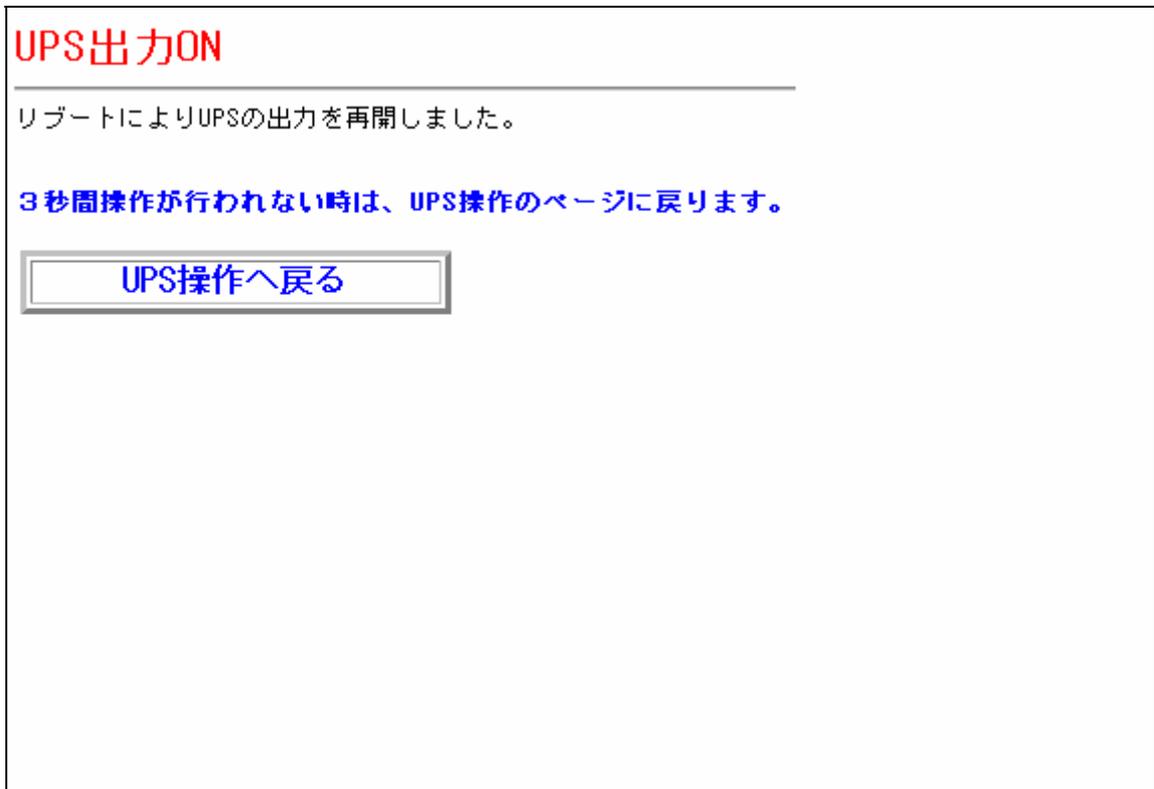


図 3-79 UPS 出力 OFF 画面

ここで何も操作しない場合、約 3 秒後に自動的に UPS 操作画面に戻ります。
[UPS 操作へ戻る]リンクを選択すると、すぐに UPS 操作画面に戻ります。

3.8.2. UPS設定

メニューの[UPS 設定]を選択すると、右フレームに拡張コマンド[UPS 設定]画面を表示します。

拡張コマンド[UPS設定]

ブザーストップ設定

無効
 入力異常時のみ
 操作音以外有効
 有効

各種設定

負荷セグメント1 復電時自動リブート禁止
 負荷セグメント2 復電時自動リブート禁止

図 3-80 UPS 設定画面

重要

- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択することによって設定は変更されます。
“設定”ボタンを選択しない場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- 各項目を変更後、“設定”ボタンを選択した時に「コマンド応答がありません再度試みて下さい」というメッセージが表示される場合があります。
このメッセージが表示された時は、設定内容の変更は行われなため再度“設定”ボタンを選択してください。
- オートログアウト時間以内に“設定”ボタンを選択しないと、自動ログアウトします。
その場合は、設定内容の変更は行われなため注意してください。
- Web/SNMP カードの復電時自動リブート禁止設定が UPS 本体のリスタート設定より優先になります。リスタート設定は本画面より設定して下さい。

ここでは UPS に関する各種の設定を行います。

a. ブザーストップ設定

①無効

全てのブザーが鳴動します。

②入力異常時のみ

入力異常時のみブザーが鳴動します。

③操作音以外有効

操作音以外のブザーが鳴動します

④有効

すべてのブザーの鳴動を禁止します。

b. 各種設定

①負荷セグメント1 復電時自動リブート禁止

このチェックボックスをチェック状態にすると、停電での UPS 出力停止後に、負荷セグメント 1 は自動で出力を再開しません。出力を再開する場合は UPS の運転スイッチを押下またはまたは拡張コマンドの UPS 操作より UPS 出力 ON を実行する必要があります。

②負荷セグメント2 復電時自動リブート禁止

このチェックボックスをチェック状態すると、停電での UPS 出力停止後に、負荷セグメント 2 は自動で出力を再開しません。出力を再開する場合は UPS の運転スイッチを押下またはまたは拡張コマンドの UPS 操作より UPS 出力 ON を実行する必要があります。

①設定ボタン

UPS へのブザーストップ/各種設定を行います。

②キャンセルボタン

UPS へのブザーストップ/各種設定をキャンセルします。

3.9. 設定ファイル

メニューの[設定ファイル]を選択すると、右フレームに設定ファイルのダウンロード・アップロード画面を表示します。

設定ファイルのダウンロード・アップロード画面

1: 設定ファイルのアップロード

ファイル名:

設定ファイルのアップロードを行うにはこのボタンを押下してください

注意!
・不正なファイルを読み込ませた場合、以降の動作に支障をきたす恐れがあります。

2: 設定ファイルのダウンロード

設定ファイルに保存するデータの項目を選択してください:

<input checked="" type="checkbox"/> UPS型式	<input checked="" type="checkbox"/> IPアドレス設定	<input checked="" type="checkbox"/> 一般設定
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザ設定	<input checked="" type="checkbox"/> SNMP設定	<input checked="" type="checkbox"/> e-mail通知設定
<input checked="" type="checkbox"/> PowerSOLDメイン設定	<input checked="" type="checkbox"/> 設備管理情報の設定	<input checked="" type="checkbox"/> 停止動作(停電)設定
<input checked="" type="checkbox"/> 停止動作(イベント)設定	<input checked="" type="checkbox"/> 停止動作(シリアル)設定	<input checked="" type="checkbox"/> コンソール送受信設定
<input checked="" type="checkbox"/> Netshut & RCGMD設定	<input checked="" type="checkbox"/> telnet/rsh設定	<input checked="" type="checkbox"/> WOL設定
<input checked="" type="checkbox"/> イベント通知設定	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザ名/パスワード設定	<input checked="" type="checkbox"/> UPS設定
<input checked="" type="checkbox"/> オプション設定		

設定ファイルのダウンロードを行うにはこのボタンを押下してください

3: スケジュール設定ファイルのアップロード

ファイル名:

設定ファイルのアップロードを行うにはこのボタンを押下してください

注意!
・不正なファイルを読み込ませた場合、以降の動作に支障をきたす恐れがあります。

4: スケジュール設定ファイルのダウンロード

設定ファイルに保存するデータの項目を選択してください:

<input checked="" type="checkbox"/> 毎日スケジュール	<input checked="" type="checkbox"/> 毎週スケジュール	<input checked="" type="checkbox"/> 指定日スケジュール
--	--	---

設定ファイルのダウンロードを行うにはこのボタンを押下してください

図 3-81 設定ファイルのダウンロード・アップロード画面

重要

- Web/SNMP カードからダウンロードしたファイル以外の不正なファイルをアップロードした場合、Web/SNMPカードが故障する可能性があります。
- 設定ファイルを手動で作成または編集したファイルをアップロードした場合、以後の動作に支障をきたす可能性がありますので絶対に行わないでください。

3.9.1. 設定ファイルのアップロード機能

設定ファイルのアップロードでは、設定ファイルを Web/SNMP カードにアップロードを行うことによって Web/SNMP カードの設定内容を一括で更新を行うことが可能です。

3.9.2. 設定ファイルのアップロード手順

- ① ファイル名に設定ファイルの保存先とファイル名(フルパス)を入力、または“参照”ボタンを選択し [ファイルの選択]ウィンドウから、設定ファイルを選択して“開く”ボタンを選択します。

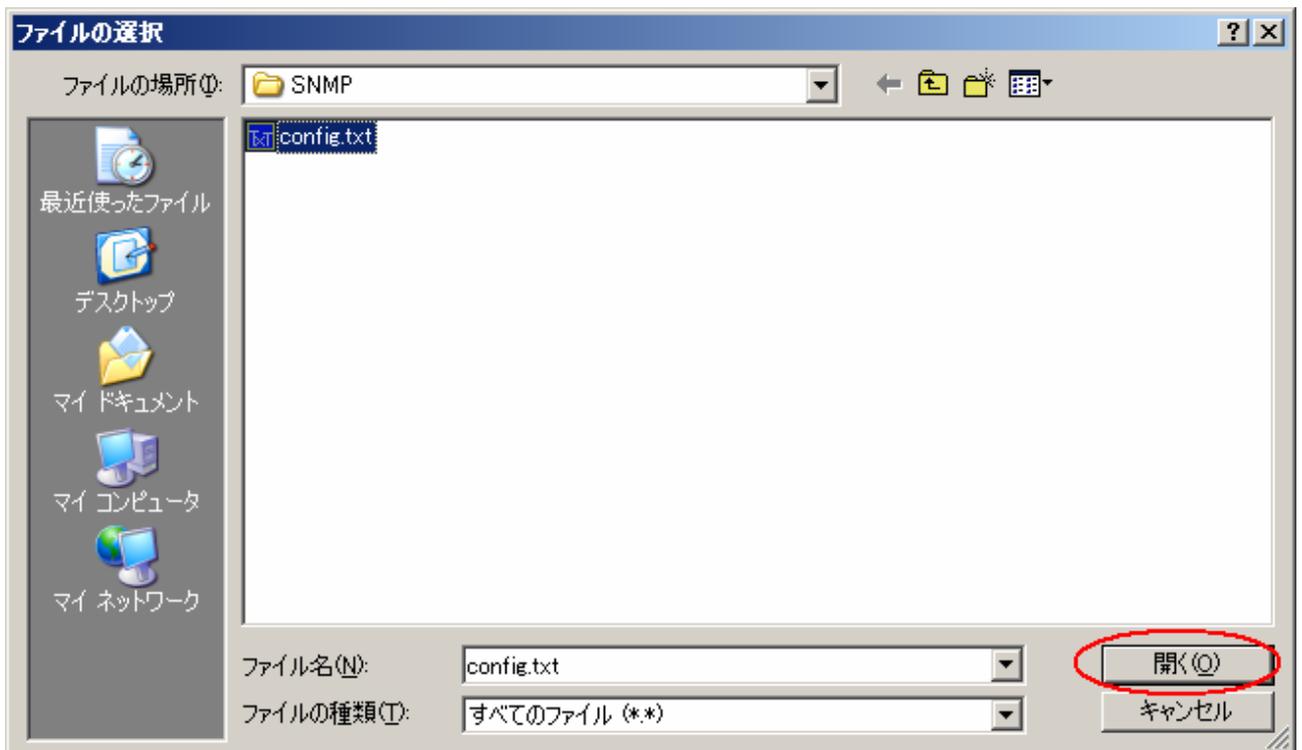
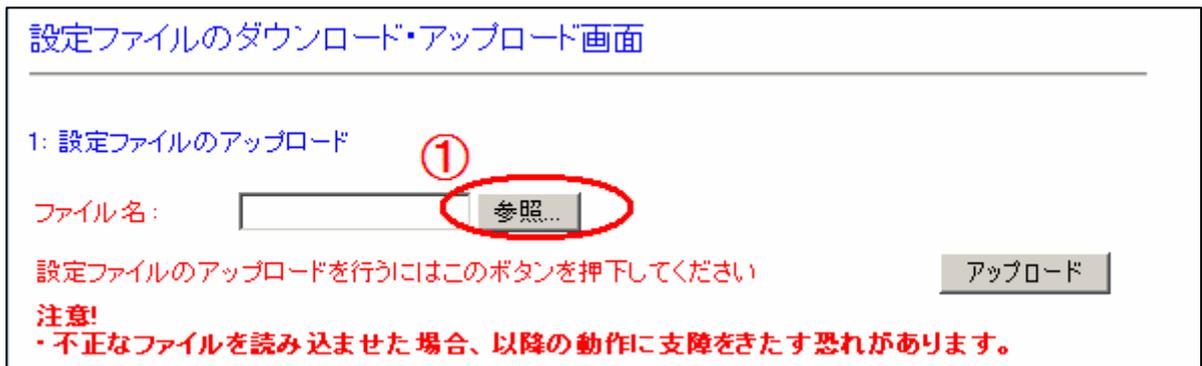


図 3-82 ファイル選択画面

② ファイル名に設定ファイルが入っていることを確認して“アップロード”ボタン選択します。

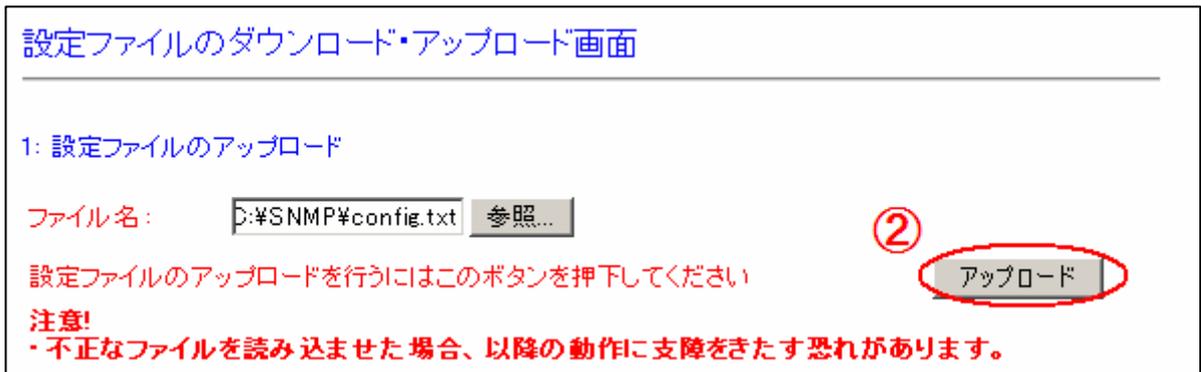


図 3-83 アップロード

③ 設定ファイルの受信完了が表示され、設定ファイルのサイズが表示されます。

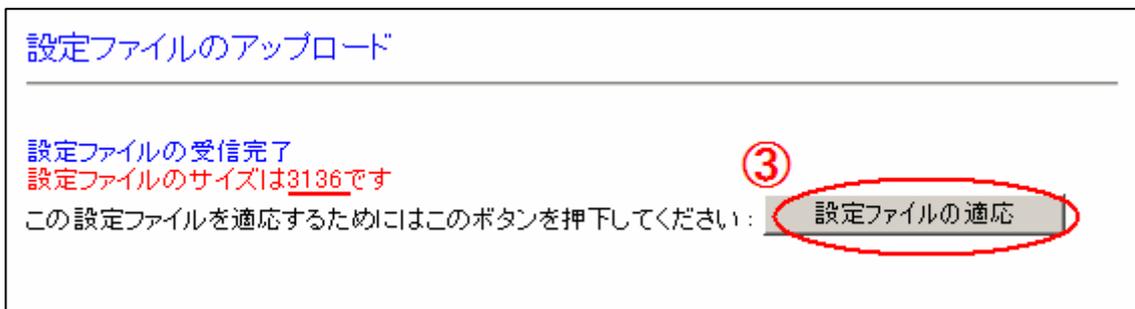


図 3-84 アップロード後の画面

送信したファイルのサイズと表示されているサイズが一致してくることを確認してください。
“設定ファイルの適応”ボタンを選択すると、アップロードした設定ファイルの内容が Web/SNMP カードに反映されます。

キャンセルする場合は、左フレームより[設定ファイル]またはその他項目を選択し、右フレームの画面を切り替えてください。

(設定ファイルの適応を選択しない限り、設定は変更されません。)

- ④ 設定ファイルの適応中が表示されます。

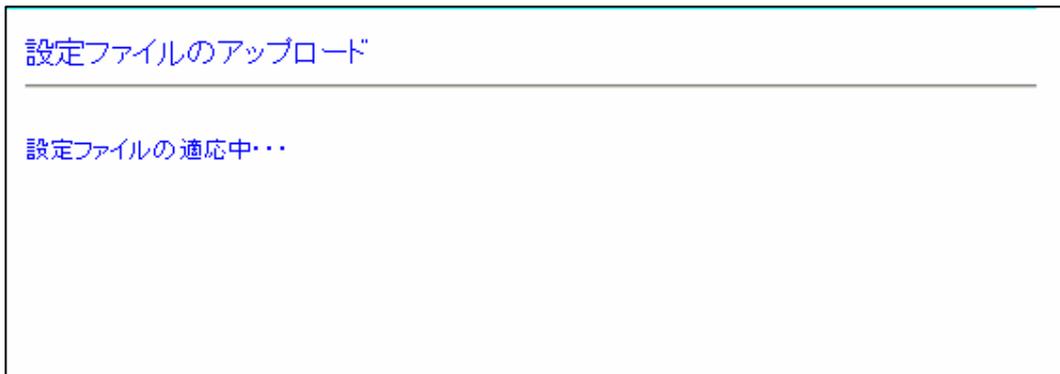


図 3-85 アップロード中の画面

- ⑤ 適応が完了すると、“設定ファイルを更新しました！！”が表示されます。

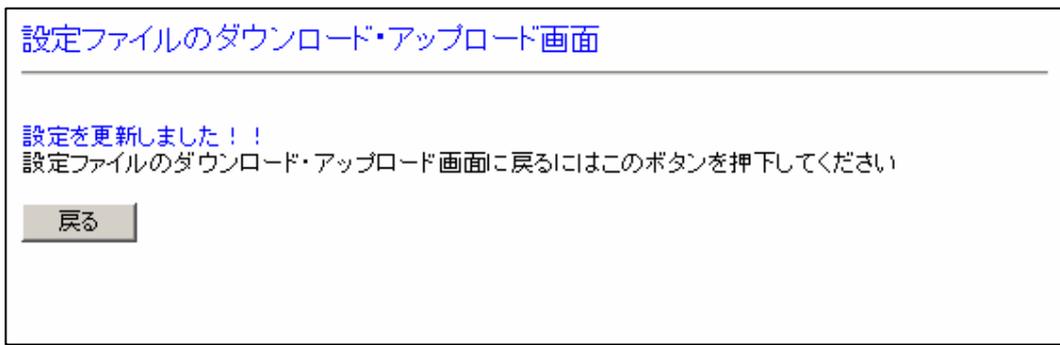


図 3-86 アップロード後の画面

- ⑥ 適応が完了後にレポートが必要な場合は“レポート実行”・“キャンセル”ボタンが表示されます。

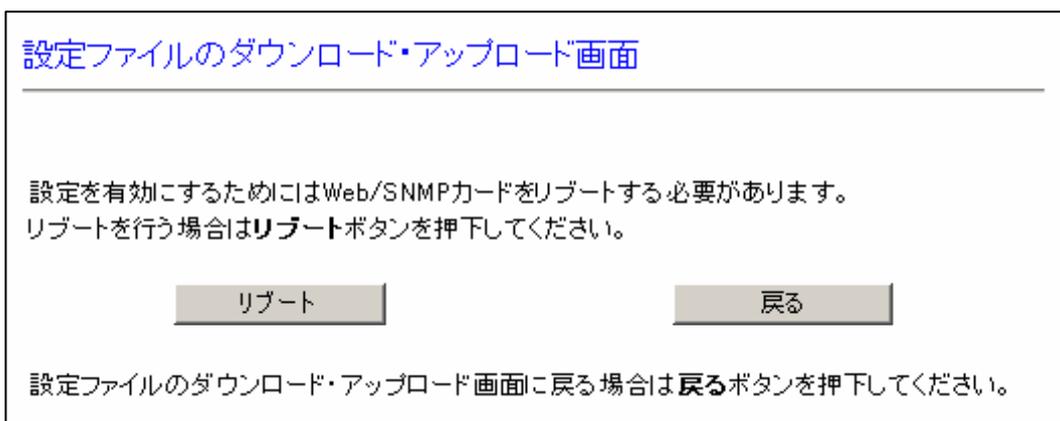


図 3-87 レポート確認画面

- “レポート”ボタンを選択すると、Web/SNMP カードのレポートが開始されます。
“戻る”ボタンを選択すると、設定ファイルのアップロード・ダウンロード画面に戻ります。

⑦ 設定更新に失敗した場合には以下の画面を表示します。

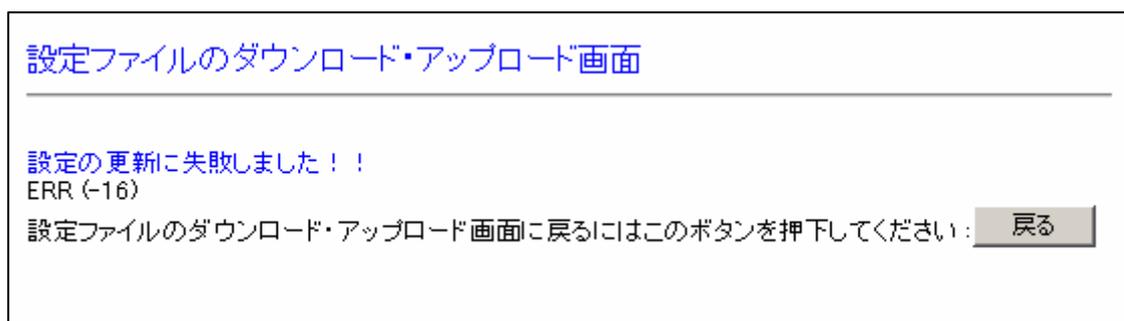


図 3-88 アップロード失敗画面

上記画面が表示された場合にはアップロードに指定したファイルを確認してください。

設定ファイルのアップロードでは以下の設定内容が現在の設定と変更される場合には設定ファイルの適応後、リポートが必要となり、“リポート”ボタンが表示されます。

リポートが必用な項目:

IP Address

SubNetMask

GateWay

停止動作シリアル設定

3.9.3. 設定ファイルのダウンロード機能

設定ファイルのダウンロードでは、設定ファイルを Web/SNMP カードからダウンロードを行うことによって Web/SNMP カードの設定を外部保存することが可能です。

保存した設定ファイルは他の EX シリーズ用の Web/SNMP カードにアップロードが可能です。

3.9.4. 設定ファイルのダウンロード手順

① 設定ファイルに保存する項目のチェックボックスを有効にし、“ダウンロード”ボタンを選択します。

2: 設定ファイルのダウンロード

設定ファイルに保存するデータの項目を選択してください:

<input checked="" type="checkbox"/> UPS 型式	<input checked="" type="checkbox"/> IP アドレス 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 設定
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザ 設定	<input checked="" type="checkbox"/> SNMP 設定	<input checked="" type="checkbox"/> e-mail 通知 設定
<input checked="" type="checkbox"/> PowerSOLドメイン 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 設備管理情報の 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 停止動作(停電) 設定
<input checked="" type="checkbox"/> 停止動作(イベント) 設定	<input checked="" type="checkbox"/> 停止動作(シリアル) 設定	<input checked="" type="checkbox"/> コンソール送受信 設定
<input checked="" type="checkbox"/> Netshut & RCCMD 設定	<input checked="" type="checkbox"/> telnet/rsh 設定	<input checked="" type="checkbox"/> WOL 設定
<input checked="" type="checkbox"/> イベント通知 設定	<input checked="" type="checkbox"/> ユーザ名/パスワード 設定	<input checked="" type="checkbox"/> UPS 設定
<input checked="" type="checkbox"/> オプション 設定		

設定ファイルのダウンロードを行うにはこのボタンを押下してください

図 3-89 設定ファイルの情報

各チェックボックスと設定ファイルに保存される内容の一覧を以下に示します。

名称	デフォルト	内容
UPS 型式	ON	UPS の型式名称を設定ファイルに記録 (記録のみ、アップロード時には無視されます)
IP アドレス設定	OFF	IP アドレス設定の情報を記録
一般設定	ON	一般設定の情報を記録
ユーザ設定	ON	ユーザ設定の情報を記録
SNMP 設定	ON	SNMP 設定の情報を記録
e-mail 通知設定	ON	e-mail 通知設定の情報を記録
PowerSOLドメイン設定	ON	PowerSOLドメイン設定の情報を記録
設備管理情報の設定	ON	設備管理情報の設定を記録
停止動作(停電)設定	ON	停止動作(停電)の情報を記録
停止動作(イベント)設定	ON	停止動作(イベント)の情報を記録
停止動作(シリアル)設定	OFF	停止動作(シリアル)の情報を記録
コンソール送受信設定	ON	コンソール送受信情報を記録
Netshut & RCCMD 設定	ON	OS shutdown 設定の情報を記録
telnet/rsh 設定	ON	telnet/rsh 設定の情報を記録
イベント通知設定	ON	イベント通知設定の情報を記録
ユーザ名/パスワード設定	ON	ユーザ名/パスワードの情報を記録
UPS 設定	OFF	UPS 設定の情報を記録
オプション設定	OFF	補足情報の情報を記録 (記録のみ、アップロード時には無視されます)

② “ダウンロード”ボタンを選択すると、設定ファイル”config.txt”が作成されます。

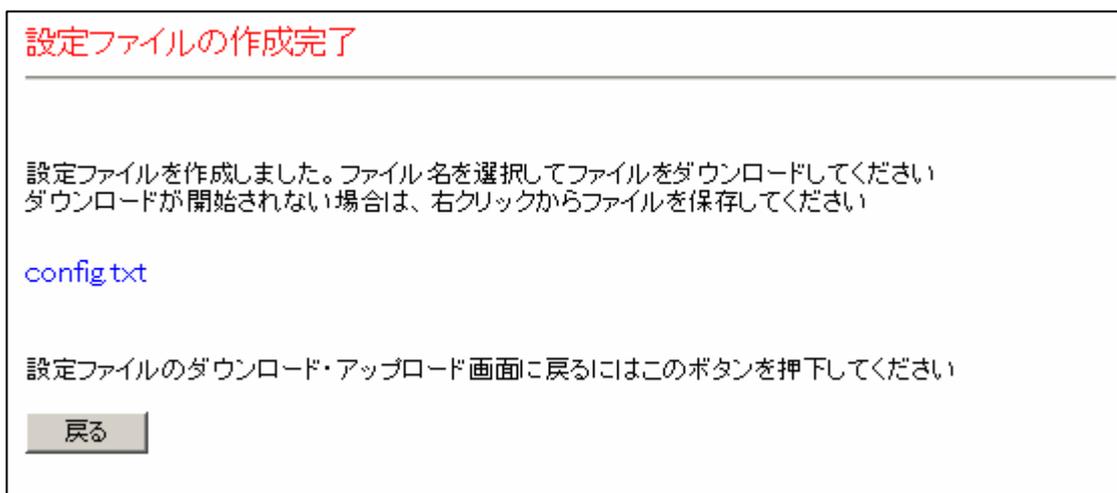


図 3-90 ダウンロード

Internet Explorer を使用している場合は、“config.txt”を右クリックから表示されるメニューから [対象をファイルに保存(A)]を選択して、ダウンロードを行って下さい。

“戻る”ボタンを選択すると、設定ファイルのアップロード・ダウンロード画面にもどります。

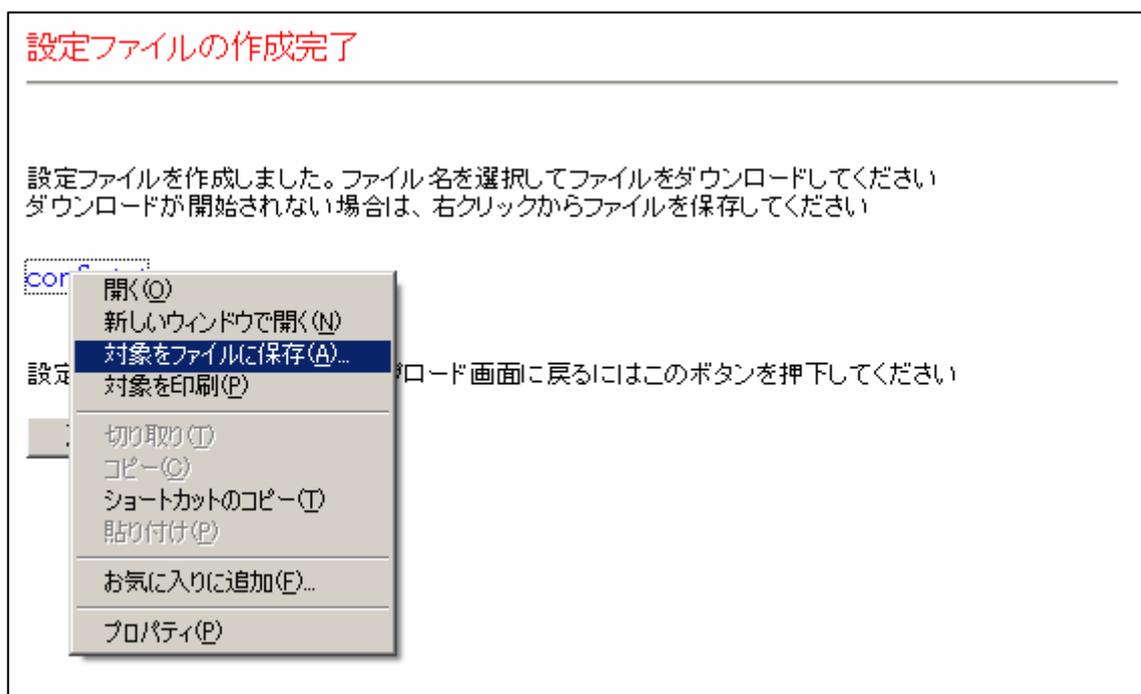


図 3-91 ダウンロード方法

“config.txt”を選択し、右フレームに設定ファイルの内容が表示された場合は、左フレームより、“設定ファイル”を選択して下さい。(右フレームの内容が設定ファイルのアップロード・ダウンロード画面に戻ります。)

3.9.5. スケジュール設定ファイルのアップロード機能

スケジュール設定ファイルのアップロードでは、設定ファイルを Web/SNMP カードにアップロードを行うことによってスケジュール設定の一括更新を行うことが可能です。

3.9.6. スケジュール設定ファイルのアップロード手順

- ① ファイル名に設定ファイルの保存先とファイル名 (フルパス) を入力、または“参照”ボタンを選択し [ファイルの選択] ウィンドウから、設定ファイルを選択して“開く”ボタンを選択します。

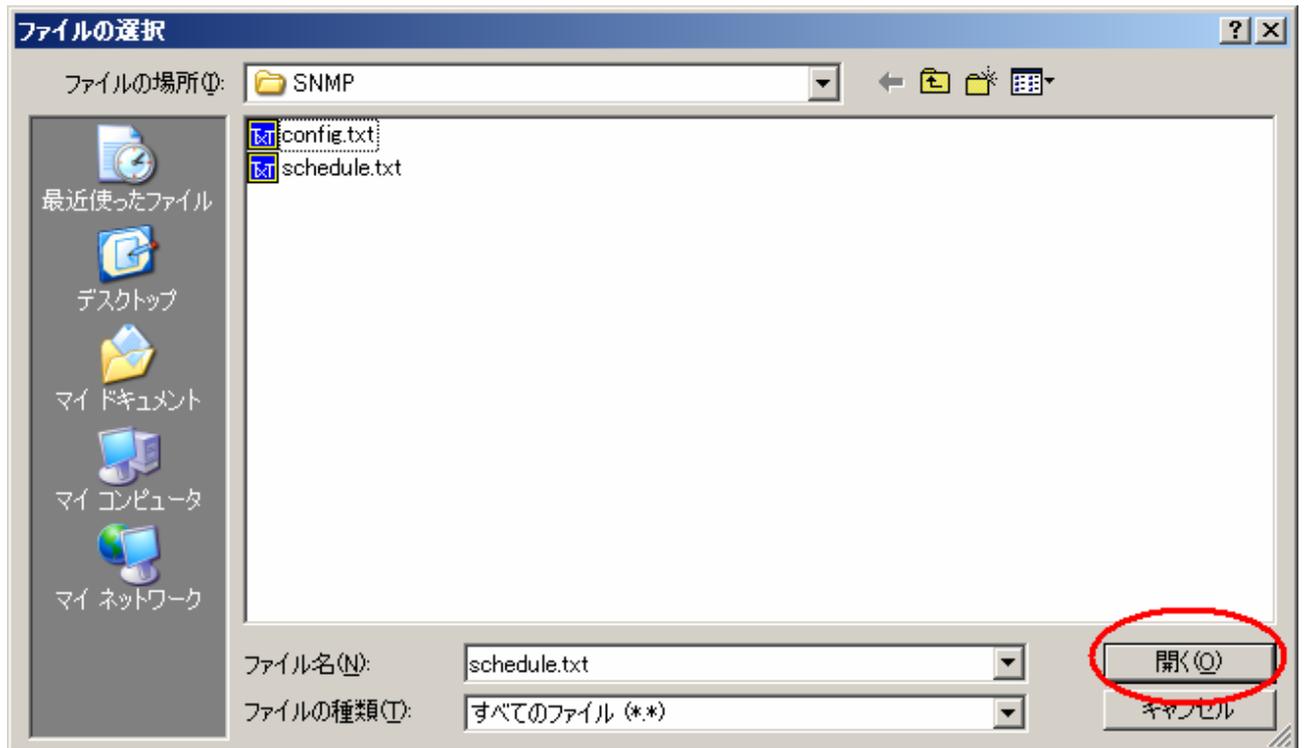
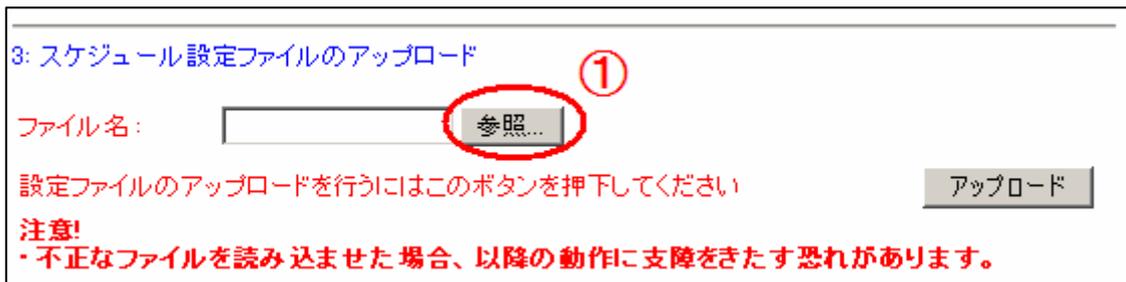


図 3-92 ファイル選択

② ファイル名に設定ファイルが入っていることを確認して“アップロード”ボタン選択します。

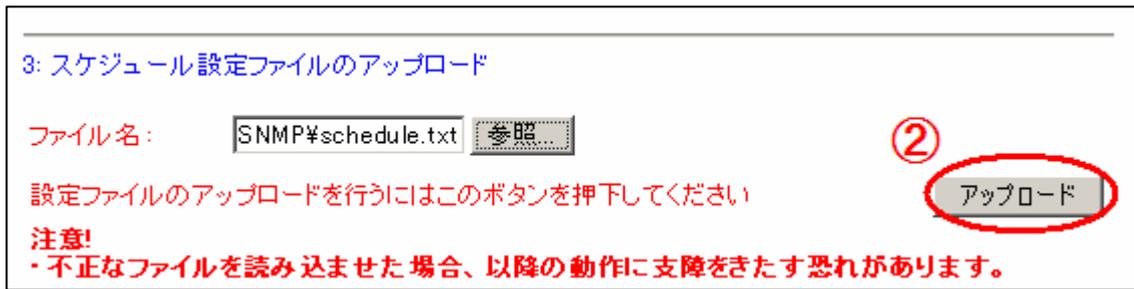


図 3-93 スケジュールファイルのアップロード

③ 設定ファイルの受信完了が表示され、設定ファイルのサイズが表示されます。

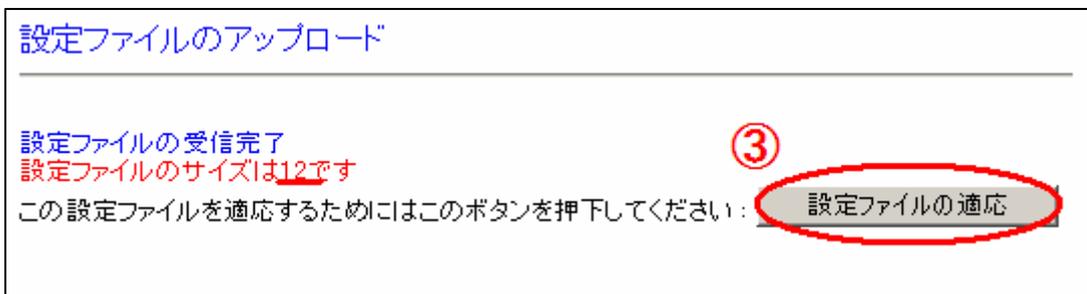


図 3-94 スケジュールファイルの適応

“設定ファイルの適応”ボタンを選択すると、アップロードした設定ファイルの内容が Web/SNMP カードに反映されます。

キャンセルする場合は、左フレームより[設定ファイル]またはその他項目を選択し、右フレームの画面を切り替えてください。

(設定ファイルの適応を選択しない限り、設定は変更されません。)

- ④ 設定ファイルの適応中が表示されます。

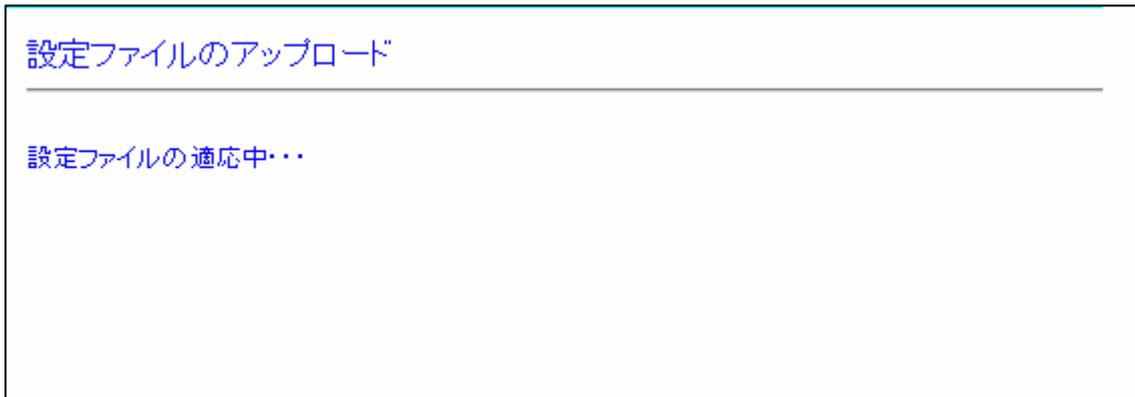


図 3-95 スケジュールファイルのアップロード

- ⑤ 適応が完了すると、“設定ファイルを更新しました！！”が表示されます。

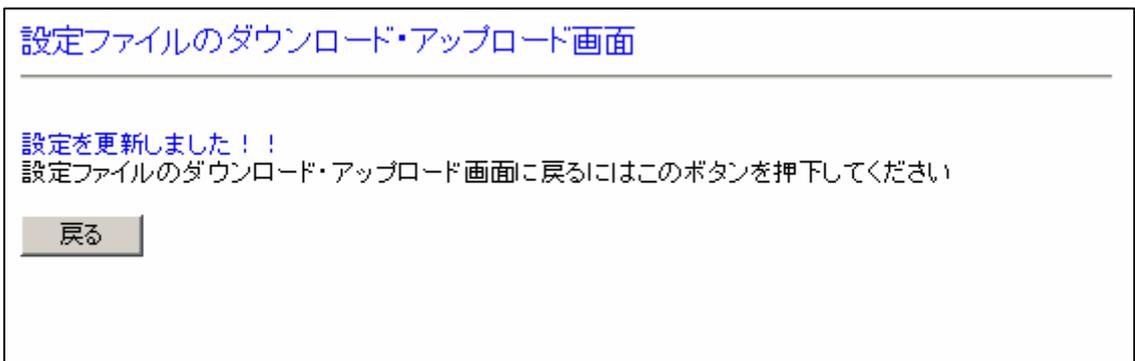


図 3-96 スケジュールの更新完了

- ⑥ “戻る”ボタンを選択すると、設定ファイルのアップロード・ダウンロード画面に戻ります。

- ⑦ 設定更新に失敗した場合には以下の画面を表示します。

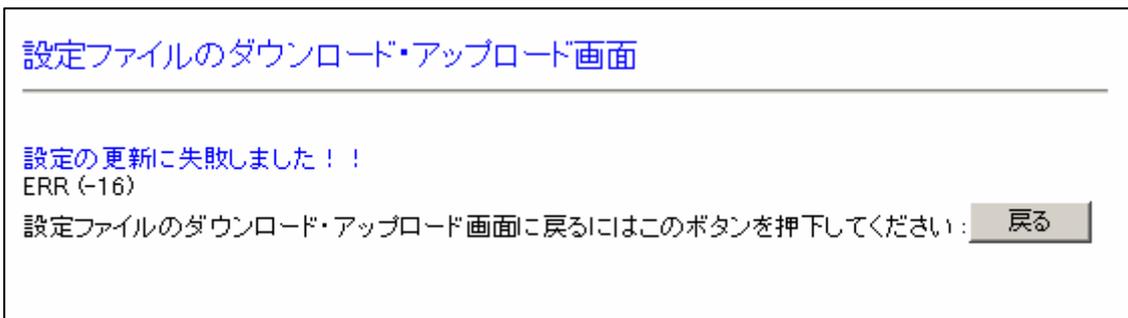


図 3-97 スケジュールの更新失敗

上記画面が表示された場合にはアップロードに指定したファイルを確認してください。

3.9.7. スケジュール設定ファイルのダウンロード機能

スケジュール設定ファイルのダウンロードでは、スケジュールの設定をダウンロードすることによって、設定内容の外部保存が可能です。保存した設定ファイルは他の Web/SNMP カードにアップロードが可能です。

3.9.8. スケジュール設定ファイルのダウンロード手順

- ① 設定ファイルに保存する項目のチェックボックスを有効にし、“ダウンロード”ボタンを選択します。

4: スケジュール設定ファイルのダウンロード

設定ファイルに保存するデータの項目を選択してください:

毎日スケジュール 毎週スケジュール 指定日スケジュール

設定ファイルのダウンロードを行うにはこのボタンを押下してください

ダウンロード

図 3-98 スケジュール設定の選択画面

各チェックボックスと設定ファイルに保存される内容の一覧を以下に示します。

チェックボックスの項目	デフォルト	内容
毎日スケジュール	ON	毎日のスケジュール設定をファイルに保存
毎週スケジュール	ON	毎週のスケジュール設定をファイルに保存
指定日スケジュール	ON	指定日のスケジュール設定をファイルに保存

- ② “ダウンロード”ボタンを選択すると、設定ファイル”schedule.txt”が作成されます。

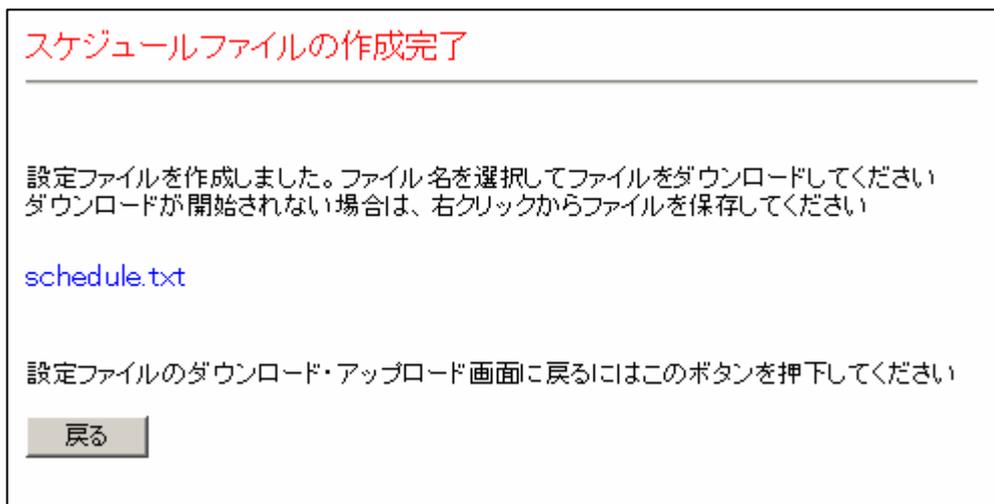


図 3-99 スケジュールファイルの作成

Internet Explorer を使用している場合は、“schedule.txt”を右クリックから表示されるメニューから [対象をファイルに保存(A)]を選択して、ダウンロードを行って下さい。

“戻る”ボタンを選択すると、設定ファイルのアップロード・ダウンロード画面にもどります。

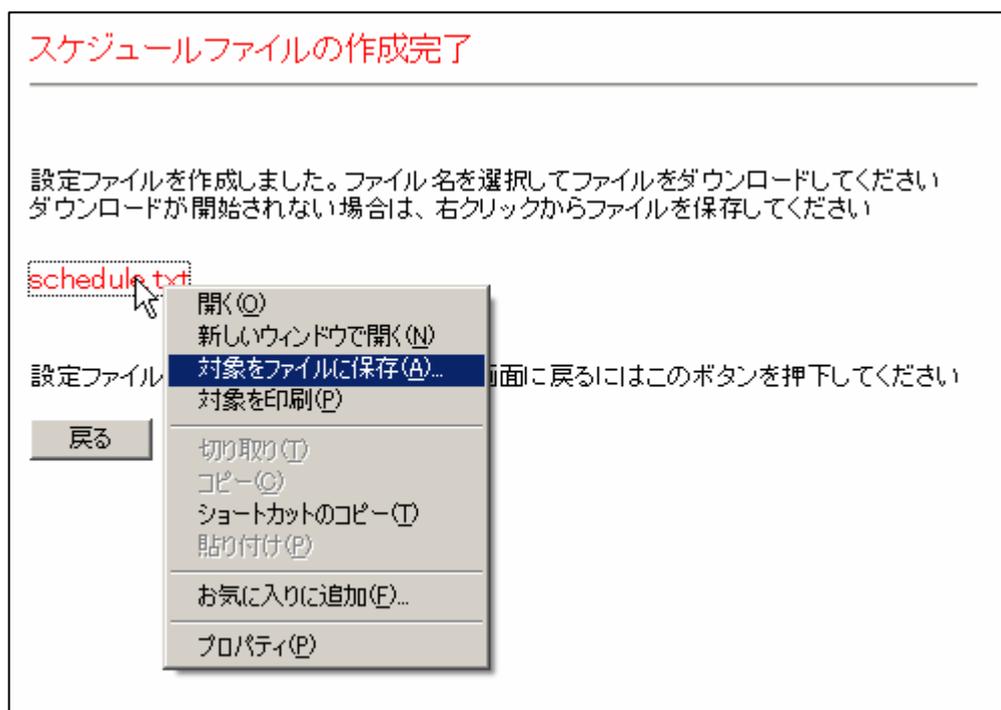


図 3-100 スケジュールファイルのダウンロード方法

“schedule.txt”を選択し、右フレームにスケジュール設定ファイルの内容が表示された場合は、左フレームより、“設定ファイル”を選択して最初の画面に戻ることが出来ます。

(右フレームの内容が設定ファイルのアップロード・ダウンロード画面に戻ります。)

3.10. Language

メニューの[Language]をクリックすると、右フレームに Language / 言語設定画面を表示します。

Language / 言語設定

Web/SNMPカードの言語を変更します。

STEP1: 言語ファイルの選択

言語ファイル名:

注意: 必ず弊社指定の言語ファイルを指定して下さい。

STEP2: 言語ファイルのアップロード

言語ファイルをアップロードする場合はこのボタンを押下して下さい:

注意: 不正なファイルを読み込ませた場合、以降の動作に支障をきたす恐れがあります。

図 101 Language 画面

△ 注意

- Web/SNMPカードからダウンロードしたファイル以外の不正なファイルをアップロードした場合、Web/SNMPカードが故障する可能性があります。
- 設定ファイルを手動で作成または編集したファイルをアップロードした場合、以後の動作に支障をきたす可能性がありますので絶対に行わないでください。

3.10.1. Languageファイルのアップロード手順

- ① 言語ファイル名に Language ファイルの保存先とファイル名(フルパス)を入力、または“参照ボタン”を押下しファイルの選択ウインドウから、設定ファイルを選択して開くボタンを押下します。



図 102 参照ボタンの押下

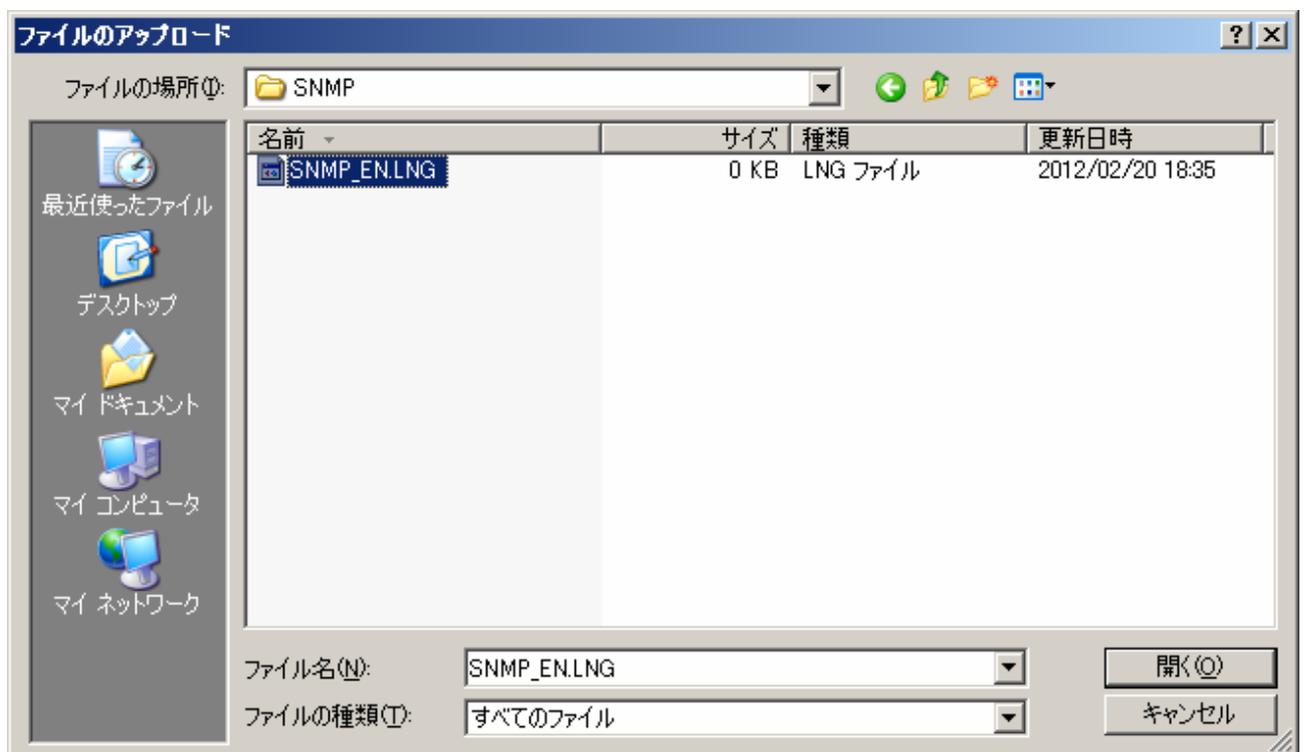


図 103 参照画面

- ② 言語ファイル名にファイル名が入っていることを確認して”Start Upload”選択します。

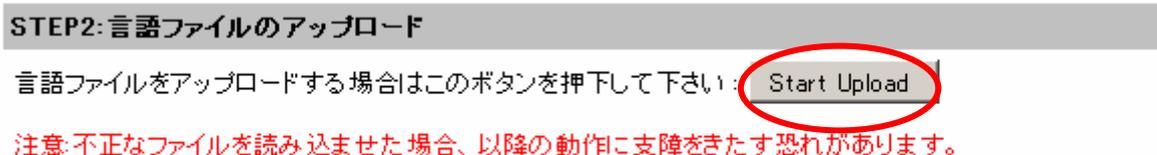


図 104 Start Upload の押下

③Language ファイルの受信完了が表示され、ファイルのサイズが表示されます。

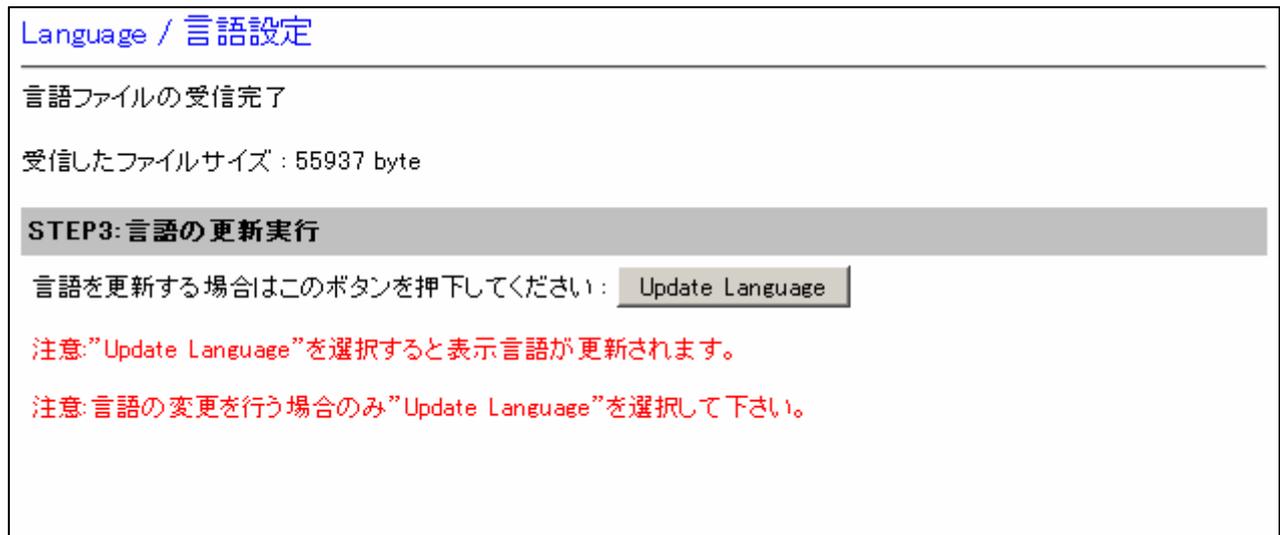


図 105 ファイルの受信完了画面

“Update Language”ボタンを選択すると、アップロードしたファイルの内容が Web/SNMP カードに反映されます。キャンセルする場合は、左フレームより“設定ファイル”またはその他項目を選択し、右フレームの画面を切り替えてください。(設定ファイルの適応を選択しない限り、設定は変更されません。)

④Language ファイルの更新中が表示されます。



図 106 更新心中画面

更新が完了すると、“更新完了”が表示されます。

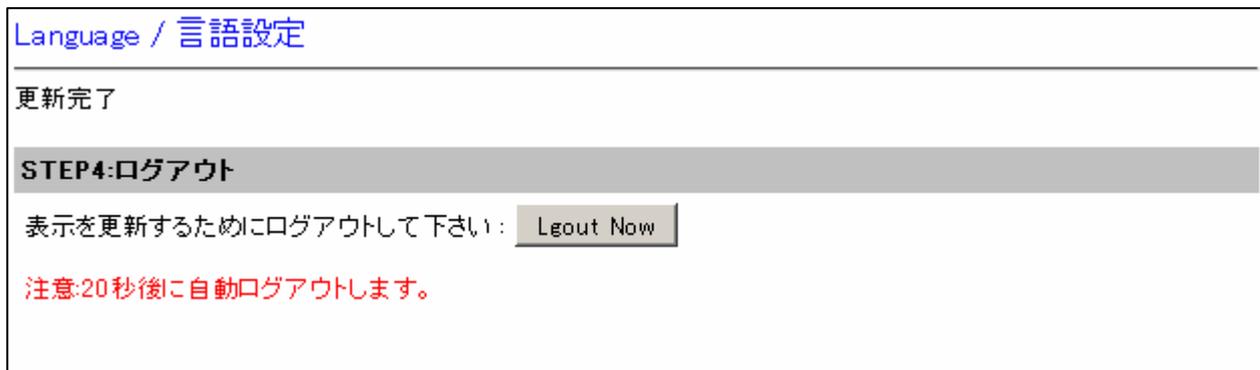
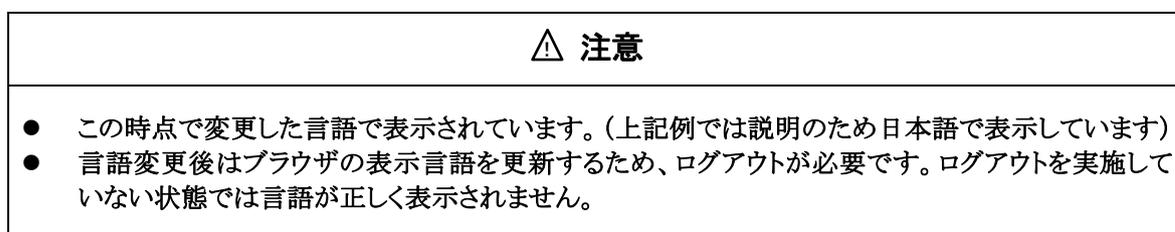


図 107 更新完了



“Logout Now”ボタンを押下すると、ログアウトを実施し、UPS モニタ画面に戻ります。

設定更新に失敗した場合には以下の画面を表示します。

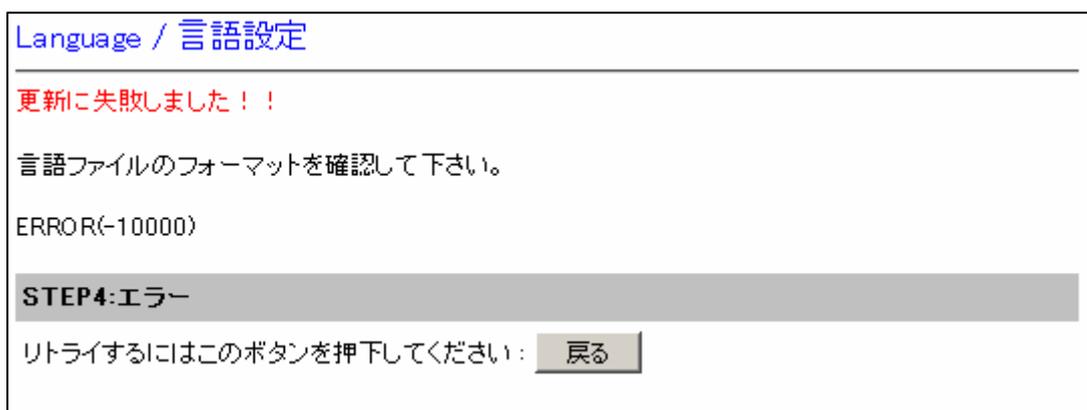


図 108 更新失敗

上記画面が表示された場合には指定したファイルを確認してください。

3.11. ファームウェアアップデート

重要

- Web/SNMPカードのファームウェアアップデート中に UPS を停止したり、リモート OFF やリブートを行わないで下さい。必ず UPS の動作状態が「運転中、正常」の時に実行して下さい。
(UPS の動作状態は、[モニタ画面]で確認できます)
Web/SNMPカードが故障して再起動できなくなる恐れがあります。
- Web/SNMPカードのファームウェアアップデート中に、ブラウザを終了しないで下さい。
Web/SNMPカードが故障して再起動できなくなる恐れがあります。
- Web/SNMPカードのファームウェアアップデート中やアップデート後に、ブラウザの“戻る”ボタンを押さないで下さい。
Web/SNMPカードが故障して再起動できなくなる恐れがあります。
- スケジュール運転による UPS 停止中にWeb/SNMPカードのファームウェアアップデートを実行しないで下さい。
Web/SNMPカードが故障して再起動できなくなる恐れがあります。
- Web/SNMPカードのアップデートファイルの拡張子は「.sys」です。
3.11.1アップデートファイルのアップロードでは拡張子が「.sys」のファイルを指定して下さい。

3.11.1. アップデートファイルのアップロード

Web/SNMPカードのファームウェアの更新(アップデート)の方法を説明します。
WWW クライアントからWeb/SNMPカードにアップデートファイルの転送を行います。
なお、アップデートには拡張子が「sys」のファイルを指定して下さい。

ファームウェアのアップデート

ステップ 1: ファイルのアップロード
ファイルのアップロードに30~40秒かかります !

ファイル名 :

アップロードするにはこのボタンを押下してください :

注意)

- ・ファイルのアップロード中はWeb/SNMPカードをUPSから取りはずさないでください。
- ・ファイルのアップロード中はWeb/SNMPカードのネットワークケーブルを取りはずさないでください。

上記操作を行われますと、ファイルのアップロードが正常に終了せず、以降の動作に支障をきたす恐れがあります。

図 3-109 ファームウェアのアップデート(ファイルのアップロード)

- ① ファイル名
アップロードファイルのファイル名を表示します。②の“参照”ボタンで選択したファイル名を表示します。アップロードファイルは拡張子が「sys」のファイルを指定して下さい。
- ② 参照ボタン
このボタンを選択して、[ファイルの選択ダイアログ]でアップロードファイル(アップデートするファームウェア)を選択してください。
- ③ アップロードボタン
このボタンを選択すると、ファイルのアップロードが開始されます。

注意) Web/SNMPカードのファームウェアアップロード中に、ブラウザを終了したり、ブラウザの“戻る”ボタンを押さないで下さい。

3.11.2. ファームウェアのアップデート

アップロードの終了後、Web/SNMPカードのファームウェアのアップデート画面が表示されます。

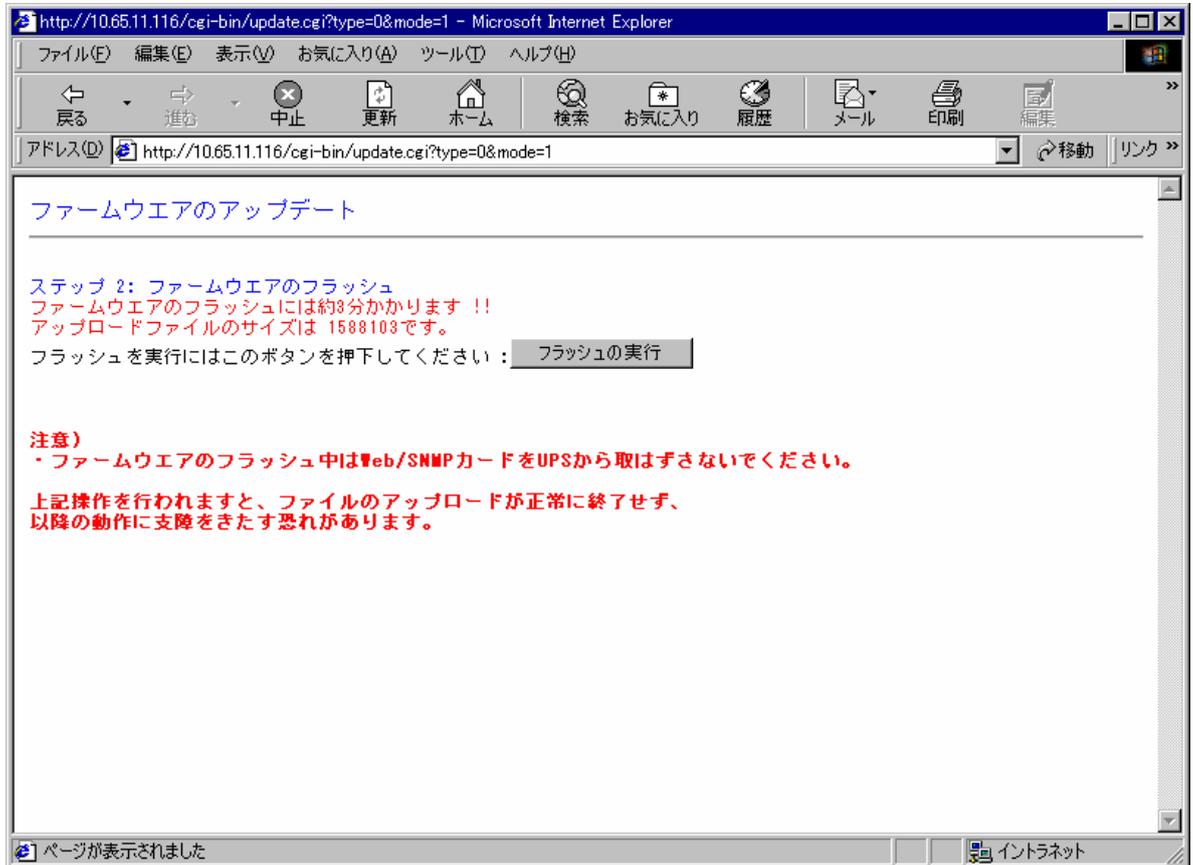


図 3-110 ファームウェアのアップデート(ファームウェアのフラッシュ)

① フラッシュの実行ボタン

このボタンを選択するとWeb/SNMPカード内のファームウェアのアップデートが開始されます。

アップロードされたファームウェアは一旦テンポラリメモリに格納され「フラッシュの実行」でテンポラリメモリから CPU のフラッシュメモリに書き込まれます。フラッシュメモリへの書き込み時間は約 3 分です。

注意) Web/SNMPカードのファームウェアアップデート中に、ブラウザを終了したり、ブラウザの“戻る”ボタンを押さないで下さい。

3.11.3. ファームウェアのアップデートの終了

フラッシュメモリへの書き込みが終了すると、ファームウェアのアップデート終了画面が表示されます。

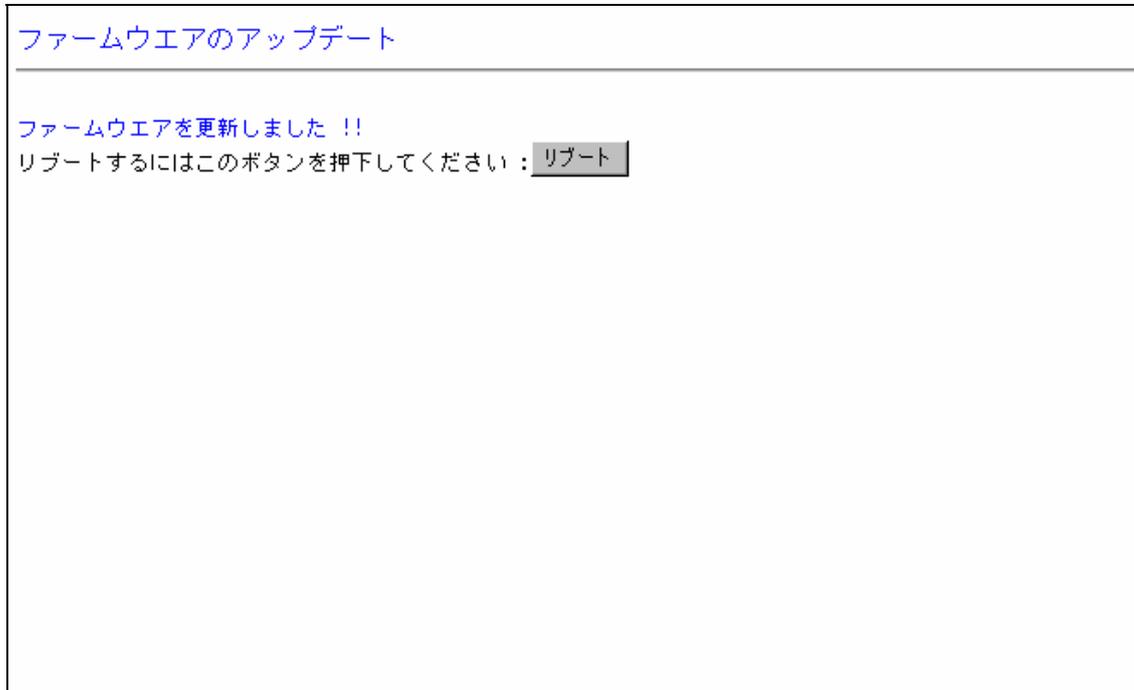


図 3-111 ファームウェアのアップデート(ファームウェアのアップデート)

① リポートボタン

ファームウェアのアップデート終了後にはWeb/SNMPカードをリポートする必要があります。
このボタンを選択するとWeb/SNMPカードのリポート画面へ移行します。

3.11.4. リポート

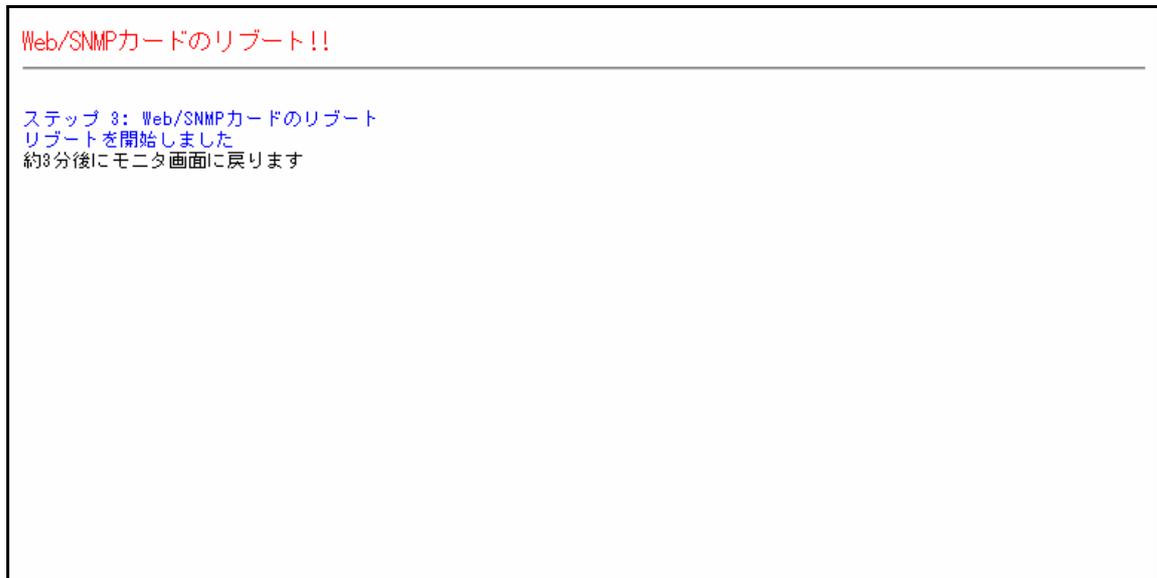


図 3-112 ファームウェアのアップデート(システムのリポート)

リポート時間は約 3 分です。

注意) Web/SNMPカードのリポート中に、ブラウザを終了したり、ブラウザの“戻る“ボタンを押したりしないで下さい。

第4章 SNMPインタフェース

Web/SNMPカードはRFC1213に準拠したMIB-II、及びUPS管理MIBとしてUPS-MIB (RFC1628)、JEMA-MIB、PRIVATE MIB に準拠しています。

停電等のイベント発生時には、指定したIPアドレスのSNMPマネージャにトラップを利用して異常イベントの発生を知らせることができます。

重要

- JEMA-MIBのUpsShutdownAfterDelay、またはPRIVAITE-MIBのupsRunShutdownRestoreで設定したUPS出力停止遅延時間が、3.4.11停止動作(イベント)設定画面で設定したUPS出力停止遅延時間より短い場合、3.4.11停止動作(イベント)設定画面で設定したUPS出力停止遅延時間が有効になります。

4.1. 設定方法

SNMPトラップの通知先設定、SNMPコマンドなどのRead/Write属性の設定は**3.4.4SNMP設定画面**を参照して下さい。

Web/SNMPカードのCommunity nameはデフォルトではpublicに設定されています。変更する場合は**3.4.4SNMP設定画面**を参照して下さい。

SNMPコマンドを使用して設定した値は、Web モニタ画面の設定値とは関連はありません。

MIB の値を変更しても Web モニタ画面の設定値は変更されません。

(例外として OID 1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.6.0 jemaUpsIdentAttachedDevices は接続機器名に反映されます。)

対応 MIB 一覧

Web/SNMPカードで対応している MIB は以下の通りです。

- JEMA MIB 定義ファイル
添付 CD の¥MIB フォルダ内の jema.mib を参照下さい。
- UPS-MIB (RFC1628)定義ファイル
添付 CD の¥MIB フォルダ内の rfc1628.mib を参照下さい。
- PRIVATE MIB 定義ファイル
添付 CD の¥MIB フォルダ内の UPSMANTRAP.mib を参照下さい。

MIB-II 対応一覧

識別子	名前	Read/Write	備考
1.3.6.1.2.1.1.1.0	SysDescr	read-only	エンティティの情報 “Web/SNMP Card”(固定)
1.3.6.1.2.1.1.2.0	SysObjectID	read-only	ベンダーのOID “.0.0.0“(固定)
1.3.6.1.2.1.1.3.0	SysUpTime	read-only	ネットワーク部分が最後に初期化 されてからの時間
1.3.6.1.2.1.1.4.0	SysConTact	read-write	ノード管理者の名前 初期値 “”
1.3.6.1.2.1.1.5.0	SysName	read-write	ノード管理用の名前(ドメイン名) 初期値 “Fuji Electric Co.,Ltd.”
1.3.6.1.2.1.1.6.0	SysLocation	read-write	ノードの場所 初期値 空白
1.3.6.1.2.1.1.7.0	SysServices	read-only	提供するサービス 72(固定)
1.3.6.1.2.1.2.1.0	IfNumber	read-only	インタフェースの数 1(固定)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.1.1	IfIndex	read-only	インタフェースに割り当てられる 固有の値 1(固定)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.2.1	IfDescr	read-only	インタフェースに関する記述 “LAN0”(固定)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.3.1	IfType	read-only	インタフェースのタイプ 6(固定)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.4.1	IfMTU	read-only	送受信可能な最大 IP データグラム 1500(固定)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.5.1	IfSpeed	read-only	インタフェースの通信速度(bbs)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.6.1	IfPhysAddress	read-only	インタフェースの MAC アドレス
1.3.6.1.2.1.2.2.1.7.1	IfAdminStatus	read-only	インタフェースの設定
1.3.6.1.2.1.2.2.1.8.1	IfOperStatus	read-only	現在のインタフェース状態
1.3.6.1.2.1.2.2.1.9.1	IfLastChange	read-only	インタフェースが現在の状態に なったときの sysUpTime の値。 サブシステムの初期化が終る前に、 現在の状態になった場合、 値は 0 になる。
1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.1	IfInOctets	read-only	インタフェースが受信した 総バイト数
1.3.6.1.2.1.2.2.1.11.1	IfInUcastPkts	read-only	インタフェースが受信した パケットのパケット総数

識別子	名前	Read/Write	備考
1.3.6.1.2.1.2.2.1.12.1	IfInNUcastPkts	read-only	インタフェースが受信した非ユニキャストパケット数
1.3.6.1.2.1.2.2.1.13.1	IfInDiscards	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.14.1	IfInErrors	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.15.1	IfInUnknownProtos	read-only	プロトコルが未知、またはサポートしていない為に破棄されたパケット数
1.3.6.1.2.1.2.2.1.16.1	IfOutOctets	read-only	インタフェースが送信した総バイト数
1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.1	IfOutUcastPkts	read-only	インタフェースが送信したユニキャストパケットのパケット総数(破棄されたパケットも含まれる)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.18.1	IfOutNUcastPkts	read-only	インタフェースが送信した非ユニキャストパケットのパケット総数(破棄されたパケットも含まれる)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.19.1	IfOutDiscards	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.20.1	IfOutErrors	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.21.1	IfOutQLen	read-only	送信待ちのパケットの長さ(単位はパケット)64(固定)
1.3.6.1.2.1.2.2.1.22.1	IfSpecific	read-only	インタフェースの追加情報".0.0.0"(固定)
1.3.6.1.2.1.4.1.0	IpForwarding	read-only	ゲートウェイとして動作し、パケット中継がされかを表示。2(固定)
1.3.6.1.2.1.4.2.0	IpDefaultTTL	read-only	IPヘッダーの生存時間フィールド32(固定)
1.3.6.1.2.1.4.3.0	IpInReceives	read-only	受信したIPデータグラム数
1.3.6.1.2.1.4.4.0	IpInHdrErrors	read-only	IPヘッダにエラーがある為に廃棄されたインプットデータグラムの数
1.3.6.1.2.1.4.5.0	IpInAddrErrors	read-only	IPヘッダの宛先フィールドのアドレスが無効な値になっているインプットデータグラムの数
1.3.6.1.2.1.4.6.0	IpForwDatagrams	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.7.0	IpInUnknownProtos	read-only	未知またはサポートしていないプロトコルが原因で破棄されたパケットの数
1.3.6.1.2.1.4.8.0	IpInDiscards	read-only	エラー以外の理由で破棄されたパケット数(受信バッファの超過など)
1.3.6.1.2.1.4.9.0	IpInDelivers	read-only	IPのユーザプロトコル(ICMPを含む)に正常に渡されたインプットデータグラムの数
1.3.6.1.2.1.4.10.0	IpOutRequests	read-only	ローカルのIPのユーザプロトコル(ICMPも含む)から、IPに渡されたIPデータグラムの数
1.3.6.1.2.1.4.11.0	IpOutDiscards	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.12.0	IpOutNoRoutes	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.13.0	IpReasmTimeout	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.14.0	IpReasmReqds	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.15.0	IpReasmOKs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.16.0	IpReasmFails	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.17.0	IpFlagOKs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.18.0	IpFlagFails	read-only	*未対応(常に"0"を返す)

識別子	名前	Read/Write	備考
1.3.6.1.2.1.4.19.0	IpFragCreates	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.4.20.1.1	IpAdEntAddr	read-only	Web/SNMPカードの IP アドレス
1.3.6.1.2.1.4.20.1.2	IpAdEntIfIndex	read-only	対応するネットワーク Idx (ifIndex の値)
1.3.6.1.2.1.4.20.1.3	IpAdEntNetMask	read-only	Web/SNMPカードのサブネットマスク
1.3.6.1.2.1.4.20.1.4	IpAdEntBcastAddr	read-only	この IP アドレスのプロードキャストアドレスの再下位ビット
1.3.6.1.2.1.4.20.1.5	IpAdEntReasmMaxSize	read-only	処理できる IP データグラムの最大サイズ
1.3.6.1.2.1.4.22.1.1.0	IpNetToMediaIfIndex	read-only	有効となるインタフェース (ifIndex)
1.3.6.1.2.1.4.22.1.2.0	IpNetToMediaPhysAddress	read-only	MAC アドレス
1.3.6.1.2.1.4.22.1.3.0	IpNetToMediaNetAddress	read-only	IP アドレス
1.3.6.1.2.1.4.22.1.4.0	IpNetToMediaType	read-only	マッピングのタイプ 4:スタティック(固定)
1.3.6.1.2.1.4.23.0	IpRoutingDiscards	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.1.0	IcmpInMsgs	read-only	ICMP メッセージの受信総数
1.3.6.1.2.1.5.2.0	IcmpInErrors	read-only	エラーであった ICMP メッセージの受信数
1.3.6.1.2.1.5.3.0	IcmpInDestUnreachs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.4.0	IcmpInTimeExcds	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.5.0	IcmpInParmProbs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.6.0	IcmpInSrcQuenchs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.7.0	IcmpInRedirects	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.8.0	IcmpInEchos	read-only	ICMP Echo 要求メッセージの受信数
1.3.6.1.2.1.5.9.0	IcmpInEchoReps	read-only	ICMP Echo 応答メッセージの受信数を
1.3.6.1.2.1.5.10.0	IcmpInTimestamps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.11.0	IcmpInTimestampReps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.12.0	IcmpInAddrMasks	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.13.0	IcmpInAddrMaskReps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.14.0	IcmpOutMsgs	read-only	ICMP メッセージの出力総数
1.3.6.1.2.1.5.15.0	IcmpOutErrors	read-only	ICMP の問題で送信できなかった出力メッセージ数
1.3.6.1.2.1.5.16.0	IcmpOutDestUnreachs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.17.0	IcmpOutTimeExcds	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.18.0	IcmpOutParmProbs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.19.0	IcmpOutSrcQuenchs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.20.0	IcmpOutRedirects	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.21.0	IcmpOutEchos	read-only	ICMP Echo 要求メッセージの出力数
1.3.6.1.2.1.5.22.0	IcmpOutEchoReps	read-only	ICMP Echo 応答メッセージの出力数

識別子	名前	Read/Write	備考
1.3.6.1.2.1.5.23.0	IcmpOutTimestamps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.24.0	IcmpOutTimestampReps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.25.0	IcmpOutAddrMasks	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.5.26.0	IcmpOutAddrMaskReps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.6.1.0	TcpRtoAlgorithm	read-only	再転送タイムアウト値を計算する アルゴリズム 2(固定)
1.3.6.1.2.1.6.2.0	TcpRtoMin	read-only	タイムアウトの最小値 5000(固定)
1.3.6.1.2.1.6.3.0	TcpRtoMax	read-only	タイムアウトの最大値 15000(固定)
1.3.6.1.2.1.6.4.0	TcpMaxConn	read-only	TCP 最大接続数 64(固定)
1.3.6.1.2.1.6.5.0	TcpActiveOpens	read-only	TCP 接続が CLOSED 状態から SYS-SENT に移行した回数
1.3.6.1.2.1.6.6.0	TcpPassiveOpens	read-only	TCP 接続が LISTEN 状態から SYS-REVD に移行した回数
1.3.6.1.2.1.6.7.0	TcpAttemptFails	read-only	TCP 接続が失敗した回数
1.3.6.1.2.1.6.8.0	TcpEstabResets	read-only	リセットされた回数
1.3.6.1.2.1.6.9.0	TcpCurrEstab	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.6.10.0	TcpInSegs	read-only	受信したセグメントの総数
1.3.6.1.2.1.6.11.0	TcpOutSegs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.6.12.0	TcpRetransSegs	read-only	再転送したセグメントの総数
1.3.6.1.2.1.6.13.1.1	TcpConnState	read-only	TCP 接続の状態 2:LISTEN 3:SYN_SENT 5:ESTABLISHED 10:CLOSING
1.3.6.1.2.1.6.13.1.2	TcpConnLocalAddress	read-only	TCP 接続のローカル IP アドレス
1.3.6.1.2.1.6.13.1.3	TcpConnLocalPort	read-only	TCP 接続のローカルポート番号
1.3.6.1.2.1.6.13.1.4	TcpConnRemAddress	read-only	TCP 接続のリモート IP アドレス
1.3.6.1.2.1.6.13.1.5	TcpConnRemPort	read-only	TCP 接続のリモートポート番号
1.3.6.1.2.1.6.14.0	TcpInErrs	read-only	受信したセグメントのうち、 エラーだった総数
1.3.6.1.2.1.6.15.0	TcpOutRsts	read-only	送信したセグメントのうち、 RTS フラグを含むものの総数
1.3.6.1.2.1.7.1.0	UdpInDatagrams	read-only	UDP ユーザに送信された UDP データグラムの総数
1.3.6.1.2.1.7.2.0	UdpNoPorts	read-only	受信した UDP データグラムのうち、 対応するアプリケーションが 受信あて先ポートになかったものの総数
1.3.6.1.2.1.7.3.0	UdpInErrors	read-only	受信後、配信できなかった UDP データグラムのうちアプリケーションが 受信あて先ポートに無かったものを除いた数
1.3.6.1.2.1.7.4.0	UdpOutDatagrams	read-only	配信した UDP データグラムの総数
1.3.6.1.2.1.7.5.1.1	UdpLocalAddress	read-only	UDP リスナーのローカル IP アドレス
1.3.6.1.2.1.7.5.1.2	UdpLocalPort	read-only	UDP リスナーのローカルポート

識別子	名前	Read/Write	備考
1.3.6.1.2.1.11.1.0	SnmpInPkts	read-only	カードに配信された(カードが受信した)メッセージの総数
1.3.6.1.2.1.11.2.0	SnmpOutPkts	read-only	カードから送信したメッセージの総数
1.3.6.1.2.1.11.3.0	SnmpInBadVersions	read-only	サポートしていない SNMP バージョンの SNMP メッセージの受信件数
1.3.6.1.2.1.11.4.0	SnmpInBadCommunityNames	read-only	未知のコミュニティネームのメッセージ受信件数
1.3.6.1.2.1.11.5.0	SnmpInBadCommuniUses	read-only	メッセージ内の SNMP コミュニティ名で許可されていない SNMP 操作を示すメッセージの受信件数
1.3.6.1.2.1.11.6.0	SnmpInASNParseErrs	read-only	ASN.1 エラーまたは BER エラーの総数
1.3.6.1.2.1.11.8.0	SnmpInTooBigs	read-only	受信した SNMP の「tooBig」エラーの総数
1.3.6.1.2.1.11.9.0	SnmpInNoSuchNames	read-only	受信した SNMP の「noSuchName」エラーの総数
1.3.6.1.2.1.11.10.0	SnmpInBadValues	read-only	受信した SNMP の「BadValue」エラーの総数
1.3.6.1.2.1.11.11.0	SnmpInReadOnlys	read-only	受信した SNMP の「readOnly」エラーの総数
1.3.6.1.2.1.11.12.0	SnmpInGenErrs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.13.0	SnmpInTotalReqVars	read-only	とりだされた MIB オブジェクトの総数
1.3.6.1.2.1.11.14.0	SnmpInTotalSetVars	read-only	変更された MIB オブジェクトの数
1.3.6.1.2.1.11.15.0	SnmpInGetRequests	read-only	受信し、処理した SNMPGetNextPDU の総数
1.3.6.1.2.1.11.16.0	SnmpInGetNexts	read-only	受信した Get-Next PDU の総数
1.3.6.1.2.1.11.17.0	SnmpInSetRequests	read-only	受信した Set-Request の総数
1.3.6.1.2.1.11.18.0	SnmpInGetResponses	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.19.0	SnmpInTraps	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.20.0	SnmpOutTooBigs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.21.0	SnmpOutNoSuchNames	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.22.0	SnmpInOutBadValues	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.24.0	SnmpOutGenErrs	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.25.0	SnmpOutGetRequests	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.26.0	SnmpOutGetNexts	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.27.0	SnmpOutSetRequests	read-only	*未対応(常に"0"を返す)
1.3.6.1.2.1.11.28.0	SnmpOutGetResponses	read-only	送信した SNMP Get-Response PDU の総数
1.3.6.1.2.1.11.29.0	SnmpOutTraps	read-only	送信した SNMP Trap PDU の総数
1.3.6.1.2.1.11.30.0	SnmpEnableAuthenTraps	read-only	*未対応(常に"1"を返す)

JEMA MIB 対応一覧

識別子(JEMA MIB)	名 前	Read/Write	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.1.0	jemaUpsIdentManufacturer	read-only	UPS 製造業者名称 Fuji Electric Co.,Ltd.
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.2.0	jemaUpsIdentModel	read-only	UPS モデル名称 例 M-UPS007AD-200
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.3.0	jemaUpsIdentUPSSoftwareVersion	read-only	UPS ファームウェア及びソフトウェアバージョン
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.4.0	jemaUpsIdentAgentSoftwareVersion	read-only	Web/SNMPカードのファームウェアバージョン
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.5.0	jemaUpsIdentName	read-write	UPS 識別用文字列 デフォルトは空文字列
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.6.0	jemaUpsIdentAttachedDevices	read-write	UPS の出力に接続されている機器の 識別用文字列。デフォルトは空文字列を返す
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.7.0	jemaUpsBatteryLastReplaceDate	read-only	非対応、空文字列を返す
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.1.8.0	jemaUpsIdentManufacturedNumber	read-only	UPS の製造番号 [ユーザ設定]画面のシリアル番号を返す
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.1.0	jemaUpsBatteryStatus	read-only	UPS のバッテリーの残存容量 2: バッテリ正常時 3: バッテリ容量低下時
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.2.0	jemaUpsSecondsOnBattery	read-only	バックアップを開始してからの経過時間 バックアップ中以外は、0 を返す。 秒単位
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.3.0	jemaUpsEstimatedMinutesRemaining	read-only	現在の負荷状態において予測される バックアップ可能残時間(単位:分)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.4.0	jemaUpsEstimatedChargeRemaining	read-only	満充電に対する%表示として予測される バッテリー残充電容量
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.5.0	jemaUpsBatteryVoltage	read-only	バッテリー電圧値(単位:0.1V)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.6.0	jemaUpsBatteryCurrent	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.7.0	jemaUpsBatteryTemperature	read-only	バッテリー温度又はその周辺温度 (単位:°C)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.8.0	jemaUpsBatteryLastReplaceDate	read-write	バッテリー交換年月日 デフォルトでは空文字列
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.2.10.0	jemaUpsBatteryLifeTimeRemaining	read-only	予測されるバッテリー交換残期間 (単位:月)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.1.0	jemaUpsInputLineBads	read-only	入力電圧が仕様範囲外になった回数 (Web/SNMP カードのカウント・電源リセットで初期 化)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.2.0	jemaUpsInputNumLines	read-only	UPS への入力ライン数 常に"1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.2.1	jemaUpsInputFrequency	read-only	入力周波数(単位:0.1Hz)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.3.1	jemaUpsInputVoltage	read-only	入力電圧(単位:V)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.4.1	jemaUpsInputCurrent	read-only	入力電流 単位:0.1A
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.5.1	jemaUpsInputTruePower	read-only	入力電力値 単位:W

識別子(JEMA MIB)	名 前	Read/Write	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.6.1	jemaUpsInputPhase	read-only	入力相数
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.7.1	jemaUpsInputVoltage1	read-only	入力電圧(実効値) 単位(V)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.8.1	jemaUpsInputVoltage2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.9.1	jemaUpsInputVoltage3	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.10.1	jemaUpsInputCurrent1	read-only	入力電流(実効値)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.11.1	jemaUpsInputCurrent2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.12.1	jemaUpsInputCurrent3	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.3.3.1.13.1	jemaUpsInputCurrent4	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.1.0	jemaUpsOutputSource	read-only	出力への電源供給状態 1:不明 2:供給源なし(UPS 出力停止中) 3:正常状態 5:バックアップ(バッテリー運転)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.2.0	jemaUpsOutputFrequency	read-only	出力周波数(単位:0.1Hz)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.3.0	jemaUpsOutputNumLines	read-only	出力ライン数 常に"1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.2.1	jemaUpsOutputVoltage	read-only	出力電圧(実効値、単位:V)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.3.1	jemaUpsOutputCurrent	read-only	出力電流値 単位:0.1A
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.4.1	jemaUpsOutputPower	read-only	出力電力値 単位(W)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.5.1	jamaupsOutputPercentLoad	read-only	負荷率を表示 単位:%
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.6.1	jemaUpsOutputStatus	read-only	出力ライン(系統)別の給電状態 1:不明 2:給電停止 3:給電中
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.7.1	jemaUpsOutputPhase	read-only	出力相数 "2:单相2線"固定
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.8.1	jemaUpsOutputVoltage1	read-only	出力電圧(実効値)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.9.1	jemaUpsOutputVoltage2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.10.1	jemaUpsOutputVoltage3	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.11.1	jemaUpsOutputCurrent1	read-only	出力電流(実効値)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.12.1	jemaUpsOutputCurrent2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.13.1	jemaUpsOutputCurrent3	read-only	非対応"-1"

識別子(JEMA MIB)	名 前	Read/Write	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.14.1	jemaUpsOutputCurrent4	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.15.1	jemaUpsOutputPercentLoad1	read-only	負荷率を表示 単位:%
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.16.1	jemaUpsOutputPercentLoad2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.4.4.1.17.1	jemaUpsOutputPercentLoad3	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.1.0	jemaUpsBypassFrequency	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.2.0	jemaUpsBypassNumLines	read-only	バイパスのライン数 常に"1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.2.1	jemaUpsBypassVoltage	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.3.1	jemaUpsBypassCurrent	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.4.1	jemaUpsBypassPower	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.5.1	jemaUpsBypassPhase	read-only	バイパスの相数 "2:単相 2線"固定
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.6.1	jemaUpsBypassVoltage1	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.7.1	jemaUpsBypassVoltage2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.8.1	jemaUpsBypassVoltage3	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.9.1	jemaUpsBypassCurrent1	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.10.1	jemaUpsBypassCurrent2	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.11.1	jemaUpsBypassCurrent3	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.5.3.1.12.1	jemaUpsBypassCurrent4	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.1.0	jemaUpsAlarmFatalFaultStatus	read-only	重故障状態 UPS のアラームを表示 -1:重故障なし
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.2.0	jemaUpsAlarmFatalFaultDetail	read-only	重故障詳細情報 [0]Inverter over voltage [1]Inverter under voltage [26]Rectifier input over current [27]Inverter output over current [28]DC over voltage [29]DC under voltage [31]Inverter failure [33]Bypass breaker failure [58]Output shortcircuit [73]Heatsink temperature failure [79]Inverter control board self-test failure [82]EEPROM checksum fail [117]Inverter voltage bias error [122]Parallel Inverter failure [157]Switching failure [165]Overload on level3 [193]Fan failure [195]Backfeed contact failure [224]EEPROM data error

識別子(JEMA MIB)	名 前	Read/Write	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.3.0	jemaUpsAlarmFaultStatus	read-only	軽故障状態 -1: 軽故障なし
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.4.0	jemaUpsAlarmFaultDetail	read-only	軽故障詳細情報 [34]Charger failure [63]Internal communication failure [68]Battery over voltage [123]Parallel Inverter failure [208]Unable to charge batteries [219]AutoCalibration failed
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.5.0	jemaUpsAlarmWarningStatus	read-only	UPS 警告状態 UPS の警告状態を示す -1: 警告なし 1: 警告発生中 警告条件 (入力異常 or バッテリ異常時 or 過負荷 or 温度異常 or 通信異常)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.6.0	jemaUpsAlarmWarningDetail	read-only	警告詳細情報 [6]Input over voltage [7]Input under voltage [8]Input frequency failure [25]Output overload [56]Low battery [57]Utility power failure [59]Utility power not present [126]Abnormally low battery [143]On Manual/Maintenance bypass [149]Needs battery maintenance [159]Overload on level1 [162]Overload on level2 [168]UPS on battery [170]Load dumped [174]Low battery shutdown [176]Software incompatibility detected [191]Battery test failed [199]Battery disconnect [203]Ambient over temperature [217]Input breaker failed
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.7.0	jemaUpsAlarmCautionDetail	read-only	注意詳細情報 [12]Emergency powerOff [16]Configuration error [105]Bypass not available [132]Loss of redundancy [169]UPS on bypass [171]Load on inverter [194]Site wiring error [221]Inverter output failure
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.8.0	jemaUpsAlarmInputBadStatus	read-only	入力異常状態 UPS の入力異常状態を示す -1: 入力異常なし 1: 入力異常発生中
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.10.0	jemaUpsAlarmOutputOverloadStatus	read-only	出力過負荷状態 UPS の出力過負荷状態を示す -1: 出力過負荷なし 1: 出力過負荷発生中
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.11.0	jemaUpsAlarmBatteryBadStatus	read-only	バッテリー異常状態 バッテリーの劣化などの異常を示す -1: バッテリ異常なし 1: バッテリ異常発生中
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.12.0	jemaUpsAlarmBatteryBadDetail	read-only	バッテリー異常詳細情報 バッテリー異常発生時 “Battery Low or Weak”を返す

識別子(JEMA MIB)	名 前	Read/Write	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.13.0	jemaUpsAlarmTempBadStatus	read-only	温度異常状態 UPS 内部又は関連する場所の 温度状態を示す -1: 温度異常なし 1: 温度異常発生中
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.6.14.0	jemaUpsAlarmTempBadDetail	read-only	温度異常詳細情報 非対応(空文字列)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.1.0	jemaUpsTestId	read-write	テスト ID テストの実行は下記の手順で行います。 1: jemaUpsTestSpinLock 値の read。 2: read した jemaUpsTestSpinLock 値の設定。 3: jemaUpsTestQuickBatteryTest の識別子を設定 jemaUpsTestQuickBatteryTest (.1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.7.4)以外未対応 初期値(.1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.7.1)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.2.0	jemaUpsTestSpinLock	read-write	テスト・サブシステム上の 排他制御 テストが実行で値が 1 増加 (初期値 1)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.3.0	jemaUpsTestResultsSummary	read-only	最後に実行された UPS 診断テスト結果 1: 正常終了 2: 警告 3: エラー 4: 中断、又はテスト不可 5: 実行中 6: 実行されたものなし (初期値)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.4.0	jemaUpsTestResultsDetail	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.5.0	jemaUpsTestStartTime	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.6.0	jemaUpsTestElapsedTime	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.7.7.0	jemaUpsShutdownType	read-only	UPS のシャットダウンタイプ 常に"1"
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.78.0	jemaUpsOutputControlNumLines	read-only	出力制御ライン数 EX100 シリーズ 2
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.2.1	jemaUpsShutdownAfterDelay	read-write	出力停止ディレー(負荷セグメント1) 秒単位で設定された時間後に出力を停止する 設定値を 0 にすると、出力停止が実行 設定値-1 にするとカウントダウンが中断 停止動作(イベント)設定の UPS 出力停止遅延時間 より短い値を設定しても、停止動作(イベント)設定 での UPS 出力停止遅延時間で UPS の出力は停止 します。
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.2.2	jemaUpsShutdownAfterDelay	read-write	出力停止ディレー(負荷セグメント2) 秒単位で設定された時間後に出力を停止する 設定値を 0 にすると、出力停止が実行 設定値-1 にするとカウントダウンが中断 停止動作(イベント)設定の UPS 出力停止遅延時間 より短い値を設定しても、停止動作(イベント)設定 での UPS 出力停止遅延時間で UPS の出力は停止 します。
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.3.1	jemaUpsStartupAfterDelay	read-write	出力開始ディレー(負荷セグメント1) 秒単位で設定された時間後に出力を再開 設定を 0 にすると、出力が再開 -1 にするとカウントダウンが中断
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.3.2	jemaUpsStartupAfterDelay	read-write	出力開始ディレー(負荷セグメント2) 秒単位で設定された時間後に出力を再開 設定を 0 にすると、出力が再開 -1 にするとカウントダウンが中断

識別子(JEMA MIB)	名 前	Read/Write	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.4.1	jemaUpsRebootWithDuration	read-write	出力再起動ディレー(負荷セグメント 1) UPS は停止動作(イベント)設定の UPS 出力停止遅延時間で出力を停止し、 秒単位で設定された時間後に UPS は出力を再開
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.4.2	jemaUpsRebootWithDuration	read-write	出力再起動ディレー(負荷セグメント 2) UPS は停止動作(イベント)設定の UPS 出力停止遅延時間で出力を停止し、 秒単位で設定された時間後に UPS は出力を再開
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.8.3.1.5.2	jemaUpsAutoRestart	read-write	出力オートリスタート設定(負荷セグメント 2) 1:オン 2:オフ 停電後の出力が停止後、復電時の動作
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.1.0	jemaUpsConfigInputVoltage	read-only	公称入力電圧(装置定格)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.2.0	jemaUpsConfigInputFreq	read-only	公称入力周波数(装置定格)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.3.0	jemaUpsConfigOutputVoltage	read-only	公称出力電圧(装置定格)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.4.0	jemaUpsConfigOutputFreq	read-only	公称出力周波数(装置定格)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.5.0	jemaUpsConfigOutputVA	read-only	公称出力皮相電力定格(装置定格)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.6.0	jemaUpsConfigOutputPower	read-only	公称出力電力定格(装置定格)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.7.0	jemaUpsConfigLowBattTime	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.8.0	jemaUpsConfigAudibleStatus	read-write	ブザーON/OFF 1:無効 2:有効 3:中断(非対応)
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.9.0	jemaUpsConfigLowVoltageTransferPoint	read-only	入力低電圧切換値
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.10.0	jemaUpsConfigHighVoltageTransferPoint	read-only	入力高電圧切換値
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.11.0	jemaUpsConfigTransferTrapControl	read-write	トラップ送出レベル 1:重故障のみ送出 2:重故障, 軽故障, 軽故障回復を送出 3:重故障, 軽故障, 軽故障回復, 警告, 警告回復 を送出 4:すべてのトラップを送出
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.12.0	jemaUpsConfigIntervalTrapControl	read-write	JemaUpsTrapAny 制御 1:jemaUpsTrapAny の送出無効 2:jemaUpsTrapAny の送出有効 3:jemaUpsTrapAny の送出中止
1.3.6.1.4.1.4550.1.1.9.13.0	jemaUpsConfigIntervalTrapTime	read-write	Trap 送出間隔

JEMA MIB (Trap) 対応一覧

識別子(JEMA MIB Trap)	名 前	備考
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.1	jemaUpsTrapOnBattery	UPS がバックアップ運転中。 UPS が停止又は、バックアップ運転が解除されるまで 1 分間隔で送信される
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.2	jemaUpsTrapTestCompleted	UPS テスト完了を通知する。
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.3	jemaUpsTrapInputBad	UPS への入力電圧が仕様範囲外
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.4	jemaUpsTrapInputBadRemoved	UPS への入力電圧が仕様範囲外から復帰
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.5	jemaUpsTrapBatteryLow	バッテリー容量の低下 詳細は jemaUpsBatteryStatus を参照
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.6	jemaUpsTrapOutputOverload	UPS の出力過負荷状態
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.7	jemaUpsTrapOutputOverloadRemoved	UPS の出力の過負荷状態からの回復
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.8	upsTrapBatteryBad	バッテリーの交換が必要
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.9	jemaUpsTrapTempBad	温度が仕様範囲外 温度異常内容の詳細情報は upsAlarmTempBadDetail を参照
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.10	jemaUpsTrapTempBadRemoved	温度の仕様範囲外からの回復
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.11	jemaUpsTrapCommunicationsLost	エージェントと UPS 間の通信が異常
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.12	jemaUpsTrapCommunicationsLostRemoved	エージェントと UPS 間の通信異常からの回復
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.13	jemaUpsTrapConfigChange	未対応
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.14	jemaUpsTrapFatalFault	UPS に重故障発生 UPS にバックアップ運転が不可能となる 重故障が発生した時に通知
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.15	jemaUpsTrapFault	UPS に軽故障発生 軽故障が発生した時に通知する。 軽故障の詳細情報は、jemaUpsAlarmFaultDetail を参照
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.16	jemaUpsTrapFaultRemoved	UPS の軽故障復帰時
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.17	jemaUpsTrapWarning	UPS からの警告発生 故障以外の異常が発生した場合に通知 警告内容の詳細情報は、jemaUpsAlarmWarningDetail を参照
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.18	jemaUpsTrapWarningRemoved	UPS からの警告復帰時
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.19	jemaUpsTrapCaution	UPS からの注意情報発生 U 情報内容の詳細は、jemaUpsAlarmCautionDetail を参照
1.3.6.1.4.1.4550.1.2.20	jemaUpsTrapAny	下記の何れかの Status が異常状態を示している時 jemaUpsConfigIntervalTrapControl 及び jemaUpsConfigIntervalTrapTime の設定に従ってトラップを発生する。 jemaUpsAlarmFatalFaultStatus, jemaUpsAlarmFaultStatus jemaUpsAlarmWarningStatus, jemaUpsAlarmInputBadStatus jemaUpsAlarmOutputOverloadStatus, jemaUpsAlarmBatteryBadStatus jemaUpsAlarmTempBadStatus

UPS-MIB (RFC1628) 対応一覧

識別子(UPS-MIB)	名 前	read/write	備考
1.3.6.1.2.1.33.1.1.1.0	upsIdentManufacturer	read-only	UPS 製造業者名称 Fuji Electric Co.,Ltd.
1.3.6.1.2.1.33.1.1.2.0	upsIdentModel	read-only	UPS 型式名を表示
1.3.6.1.2.1.33.1.1.3.0	upsIdentUPSSoftwareVersion	read-only	UPS ファームウェア及びソフトウェアバージョン
1.3.6.1.2.1.33.1.1.4.0	upsIdentAgentSoftwareVersion	read-only	Web/SNMPカードのファームウェアバージョン
1.3.6.1.2.1.33.1.1.5.0	upsIdentName	read-write	UPS 識別用文字列 デフォルトは空文字列
1.3.6.1.2.1.33.1.1.6.0	upsIdentAttachedDevices	read-write	UPS の出力に接続されている機器の 識別用文字列。デフォルトは空文字列を返す
1.3.6.1.2.1.33.1.2.1.0	upsBatteryStatus	read-only	バッテリー状態を表示 2: バッテリ正常 3: バッテリ容量低下
1.3.6.1.2.1.33.1.2.2.0	upsSecondsOnBattery	read-only	バックアップを開始してからの経過時間 バックアップ中以外は、0 を返す。 秒単位
1.3.6.1.2.1.33.1.2.3.0	upsEstimatedMinutesRemaining	read-only	バックアップ可能時間を表示 単位:分
1.3.6.1.2.1.33.1.2.4.0	upsEstimatedChargeRemaining	read-only	バッテリー充電容量を表示 単位:%
1.3.6.1.2.1.33.1.2.5.0	upsBatteryVoltage	read-only	バッテリー電圧を表示 単位:0.1V
1.3.6.1.2.1.33.1.2.6.0	upsBatteryCurrent	read-only	非対応"-1"
1.3.6.1.2.1.33.1.2.7.0	upsBatteryTemperature	read-only	周囲温度を表示 単位:℃
1.3.6.1.2.1.33.1.3.1.0	upsInputLineBads	read-only	入力電圧が仕様範囲外になった回数 (Web/SNMP カードのカウント・電源リセットで初期 化)
1.3.6.1.2.1.33.1.3.2.0	upsInputNumLines	read-only	UPS への入力ライン数 常に"1"
1.3.6.1.2.1.33.1.3.3.1.2.1	upsInputFrequency	read-only	入力周波数を表示 単位:0.1Hz
1.3.6.1.2.1.33.1.3.3.1.3.1	upsInputVoltage	read-only	入力電圧を表示 単位:V
1.3.6.1.2.1.33.1.3.3.1.4.1	upsInputCurrent	read-only	入力電流 単位:0.1A
1.3.6.1.2.1.33.1.3.3.1.5.1	upsInputTruePower	read-only	入力電力値 単位:W
1.3.6.1.2.1.33.1.4.1.0	upsOutputSource	read-only	出力への電源供給状態を表示 2: UPS 出力停止中 3: 正常 4: バイパス 5: バックアップ運転中
1.3.6.1.2.1.33.1.4.2.0	upsOutputFrequency	read-only	出力周波数 単位:0.1Hz
1.3.6.1.2.1.33.1.4.3.0	upsInputCurrent	read-only	出力ライン数 常に"1"
1.3.6.1.2.1.33.1.4.4.1.2.1	upsOutputVoltage	read-only	出力電圧を表示 単位:V
1.3.6.1.2.1.33.1.4.4.1.3.1	upsOutputCurrent	read-only	出力電流値 単位:0.1A
1.3.6.1.2.1.33.1.4.4.1.4.1	upsOutputPower	read-only	出力電力値 単位 (W)

識別子(UPS-MIB)	名 前	read/write	備考
1.3.6.1.2.1.33.1.4.4.1.5.1	upsOutputPercentLoad	read-only	負荷率を表示 単位:%
1.3.6.1.2.1.33.1.5.1.0	upsBypassFrequency	read-only	バイパス周波数 非対応"-1"
1.3.6.1.2.1.33.1.5.2.0	upsBypassNumLines	read-only	バイパスのライン数 常に"1"
1.3.6.1.2.1.33.1.5.3.1.2.1	upsBypassVoltage	read-only	バイパス電圧値(実効値) 非対応"-1"
1.3.6.1.2.1.33.1.5.3.1.3.1	upsBypassCurrent	read-only	バイパス電流値(実効値) 非対応"-1"
1.3.6.1.2.1.33.1.5.3.1.4.1	upsBypassPower	read-only	バイパス電力値 非対応"-1"
1.3.6.1.2.1.33.1.6.1.0	upsAlarmsPresent	read-only	現在発生している警報の数
1.3.6.1.2.1.33.1.6.2.1.2.*	upsAlarmTable	read-only	警報説明オブジェクトへの参照
1.3.6.1.2.1.33.1.6.2.1.3.*	upsAlarmEntry	read-only	警報状態が検出された sysUpTime の値
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.1	upsAlarmBatteryBad	not-access	バッテリーの交換が必要
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.2	upsAlarmOnBattery	not-access	UPS がバックアップ運転中 入力過電圧 入力不足電圧 入力周波数異常 電源障害(入力異常) 電源障害(停電)
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.3	upsAlarmLowBattery	not-access	バッテリー容量低下
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.4	upsAlarmDepletedBattery	not-access	バッテリー電圧低下停止
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.5	upsAlarmTempBad	not-access	周囲温度上時
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.6	upsAlarmInputBad	not-access	入力在使用範囲から外
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.7	upsAlarmOutputBad	not-access	出力が使用範囲
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.8	upsAlarmOutputOverload	not-access	出力過負荷状態
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.9	upsAlarmOnBypass	not-access	バイパス運転中
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.10	upsAlarmBypassBad	not-access	バイパスが使用範囲
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.11	upsAlarmOutputOffAsRequested	not-access	UPS シャットダウン要求時
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.12	upsAlarmUpsOffAsRequested	not-access	未使用
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.13	upsAlarmChargerFailed	not-access	UPS の充電器が回復不能な異常検出
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.14	upsAlarmUpsOutputOff	not-access	UPS の出力がオフ状態
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.15	upsAlarmUpsSystemOff	not-access	未使用
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.16	upsAlarmFanFailure	not-access	UPS のファン異常検出

識別子(UPS-MIB)	名 前	read/write	備考
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.17	upsAlarmFuseFailure	not-access	ヒューズ切れ検出
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.18	upsAlarmGeneralFault	not-access	重故障検時 [001] INV 出力過電圧 [002] INV 出力不足電圧 [003] 整流器入力過電流 [004] INV 出力過電流 [005] 直流過電圧 [006] 直流不足電圧 [007] INV 故障 [013] INV 出力直流成分異常 [018] バックフィード接触器異常
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.19	upsAlarmDiagnosticTestFailed	not-access	最新のテスト結果が異常 [012] EEPROM チェックサム異常 [016] バッテリテスト失敗 [016] EEPROM データエラー
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.20	upsAlarmCommunicationsLost	not-access	Web/SNMP Card と UPS 間の通信が異常中
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.21	upsAlarmAwaitingPower	not-access	未使用
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.22	upsAlarmShutdownPending	not-access	未使用
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.23	upsAlarmShutdownImminent	not-access	未使用
1.3.6.1.2.1.33.1.6.3.24	upsAlarmTestInProgress	not-access	テストグループにより示され、実行されるテストが進行中。
1.3.6.1.2.1.33.1.7.1.0	upsTestId	read-write	テストの実行は下記の手順で行います。 1:jemaUpsTestSpinLock 値の read。 2:read した jemaUpsTestSpinLock 値の設定。 3:jemaUpsTestQuickBatteryTest の識別子を設定 jemaUpsTestQuickBatteryTest (.1.3.6.1.2.1.33.1.7.7.4)以外未対応 初期値(.1.3.6.1.2.1.33.1.7.7.1)
1.3.6.1.2.1.33.1.7.2.0	upsTestSpinLock	read-write	テスト・サブシステム上の 排他制御 テストが実行で値が 1 増加 (初期値 1)
1.3.6.1.2.1.33.1.7.3.0	upsTestResultsSummary	read-only	最後に実行された UPS 診断テスト結果 1:正常終了 2:警告 3:エラー 4:中断、又はテスト不可 5:実行中 6:実行されたものなし (初期値)
1.3.6.1.2.1.33.1.7.4.0	upsTestResultsDetail	read-write	非対応(-1)
1.3.6.1.2.1.33.1.7.5.0	upsTestStartTime	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.2.1.33.1.7.6.0	upsTestElapsedTime	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.2.1.33.1.8.1.0	upsShutdownType	read-only	UPS のシャットダウンタイプ 常に"1"
1.3.6.1.2.1.33.1.8.2.0	upsShutdownAfterDelay	read-write	出力停止ディレー 指定した時間後に UPS の出力が停止する

識別子(UPS-MIB)	名 前	read/write	備考
			<p>設定した秒数を分単位に 換算(少数点以下を切捨て)された値で実行</p> <p>snmpget では初期状態で -1 snmpset を実行後では UPS 出力停止までの カウント中の時間が取得されること</p> <p>snmpget で取得できるカウント時間は snmpset 実行時の値が格納されるが 停止動作(イベント)設定画面の 出力停止遅延時間の方が長い場合は その時間からカウントダウンが始まり、 残り時間が snmpset の時間になると 格納された値が減少</p>
1.3.6.1.2.1.33.1.8.3.0	upsStartupAfterDelay	read-write	<p>出力開始ディレー 指定した時間後に UPS は出力を開始する</p> <p>snmpget では初期状態で -1 snmpset 実行後では UPS 出力再開までの カウント中の時間が取得されること</p>
1.3.6.1.2.1.33.1.8.4.0	upsRebootWithDuration	read-write	<p>出力再起動ディレー 実行後、UPS は出力を停止し、指定した 時間後に UPS は出力を再開する</p> <p>設定した秒数を分単位に換算 (少数点以下を切捨て)された値で実行</p> <p>最大 5 分まで</p> <p>snmpget では初期状態で -1 snmpset 実行後では UPS 出力再開までの カウント中の時間が取得されること</p>
1.3.6.1.2.1.33.1.8.5.0	upsAutoRestart	read-write	<p>出力オートリスタート設定</p> <p>1:オン 2:オフ 停電後の出力が停止後、復電時の動作</p>
1.3.6.1.2.1.33.1.9.1.0	upsConfigInputVoltage	read-only	公称入力電圧(装置定格)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.2.0	upsConfigInputFreq	read-only	公称入力周波数(装置定格)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.3.0	upsConfigOutputVoltage	read-only	公称出力電圧(装置定格)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.4.0	upsConfigOutputFreq	read-only	公称出力周波数(装置定格)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.5.0	upsConfigOutputVA	read-only	公称出力皮相電力定格(装置定格)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.6.0	upsConfigOutputPower	read-only	公称出力電力定格(装置定格)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.7.0	upsConfigLowBattTime	read-only	非対応(-1)
1.3.6.1.2.1.33.1.9.8.0	upsConfigAudibleStatus	read-write	<p>ブザーON/OFF</p> <p>1:無効 2:有効 3:中断(非対応)</p>
1.3.6.1.2.1.33.1.9.9.0	upsConfigLowVoltageTransferPoint	read-only	入力低電圧切換値
1.3.6.1.2.1.33.1.9.10.0	upsConfigHighVoltageTransferPoint	read-only	入力高電圧切換値

UPS-MIB (RFC1628) (Trap) 対応一覧

識別子(UPS-MIB Trap)	名 前	備考
1.3.6.1.2.1.33.2.1	upsTrapOnBattery	UPS がバックアップ運転中。 UPS が停止又は、バックアップ運転が解除されるまで 1 分間隔で送信される
1.3.6.1.2.1.33.2.2	upsTrapTestCompleted	UPS テスト完了を通知する。
1.3.6.1.2.1.33.2.3	upsTrapAlarmEntryAdded	警報テーブルに新規の警報
1.3.6.1.2.1.33.2.4	upsTrapAlarmEntryRemoved	警報テーブルから警報が削除時

PRIVATE MIB 対応一覧

識別子(PRIVATE MIB)	名 前	read/write	備考
1.3.6.1.4.1.1356.1.1.1.0	upsIdentModelName	read-only	UPS モデル名称
1.3.6.1.4.1.1356.1.1.2.0	upsIdentUpsIDName	read-write	UPS 識別用文字列デフォルトは空文字列
1.3.6.1.4.1.1356.1.2.1.0	upsBatteryStatus	read-only	UPS のバッテリーの状態 1: 不明 2: バッテリ正常 3: バッテリ容量低下
1.3.6.1.4.1.1356.1.2.2.0	upsBatteryCapacity	read-only	満充電に対する%表示として予測されるバッテリー 残充電容量
1.3.6.1.4.1.1356.1.2.3.0	upsBatteryVoltage	read-only	バッテリー電圧値(単位:V)
1.3.6.1.4.1.1356.1.2.4.0	upsBatteryTemperature	read-only	バッテリー温度又はその周辺温度(単位:°C)
1.3.6.1.4.1.1356.1.2.5.0	upsBatteryRunTimeRemaining	read-only	現在の負荷状態において予測される バックアップ可能残時間(単位:秒)
1.3.6.1.4.1.1356.1.2.6.0	upsBatteryLifeTimeRemaining	read-only	予測されるバッテリー交換残期間(単位:日) (UPS 設定のバッテリー残寿命減算処理禁止 ON 時には表示されません)
1.3.6.1.4.1.1356.1.3.1.0	upsInputLineVoltage	read-only	入力電圧(単位:V)
1.3.6.1.4.1.1356.1.3.2.0	upsInputLineFrequence	read-only	入力周波数(単位:Hz)
1.3.6.1.4.1.1356.1.4.1.0	upsOutputStatus	read-only	出力への電源供給状態 出力供給源 5: 出力停止中 2: 正常状態 3: バックアップ(バッテリー運転)
1.3.6.1.4.1.1356.1.4.2.0	upsOutputLoad	read-only	出力負荷率(単位:%) UPS 定格出力電力に対する実際の出力電力の 割合
1.3.6.1.4.1.1356.1.4.3.0	upsOutputFrequency	read-only	出力周波数(単位:Hz)
1.3.6.1.4.1.1356.1.4.4.0	upsOutputVoltage	read-only	出力電圧(単位:V)
1.3.6.1.4.1.1356.1.5.1.0	upsRunTest	read-write	指定されたテストを実施する。
1.3.6.1.4.1.1356.1.6.1.0	upsRunShutdownRestore	read-write	"upsShutdownSecs", "upsRestoreSecs" で決定し た 遅延時間でシャットダウン・リストアを実行する 0: 動作しない 1: シャットダウン 2: リストア 3: シャットダウン・リストア

識別子 (PRIVATE MIB)	名 前	read/write	備考
1.3.6.1.4.1.1356.1.6.2.0	upsShutdownSecs	read-write	UPS が出力を停止するまでの時間を設定する (単位:秒) UPS 再起動遅延時間を設定する入力された秒を四捨五入により分単位に変更する 停止動作(イベント)設定のUPS出力停止遅延時間より短い値を設定しても、停止動作(イベント)設定でのUPS出力停止遅延時間でUPSの出力は停止します。
1.3.6.1.4.1.1356.1.6.3.0	upsRestoreSecs	read-write	UPS が出力を再出力するまでの時間を設定する(単位:秒) UPS 再起動遅延時間を設定する。入力された秒を四捨五入により分単位に変更する。
1.3.6.1.4.1.1356.1.7.1.0	upsAlarmFatalFaultStatus	read-only	重故障状態 0:故障なし 1:故障中
1.3.6.1.4.1.1356.1.7.2.0	upsAlarmWarningStatus	read-only	UPS 警告状態 UPS の警告状態を示す 0:警告なし 1:警告発生中 警告条件 (入力異常 or バッテリ異常時 or 過負荷 or 温度異常 or 通信異常)
1.3.6.1.4.1.1356.1.7.3.0	upsAlarmInputBadStatus	read-only	入力異常状態 UPS の入力異常状態を示す。 0:入力異常なし 1:入力異常発生中
1.3.6.1.4.1.1356.1.7.4.0	upsAlarmOutputOverloadStatus	read-only	出力過負荷状態 UPS の出力過負荷状態を示す。 0:出力過負荷なし 1:出力過負荷発生中
1.3.6.1.4.1.1356.1.7.5.0	upsAlarmBatteryBadStatus	read-only	バッテリー異常状態 バッテリーの劣化などの異常を示す。 0:バッテリー異常なし 1:バッテリー異常発生中
1.3.6.1.4.1.1356.1.7.6.0	upsAlarmTempBadStatus	read-only	温度異常状態 UPS 内部又は関連する場所の温度状態を示す。 0:温度異常なし 1:温度異常発生中

PRIVATE MIB (Trap) 一覧

識別子(PRIVATE Trap)	名 前	備考
1.3.6.1.4.1.1356.0.1	communicationLost	エージェントとUPS間の通信が異常
1.3.6.1.4.1.1356.0.2	upsOverload	UPSの出力過負荷状態
1.3.6.1.4.1.1356.0.3	upsTurnedOff	UPSの出力停止時
1.3.6.1.4.1.1356.0.4	communicationEstablished	エージェントとUPS間の通信異常からの回復
1.3.6.1.4.1.1356.0.5	powerRestored	UPSへの入力電圧が仕様範囲外から復帰した
1.3.6.1.4.1.1356.0.6	upsOnBattery	UPSは、バックアップ運転中。 このトラップは、UPSが停止するか、 バックアップ運転が解除されるまで1分間隔で送信する
1.3.6.1.4.1.1356.0.7	testStarted	UPSテスト開始を通知する
1.3.6.1.4.1.1356.0.8	testCompleted	UPSテスト完了を通知する
1.3.6.1.4.1.1356.0.9	upsBatteryLow	バッテリー容量の低下 upsBatteryStatus 参照
1.3.6.1.4.1.1356.0.10	upsShutdownImminent	サービシャットダウン(UPS出力停止遅延時間のカウントダウン 開始)を通知する
1.3.6.1.4.1.1356.0.12	upsmanTrapInputBad	UPSへの入力電圧が仕様範囲外である
1.3.6.1.4.1.1356.0.13	upsmanTrapOutputOverloadRemoved	UPSの出力過負荷からの回復
1.3.6.1.4.1.1356.0.14	upsmanTrapBatteryBad	バッテリーの交換が必要
1.3.6.1.4.1.1356.0.15	upsmanTrapTempBad	温度が仕様範囲外
1.3.6.1.4.1.1356.0.16	upsmanTrapTempBadRemoved	温度の仕様範囲外からの回復
1.3.6.1.4.1.1356.0.17	upsmanTrapFatalFault	UPSに重故障発生 UPSにバックアップ運転が不可能となる 重故障が発生した時に通知する

第5章 FAQ

5.1. Webモニタ画面が表示されない。

始めに UPS が正常に動作しているか確認してください。Web/SNMPカードの RUN LED(緑)が点灯しているか確認してください。10/100BASE-Tケーブルがルーター等の接続機器に接続されていることを確認して下さい。

ブラウザのアドレス(場所)欄に入力したIPアドレスが初期設定でWeb/SNMPカードに登録したIPアドレスと同じであることを確認して下さい。Web/SNMPカードに登録したIPアドレスが不明な時は、Web/SNMPカード インストールガイドの 4.1.2 シリアル通信による設定方法を参照して初期設定を再度実行してください。

上記問題点を解決している場合、Web/SNMPカードの RESET スイッチを押してWeb/SNMPカードをリブート(リブート時間は約 3 分)して下さい。

5.2. 左フレームに“ユーザ名、またはパスワードが間違っています”と表示される

入力したユーザ名、パスワードに誤りがあります。デフォルトでは下記のように設定されています

ユーザ名	FUJI
パスワード	FUJI

ユーザ名、パスワードを変更している場合はWeb/SNMPカード・インストールガイドの 4.1.2 シリアル通信による設定方法を参照し、必要であればユーザ名とパスワードの変更を行って再度ログインを試して下さい。

5.3. 左フレームに“既に他のユーザがログインしています”と表示される。

同時に複数ユーザのログインは出来ません。ログイン済みのユーザがログアウトしてから、ログインを試して下さい。

* ログインしているユーザがない場合

以前にログインユーザが左フレームの[ログアウト]リンクを選択せずにブラウザを終了、またはWeb/SNMPカードと通信を切断した可能性があります。その場合、【UPS 管理画面】の【一般設定】で設定されているオートログアウトの時間を経過しないと、既存のログインユーザがいなくても、ログインは出来ません。オートログアウト時間経過後にログインを行うか、Web/SNMPカードの RESET スイッチを押して、Web/SNMPカードをリブート(リブート時間は約 3 分)した後ログインを行ってください。

5.4. Web/SNMPカードのIPアドレスを確認したい場合。

Web/SNMPカードのIPアドレスはRS232C通信で確認することが可能です。
確認方法は停止動作(シリアル)の設定によって異なります。

5.4.1. 停止動作(シリアル)設定「なし」または「接点(Windows)」選択時

Web/SNMPカードのRS232Cポートを使用してサーバまたはパソコン(OS:Windowsで通信ソフトが起動する環境)から行います。Web/SNMPカードのRS232CポートとパソコンまたはサーバのRS232CポートをUPSに添付しているRS232Cケーブルで接続して下さい。

- ① 通信ソフトを起動します。
ここではハイパーターミナルを使用した例を示します。
入力が必要なコマンドは全て太文字で記述してあります。
スタートメニューからプログラムのアクセサリからハイパーターミナルを起動し、
適当な名前(下記例では fuji)を入力し、アイコンを選択して“OK”ボタンを選択します。



図 5-1 ハイパーターミナル接続設定

接続方法にRS232Cケーブルを接続したポート番号(下記例ではCOM1)を選び
“OK”ボタンを選択します。COM1(接続したポート番号)のプロパティの画面が表示されます。



図 5-2 ハイパーターミナル 接続/COM ポートの設定

ポートの通信設定は以下のように設定し“OK”ボタンを選択します。

ビット/秒	9600
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	なし

- ② Web/SNMP カードの RESET スイッチを押して下さい。通信が開始されるとターミナル上に以下の表示が現れます。

注意) Web/SNMP カードは電源投入後、また RESET スイッチを押した後、約 10 秒間は以下で説明するコマンドの入力が可能 (boot モード) ですが、約 10 秒を経過すると通常モードでの起動を開始します。初期設定を行う場合は電源投入後、また RESET スイッチを押した後、10 秒以内にコマンドの入力を行う必要があります。

もし、通常モードの起動が開始してしまった場合は、login プロンプトが表示されてから約 1 分後に再度 RESET スイッチを押して下さい。通常モードの起動完了には login プロンプトが表示されてから約 1 分必要です。

```

MONITOR for Web/SNMP Card version-1.3.1   build: Jul 03 2003

file system initialize ... end

boot:

```

図 5-3 ターミナル画面1

- ③ “boot:”のプロンプトが表示されている状態で以下の設定確認用のコマンドを入力して Enter を押してください。

mon

```
MONITOR for Web/SNMP Card version-1.3.1   build: Jul 03 2003
file system initialize ... end
boot: mon
boot>
```

図 5-4 ターミナル画面2

- ④ “boot>”のプロンプトが表示されている状態で以下の設定確認用のコマンドを入力して Enter を押してください。

sysconf view

```
boot>sysconf view
Read system parameters from EEPROM ... Done!

IP address       : 10.10.10.100
Subnet mask      : 255.255.255.0
Default Gateway  : 10.10.10.1
MAC address      : 00:40:1a:30:00:00

boot>
```

図 5-5 ターミナル画面3

現在の IP Address、Subnet mask、Default Gateway が表示されます。
表示内容の確認後は、boot>”のプロンプトが表示されている状態で以下のコマンドを入力すると通常モードでの起動を開始します。

boot

注意) boot コマンド入力後 Web/SNMP カードは通常起動を開始し、login プロンプトを表示しますが通常モードの起動が完了するまでには、login プロンプト表示から 1 分ほど要します。

5.4.2. 停止動作(シリアル)設定 「コンソール」選択時

Web/SNMPカードのRS232Cポートを使用してサーバまたはパソコン(OS:Windowsで通信ソフトが起動する環境)から行います。Web/SNMPカードのRS232CポートとパソコンまたはサーバのRS232CポートをUPSに添付しているRS232Cケーブルで接続して下さい。

①通信ソフトを起動します。

設定方法は5.4.1 停止動作(シリアル)設定 「なし」 または 「接点(Windows)」選択時を参照してください。

②以下のコマンドを入力してEnterを押してください。

sysconf

```
sysconf
Read system parameters from EEPROM ... Done!

IP address      : 10.10.10.100
Subnet mask     : 255.255.255.0
Default Gateway : 10.10.10.1
MAC address     : 00:40:1a:30:00:00
```

図 5-6 ターミナル画面4

現在のIP Address、Subnet mask、Default Gatewayが表示されます。

5.4.3. 停止動作(シリアル)設定「コンソール」選択時のコンソールでのネットワーク設定

コンソールより以下のコマンドを入力して Enter を押してください。

```
sysconf set
```

注意)コンソール(Solaris)使用時には一つの文字(キー入力)を2秒未満に行わなければ連続した文字と認識されません。

“sysconf[2sec 後] set”と入力した場合“sysconf”として認識されます。

① IP アドレスの入力

“sysconf set”が認識されると設定モードに移行します。

```
Read system parameters from EEPROM ... Done!  
IP address      [100.100.100.100] >
```

図 5-7 IPアドレスの入力

設定する IP アドレスを入力して Enter を押してください。

注意)端末上でローカリエコーの設定が有効でない場合は入力データは表示されません。入力したデータは確認は IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス入力後に表示されます。

② サブネットマスクの入力

次にサブネットマスクの入力を行います。

```
Read system parameters from EEPROM ... Done!  
IP address      [100.100.100.100] >  
Subnet mask     [255.255.255.255] >
```

図 5-8 サブネットマスクの入力

設定するサブネットマスクを入力して、Enter を押してください。

③ ゲートウェイアドレスの入力

次にゲートウェイアドレスの入力を行います。

```
Read system parameters from EEPROM ... Done!  
IP address      [10.65.11.153] >  
Subnet mask     [255.255.255.255] >  
Default Gateway [10.65.11.2] >
```

図 5-9 ゲートウェイアドレスの入力

設定するゲートウェイアドレスを入力して、Enter を押してください。

④ ネットワーク設定後の確認表示

入力したデータが表示されます。

```
Read system parameters from EEPROM ... Done!  
IP address      [100.100.100.100] >  
Subnet mask     [255.255.255.255] >  
Default Gateway[100.100.100.1] >  
Setting Now IP Address  [100.100.200.100]  
Setting Now Subnet mask [255.255.255.0]  
Setting Default Gateway [10.100.200.1]  
Are you sure? (y/n) :
```

図 5-10 設定更新の確認

入力したデータに変更がなければ”Y”キーを入力してください。

入力データの確認で”y”または”Y”以外のキーを入力、またはキー入力が5秒以上無い場合は設定モードは終了されます。この場合、設定の変更は反映されません。

⑤ リブート実行の確認表示

入力データの確認で”y”または”Y”以外のキーを入力すると、リブート確認が表示されます。

```
IP address      [10.65.11.151] >  
Subnet mask     [255.255.255.0] >  
Default Gateway[10.65.11.2] >  
Setting Now IP Address  [10.65.11.153]  
Setting Now Subnet mask [255.255.255.0]  
Setting Default Gateway [10.65.11.2]  
Are you sure? (y/n) :  
Write system parameters to EEPROM ... OK  
Do you execute rebooting? (y/n) :  
now rebooting
```

図 5-11 更新完了

ネットワークの設定変更は Web/SNMP カードのリブート後に有効となります。

”y”または”Y”キーを入力すると、リブートが開始され、設定が有効となります。

”y”または”Y”以外のキーを入力した場合にリブートは実行しませんが、設定変更は完了しています。後にリブートに行くと設定が変更されます。

5.5. 設定したUPS出力停止遅延時間後にUPSの出力が停止しない。

停電発生時によるUPS出力停止遅延時間は、**3.4.10停止動作(停電)設定画面**のUPS出力停止遅延時間によって定義します。それ以外のスケジュールやイベント(故障やリブート、リモートOFF)時は**3.4.11停止動作(イベント)設定画面**のUPS出力停止遅延時間でUPSの出力が停止されます。

ただし、MIB を使用して SNMP マネージャから UPS の出力を停止させる場合には停止動作(停電)と停止動作(イベント)の停止時間を比較して、遅延時間の長い方の時間を使用して UPS の出力を停止させます。

5.6. 設定した起動時間にUPSが起動しない。

3.7UPSスケジュール設定で設定したUPSの停止から起動までの時間が、**3.4.11停止動作(イベント)設定画面**で設定したUPS出力停止遅延時間よりも短い場合、UPS出力停止遅延時間後にUPSの出力は停止しますが、出力の再開はしません。UPSの停止から起動までの時間はUPS出力停止遅延時間よりも長くなるように設定して下さい。

5.7. OSシャットダウン信号の発行遅延時間が設定できない。

OSシャットダウン信号の発行遅延時間は、**3.4.10停止動作(停電)設定画面**で設定したUPS出力停止遅延時間と**3.4.11停止動作(イベント)設定画面**で設定したUPS出力停止遅延時間よりも短い値を設定する必要があります。

例)

停止動作(停電)の UPS 出力停止遅延時間……………3 分

停止動作(イベント)の UPS 出力停止遅延時間……………3 分

上記設定の場合には OS シャットダウン信号の発行遅延時間は 2 分以内に設定する必要があります。

5.8. ネットワーク機器とのLINK DOWNが頻発する

本 Web/SNMP カードは LAN からのアクセス(ブロードキャストを含む、すべての受信)が無い場合、LAN コントローラのリセットを行っており、そのリセットによる LINK DOWN を通信機器が検出していると推測されます。このリセット機能は LAN コントローラに不具合が生じた場合、実運用での問題(停電時の動作など)が発生しないように組み込まれている仕様です。

本機能によるリセットを制御(停止)させるためには以下の方法があります。

- 1) 定期的に Web/SNMP カードに通信を行う。
- 2) 管理画面[IP Address 設定]より、死活監視の設定を OFF に変更する

死活監視は上記理由により組み込まれた仕様のため、死活監視を OFF に変更することは推奨されません。管理画面[IP Address 設定]より死活監視の時間を変更するか、Web/SNMP カードに通信を行う方法を推奨します。また、サーバに Netshut をインストールしている環境では Netshut の Web/SNMP カード監視機能で監視対象に該当 Web/SNMP カードの IP アドレスを設定することにより、Netshut が定期的に Web/SNMP カードとの通信を行いますので、LAN コントローラのリセットによる LINK DOWN は発生しなくなります。サーバに Netshut をインストールしていない環境ではサーバやその他の機器より PING の送信することによって LAN コントローラのリセットは回避されます。

第6章 用語説明

UPS	Uninterruptible Power Supply(無停電電源装置) 停電などの入力電源異常が発生しても、ある一定時間、規定の交流電力を供給する装置。
MAC Address	Media Access Control Address 各ノードを識別するために設定されている LAN カードなどのネットワーク機器のハードウェアに一意に割り当てられる物理アドレス
IP	Internet Protocol ネットワーク層を透過なインターネット環境で接続するプロトコル。
IP アドレス	Internet Protocol に従って接続された各コンピュータのネットワーク層でのアドレス、ネットワーク上の各コンピュータを特定する。
MIB	Management Information Base(管理情報ベース) SNMP マネージャがエージェントから取得または操作できる管理対象オブジェクトを定義したもの
Netshut	ネットワークシャットダウンソフトウェア Netshut は、同一ネットワーク(TCP/IP)上に存在する複数台のサーバの OS シャットダウンを可能にします。UPS の出力に複数台のサーバを接続しており、各サーバが同一ネットワーク上に存在する場合、各サーバに Netshut をインストールしてサービス(デーモン)として実行することで、それらのサーバを UPS の出力と連動してシャットダウンすることができます。Web/SNMPカードの各サーバへのシャットダウンの設定は WWW クライアントから可能です。
SNMP	Simple Network Management Protocol マネージャとエージェントの間で交換される情報を定義する。 ネットワーク管理の為にフレームワークとして使用される。
SNMPトラップ	SNMP エージェントからネットワーク管理ステーション(SNMP マネージャ)に自発的に送出されるメッセージのこと Web/SNMPカードでは SNMP トラップとして電源異常、バッテリー異常などを設定し、UPS の状態通知に使用しています。
telnet	Telecommunication network 汎用的な双方向 8 ビット通信を提供する端末間およびプロセス間の通信プロトコル。
rsh	Remote Shell コンピュータネットワーク経由で、別コンピュータ上のシェルコマンドを実行したりするプログラム。

WOL	Wake On LAN コンピュータネットワーク(主に LAN)に繋がっているコンピュータの電源操作(投入、シャットダウンなど)を遠隔で操作する AMD が開発した技術。 マザーボード、ネットワークカード、BIOS、オペレーティングシステムなどが WOL に対応している必要があります。
負荷セグメント	UPS の出力コンセントをセグメント単位で、ON/OFF 制御する機能。
復電	停電後、入力電圧の範囲が定格仕様内に戻った状態。
過負荷状態	接続機器の容量が定格仕様を超えている状態。
過放電状態	バッテリー容量が空になり、劣化が進み、充電ができなくなった状態。
電圧異常	入力電圧の範囲が定格仕様外になっている状態。
入力電源	UPS に電力を供給する電源。入力商用電源。
入力電源異常	入力電源の電圧が定格仕様外、または周波数が定格仕様外になっている状態。
放電終止	UPS 内部のバッテリー容量が空になり、バッテリー運転が停止した状態。
接続機器	UPS に接続する機器(サーバやパソコンなど)。負荷機器。
負荷	UPS に接続する機器。